

鹿児島県史料集(Ⅰ)

丁丑日誌(上)



刊 行 の 辞

鹿兒島県史料集、第二輯として「丁丑日誌」を刊行するはこびとなった。

これは鹿兒島県の第二代岩村県令当時の県庁日誌である。

この日誌には、明治十年の役の当初から終戦までの県政の動きが丹念に誌されている。終戦処理と云う方面から見ても意義あるものと考えて刊行することにしたものである。

この「丁丑日誌」の原本は、県令の御会息岩村一本氏が家宝として秘蔵されているものであったが、この刊行をこころよく御承諾下さって長期間にわたっておかし下さったことを深く感謝するとともに、この間に立って、仲介の労をおとり下さった加治木町長曾木隆輝氏に対しても厚く御礼申し上げる次第である。

昭和三十六年

鹿兒島県立図書館長 久保田 彦 穂

凡 例

一、本書は西南戦争当時の鹿児島県令岩村通俊（当主一本氏）家蔵の明治十年鹿児島県庁日誌巻一より巻五までを収めたものである。

一、本書は西南戦争当時の鹿児島県庁日誌であるが、岩村通俊県令がこれを筆写させて個人用として保管したものと考えられる。本書の第三と第四には内藤廉吉筆記と筆記者の名前がはっきり記されている。

なお県庁保管の原本が別にあつたと考えられるが、その原本は現存しない。県立図書館所蔵の明治十年鹿児島県庁日誌は抄本になっている。

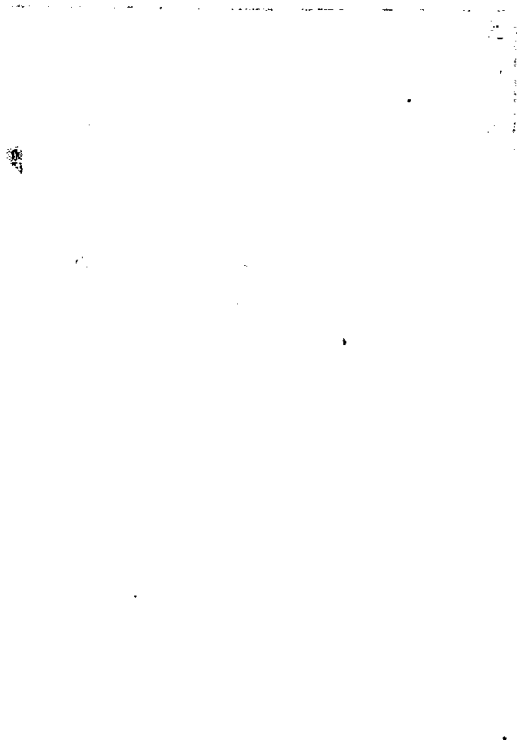
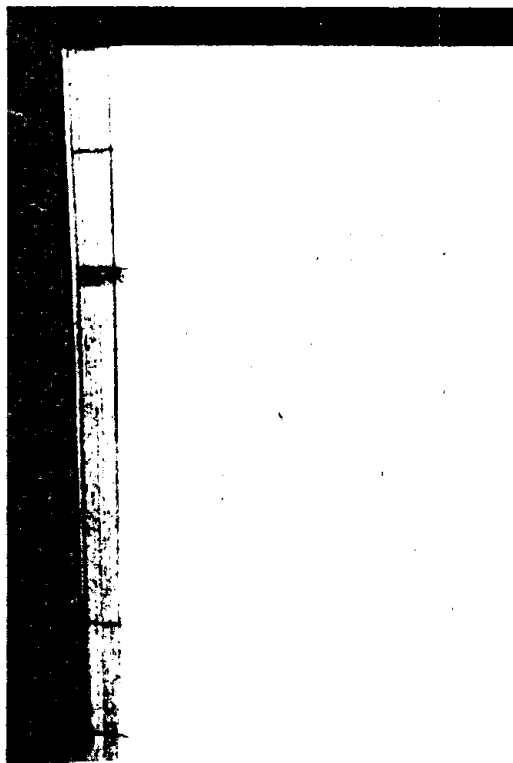
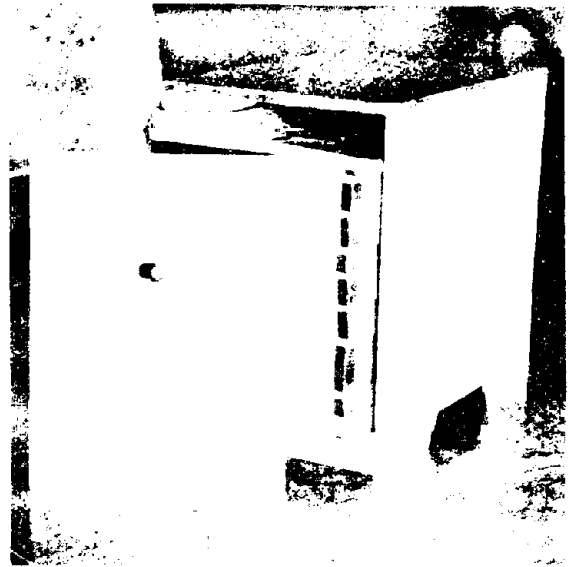
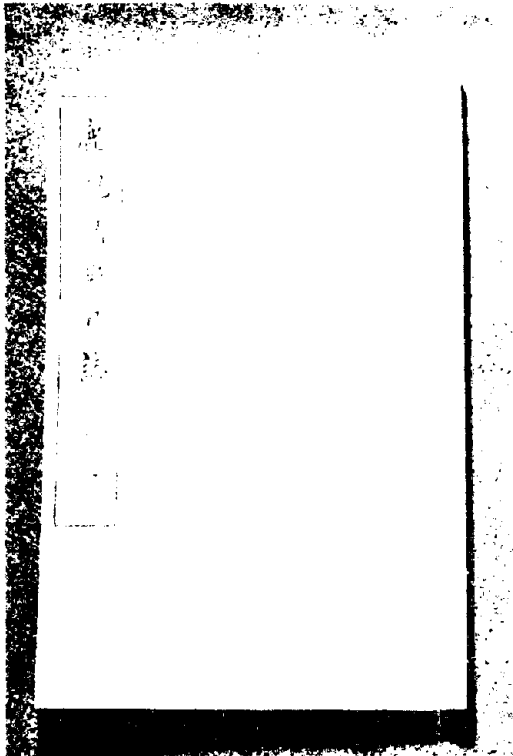
一、本書の書名を「丁丑日誌」としたのは、「丁丑日誌」下の凡例に記されたとおりで、箱書きも「丁丑日誌」を用いている。

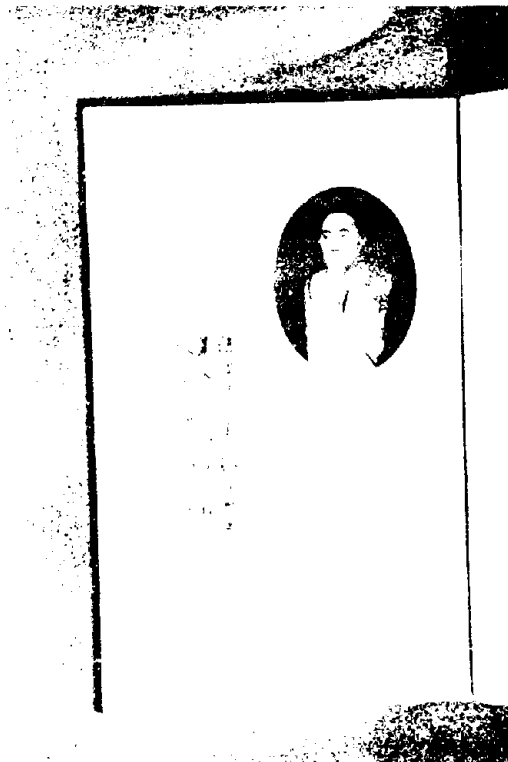
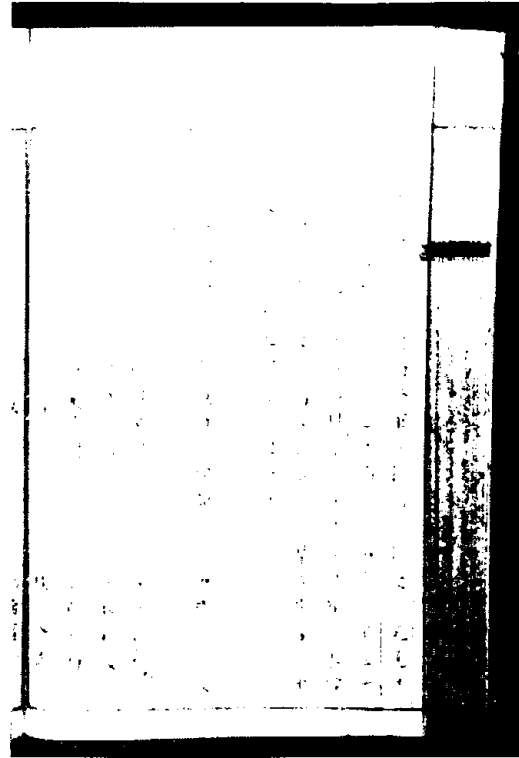
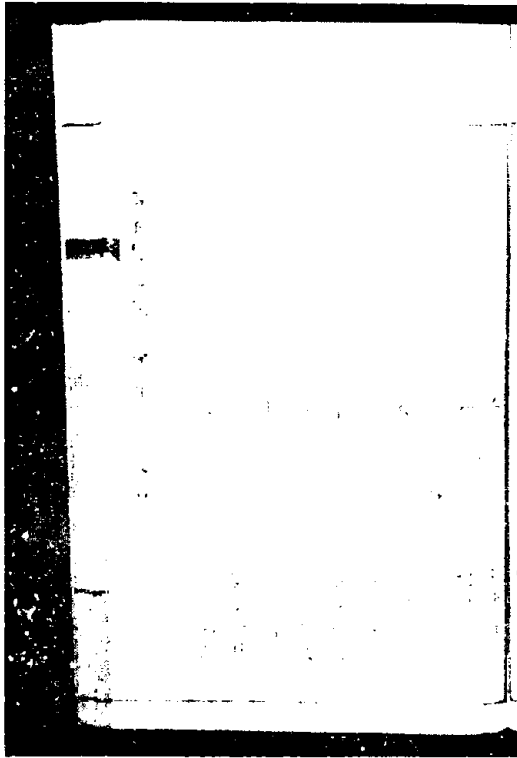
一、本書の中の誤りの明らかな文字は訂正した。

一、次のような文字は（ ）内のように書き改めた。

片（トキ）。 匠（トモ）。 坂（帰）。

一、本書の校訂は巻一から巻五までの上は村野守治が、巻六から巻九までの下は芳郎正がそれぞれ担当した。





明治十年三四月分

鹿兒島県日誌

第一

鹿児島県日誌 明治十年分

三月廿一日 水曜日

山口裁判所長四等判事岩村通俊西京行在所ニ於テ鹿児島県令ニ
任セラル而謁見ヲ賜ヒ且曩キニ山口県賊徒裁判ノ事ヲ聞シ召サ
ル

三月廿二日 木曜日

三月廿三日 金曜日

三月廿四日 土曜日

三月廿五日 日曜日

三月廿六日 月曜日

任六等属第六課申付候事
任八等属第一課申付候事

高辻信之
坂本源

三月廿七日 火曜日

県令官員撰挙ノ為メ東京ニ上ントス此日汽船ニ乗シ神戸ヲ発ス

三月廿八日 水曜日

三月廿九日 木曜日

県令東京ニ着ス

三月三十日 金曜日

三月卅一日 土曜日

四月一日 日曜日

四月二日 月曜日

四月三日 火曜日

四月四日 水曜日

任二等属第一課申付候事 高知県士族

長山信順

四月五日 木曜日

四月六日 金曜日

任三等属第六課申付候事

桜木保又

四月七日 土曜日

四月八日 日曜日

四月九日 月曜日

任七等警部

任八等属第六課申付候事

同

任九等属第一課申付候事

任九等属第一課申付候事

任十等属第六課申付候事

同

柴岡晋
大森利学
速水時中
金沢求
渡辺順
己野正孝
佐久間秀徹

四月十日 火曜日

内務省一等属

任一等属第一課長申付候事

任一等属第三課長申付候事 地租改正局九等出仕

御用掛申付第四課心得

月給金四拾五円給与候事

任四等属第一課申付候事

任五等属第一課申付候事

任六等属第一課申付候事

任八等属第一課申付候事

任八等属第一課申付候事

任八等属第一課申付候事

任八等属第一課申付候事

田辺輝実
曾根静夫
真田庵
蒲原敬路
大滝新十郎
大蔵省六等属
大江遼
大蔵省七等属
丹下量平
新倉直道

任八等警部
任九等属第三課申付候事
等外二等出仕申付
第六課申付候事

石川 克
齊藤 助作
意沢 厚道

四月十一日 水曜日

御用掛申付第四課心得
月給金四拾五円給与候事
任七等属

仁田 登

渡瀬 正衛

任八等属第六課申付候事

内務省雇
松本 彰

四月十二日 木曜日

内務卿へ上申書

從來区戸長学区取締給料ノ儀ハ渾テ民費ヲ以テ支給可致答ニ候処
兎鳥票ノ儀ハ暴挙擾乱ノ為メ百度悉ク類廢シ候儀ト被存候ニ付テハ
本県赴任ノ上全局ノ体面ヲ改メ管下ヲ撫綏スルハ実ニ非常ノ儀ニ付
斯ル諸事創業旧弊芟除ノ際ニ於テハ官民費ノ制限モ一時成規ノ通難
行届場合モ可有之ニ付赴任ノ上不得止事情モ有之候ハ、追テ民費誤
賦ノ方法見込相立候迄当分右給料悉皆官費支給致シ度此旨申上置候
也

大蔵卿へ上申

從來華士族破廉耻ノ罪ヲ犯シ除族ノ刑ニ処セラレタルトキハ則チ家
祿ヲモ取上ル制度ニ有之候処昨明治九年八月一百八号御布告ヲ以テ
本年ヨリ華士族家祿總テ金祿公債証書ヲ以テ下賜候儀ニ被定候ニ付
テハ本年ヨリ以後ハ除族ノミニ止リ候哉為心得奉伺候至急御指揮被
下度候也

七等判事渡辺千秋本県大書記官ニ任セラル

御用掛第一課心得申付
月給金四十五円給与候事

柳原 義則

御用掛第四課心得申付
月給金四拾五円給与候事
任三等属第一課申付候事
任四等属第一課申付候事

西久保 紀林
白根 大道
古賀 保高

任五等属第六課申付候事

内務省八等属
齊藤 小三郎

任八等属第一課申付候事

石原 嘉兵衛

同

川越 新吾

雇申付月給金貳拾円給与
第一課附屬申付候事

島田 道生

任十等属第一課申付候事

伊山 徳次郎

同

山上 享

任十等警部

内務省等外一等出仕
須田 義直

同

松井 堂介

任十等警部

會計局
高田 貫之助

等外一等出仕申付
第四課申付候事

内務省等外三等出仕
福井 家規

同

同
牧田 新太郎

等外一等出仕申付
第一課申付候事

同
篠山 資厚

同

會計局雇
祖山 鉉弥

四月十三日 金曜日

内務卿へ上申書

今度県地赴任ノ上宿禰ノ者治療ノ為メ一時官費ヲ以テ仮病院設立致度左経費上等巨細ノ義ハ実地取調ノ上追テ開申可仕候得共指同一時官費ヲ以テ仮病院設立ノ儀御許可相成度此段相伺候也

指令

書面何之趣聞届候費用ノ儀ハ今般下渡候臨時費金ノ内ヲ以可相賄事

但諸器械藥品等ノ儀ハ衛生局へ可打合事

十年四月十三日

大蔵卿へ上申書

高金百六拾壹万貳千七百七十八円九拾四銭六厘ノ内
一金貳拾壹万三千百九円十九銭三厘

右者鹿兒島県士族九年度禄高ノ内先般同景官員前書ノ金額御省ニ於テ請求済出發候処折柄県地暴動ニ際シ疑念ノ筋モ有之哉坂地ニ於テ右金取上ケ直ニ該地出納局留置候趣ニ付今般拙者赴任ノ上ハ支給ノ所置可致候ニ付テハ同断出納局ヨリ直ニ請求可申候条此段申進置候也

十年四月十一日

指令

上中ノ趣難聞届候条納切ト相心得家禄ハ別段請取方可申立候事

十年四月十三日

御用街第四課長申付

月給金四拾五円給与候事

任三等属第三課申付候事

任四等属第三課申付候事

関税局七等属

任六等属第一課申付候事

任八等属第三課申付候事

内務省十等属

真田 庵

新島 善之

秋葉 邦相

木村 利文

西村 正陽

任九等属第三課申付候事

関税局十等属

有馬 純徳

任九等属第三課申付候事

工部省十等属

大野 親温

任九等属第一課申付候事

添田 弼

任十等属第三課申付候事

志賀 重花

四月十四日 土曜日

内務大蔵両卿へ上申書

今般鹿兒島県令拜命候ニ付赴任ノ上県治事務処分ノ儀ハ總テ府県制事務章程等ニ照準可致ハ勿論ノ処該地方暴乱ノ後非常焦肖ノ事件モ可有之ト被存候就テハ至急ノ際経伺ニ違アラズシテ緊急不得止事柄等有之節ハ府県事務章程上欽左ノ条件中ノ事ト雖モ不経伺シテ適宜取計置追テ御届申上候様致度此段予テ相伺置候条至急御指揮有之度候也

明治十年四月十二日

第二条

例規ナキ救助ヲ執行スル事

第十三条

臨時費ハ勿論額外常費タリトモ例規ナキ費用ヲ支給スル事

第十四条

官金管守ノ方法及ヒ為替又ハ預ケノ方法ヲ設立スル事

第十五条

諸陵官社官廟官宅等ヲ新築或ハ増築スル事

第十六条

諸拝借金返納ノ期限ヲ伸縮シ或ハ諸拝借金ヲ棄損スル事

第十七条

收入セル穀物ヲ便宜売却スル事

第卅七条

地方警邏ノ規則ヲ定メ或ハ之ヲ變更スル事
指令

書而伺之条件ハ皆非常ノ事件ニ付章程ノ通可相守尤至急ニシテ經
伺等ノ手續ヲ為スヲ不得場合ニ於テハ其度限リ伺ノ通リニ取計ベ
キ事

明治十年四月十四日

任五等屬第一課中付候事	河田景雄
任七等屬第三課中付候事	近藤真言
任八等屬第一課中付候事	依藤忠失
同	
任八等屬第六課中付候事	小出善述
任八等屬第一課中付候事	古津弥八郎
同	三上環
同	関宗喜
同	土山与助
任八等警部	石川辰一郎
大藏省九等屬	
任九等屬第三課中付候事	竹中卓郎
大藏省十等屬	
任九等屬第六課中付候事	村井庶方
地租改正局十七等出仕	
任九等屬第三課中付候事	関根柳助
任九等屬第一課中付候事	弘道輔
任九等警部	齊藤義茂
同	須知彦太郎
元老院雇	
同	服部安客

任十等屬第一課中付候事

鎌田信夫

内務省等外一等出仕

任十等屬第三課中付候事

小林広重

任十等屬第一課中付候事

島崎正心

同

山本知貞

等外三等出仕中付第六課中付候事

遠藤正方

等外四等出仕中付第六課中付候事

友松信近

同

川口一

同

高橋長一郎

依願免本官

七等屬

渡辺正衛

四月十五日 日曜日

工部省九等技手

任八等屬第六課中付候事

石井忠順

内務省雇

任十等屬第一課中付候事

桑原政夫

四月十六日 月曜日

県令属官三十余名ヲ從ヘ西京ニ至ラントス此日汽船西京丸ニ乗組
ミ横浜ヲ発ス

征討總督本營ヨリ達書

第七拾九号

今般熊本城下ノ賊徒悉ク征討殘賊欠部ヲ經日向ヘ脱逃候ニ付テハ自
然其県下ヘ潜伏ノ儀モ難計候条嚴重遂搜索無遺漏捕持可致候此旨相
達候事

明治十年四月十六日

大藏卿ヘ上申書

今度県地赴任ニ付万一米金差支候節ハ米金繰替渡ノ儀長崎出納局出
張所ヘ中入候儀モ可有之ニ付此旨予テ御達置相成候様仕度此段申上
候也

指令

上申ノ擬聞届候条金穀共繰替受取候節ハ旨趣其時々当省へ可届出候事

明治十年四月十六日

御用掛申付第四課心得
月給金四拾五円給与候事

任四等属第三課申付候事

任七等属第三課申付候事

工部省九等技手

同

埼玉県廳

島田 徳治

同

大蔵省十等属

吉田 為行

任九等属第一課申付候事

同

任九等属第三課申付候事

任十等属第三課申付候事

津田 全温
逕塚 保
小林 良恭

四月十七日 火曜日

太政大臣ヨリ達書

鹿児島県令岩村通俊

鹿児島県大書記官田畑常秋官位被擢候ニ付別紙辞令書本人へ相達九州臨時裁判所へ護送可致此旨相達候事

四月十七日

別紙

鹿児島県大書記官

田畑 常秋

官位被擢候事

明治十年四月十七日

行在所 太政官

同達書

右兩名九州臨時裁判所へ護送方可取計候事但在勤ニ候者職務可差免事

御用掛申付第一課心得
月給金四拾五円給与候事

東京府九等属

任八等属第一課申付候事

任八等属第三課申付候事

同

任八等警部

御用掛申付第四課心得
月給金貳拾円給与候事

任九等属第六課申付候事

任九等警部

任十等警部

同

元老院等外一等

御用掛申付第四課心得
月給金十貳円給与候事

等外二等出仕申付

第四課附属申付候事

等外三等出仕申付

第四課附属申付候事

同

雇申付第四課心得
月給金八円給与候事

警視局四等巡查

等外三等出仕申付
第四課附属申付候事

今藤 宏
簗田 長禧

青江 秀

安藤 小次郎

平馬 定重

太田 正保

内海 久次郎

河原田 盛美

後藤 清平

星野 正淡

小林 敬義

京極 宏

長崎 万蔵

山口 鄭

本山 純一

小野 次郎

松本 多賀司

寺田 実

四月十八日 水曜日

県令大坂ニ着ス

内務大蔵兩卿へ上申書

判任官月給定額ノ儀ハ管轄ノ反別人口ニ基キ被相定旨昨明治九年一月第九号ヲ以テ御布告有之候ニ付可相成丈ケ本額金ノ内ヲ以テ等級ニ依リ人員増減可致ハ勿論ニ候得共当県ノ儀ハ新置同様ノ姿ニテ頭然事務繁冗ニ付御規則通ニハ何分百奉行届兼候ニ付当分ノ内定額外ニ可相成候間此段申上置候也

明治十年四月九日

指令

書面申出之趣ハ難聞届候尤赴任ノ上実際施治ノ景況ニ依リ増員必用ノ節ハ具必要ノ事項ヲ揚ケ事情詳細具狀候様可致事

但本件ノ如キハ以来兩省宛不及候事

明治十年四月十八日

同上申書

一金拾万円

右ハ今般本県へ出発可致ニ付テハ自今管下人民ノ暴挙ニ際シ追テ勘定可及候得共擾乱ノ後人心ノ向背ハ勿論不慮ノ異変モ難計ニ付時宜ニ寄リ非常ノ所分可致儀モ可有之尤事ノ緩急ニ依リ実際可経何間隙有之節ハ例規ノ通取計可申且ハ病院設立等ノ見込モ候儀右ハ詳細ノ儀ハ別途可相何等旁以前書ノ金員非常予備トシテ御下渡シ相成度費途区分ノ儀ハ追テ何分ノ次第可申上此段至急御許可相成度候也

明治十年四月十二日

指令

書面何之趣聞届金拾万円ハ臨時費トシテ可下渡候条追テ遺松ノ上ハ夫々費途区別相立勘定帳大蔵省へ直ニ差出儀ト可相心得事

内務卿代理

明治十年四月十八日

内務少輔

前嶋

密

征討総督官ヨリ達書

鹿児島県

九州地方国事犯賊徒処分ノ為メ福岡へ臨時裁判所相設候ニ付テハ右事件ニ付同裁判所ヨリ直ニ相達候儀モ可有之候条事務無差支取扱可致此旨兼テ相達候事

明治十年四月十八日

御用掛申付第四課心得
月給金五拾円給与候事

修史館五等書記

任五等警部

第四課雇申付

月給金五円給与候事

塩田 益穂

長命 房吉

四月十九日 木曜日

県令果地ノ事情未タ知ル可ラ不ルヲ以テ真田庵仁田登等十七名ヲシテ先ツ任地ニ就テ之ヲ探知セシム但真田庵等八名ハ路ヲ長崎ニ取リ仁田登等九名ハ熊本出張ノ上此ニ就カシム此日皆出発ス

長崎出張ノ上赴任申付候事

御用掛 真田 庵

同

同 柳 原 義 則

同

三等属 白 根 大 道

同

七等属 柴 岡 晋

同

八等属 新 倉 直 道

同

九等属 斎 藤 助 作

同

十等属 佐 久 間 秀 徹

同

等外一等 祖 山 鉉 弥

同

御用掛 仁 田 登

同

同 西 久 保 紀 林

同

五等属 河 田 景 雄

同

六等属 木 村 利 文

同

同 同 同 同 同

八等属 関 宗 亨
九等属 添 田 弼
同 齋 藤 義 茂
同 山 上 享
同 諏 訪 讓

右ハ去ル十七日御達ノ趣ニ付猶鹿兒島出張警視官ヘ協議ノ上拘
留可致旨ヲ真田庵ニ委任ス

權中教正大洲鈔然ヨリ真宗西派末徒正親大宣外三名ノ者先般布
教ノ為メ本管内ヘ出張為致置候延不凶賊徒ノ為メ被執縛川内ノ
獄舎ニ幽囚セラレ候者至急放免ノ儀願出ル

内務卿代理内務少輔ヘ上申書

今般治療ノ為メ仮病院設立ノ儀御許可相成候ニ付テハ御省御用掛三
浦義純外六名別名書ノ通当県ヘ備用仕度尤給料其他旅費ハ過般御下
渡相成候臨事費金十万円ノ内ヲ以テ悉皆相済シ可申候何卒至急御許
可相成度此段及上申候也

明治十年四月十九日

指令

書面上申之趣聞届夫々在勤申付候其旨可相心得事

大坂出張迄ノ内
第四課々長心得申付候事
任六等警部

御用掛 藤 井 楯 雄
長 坂 国 輔

任八等属第一課申付候事

内務省十等属
東京医学部属
外 島 麗 治
三 浦 義 純

内務省御用掛申付月俸百五

十円給与候事 但取扱准奏仁

内務省御用掛

鹿兒島仮病院長申付候事

東京医学部属

内務省御用掛申付月俸百円
給与候事 但取扱准奏任

山 崎 泰 輔

鹿兒島仮病院副長申付候事

同

鹿兒島県在勤申付候事

同

同

同

同

同

同

久 米 惟 精
同 月俸廿五円
木 梨 精 一 郎
同
前 田 政 四 郎
同 月俸廿円
村 松 碩 三

四月廿日 金曜日

本県非常予備金トシテ別途御下渡金拾万円ヲ出納局ヨリ請取ル
騒擾ノ後不慮ノ变故アル難計ニ付先般非常予備金トシテ拾万円御
渡方及上申候処現今目途變更ノ見込有之候ニ付前額ヲ増加シ更ニ
拾万円御下渡相成度旨ヲ申請ス

指令

書面伺ノ趣聞届金拾万円ハ臨時費増額ノ訳ヲ以テ下渡候条追払ノ
上ハ夫々費徒区別相立勘定帳大蔵省ヘ直ニ差出候儀ト可相心得事
九州臨時裁判所ヨリ達書

鹿兒島県

九州地方国事犯賊徒既ニ就縛ノ者ハ勿論捕縛ノ分共至急当裁判所ヘ
可届出候事

御用掛申付第四課心得

福 永 信 治

ズ且ヤ反賊一タヒ平クト雖モ乱後ノ人心如何モ亦測ル可ラサルナリ
是ヲ以テ此際海陸軍ヲシテ鎮撫ニ備ヒ巡查ヲシテ警察ヲ嚴シ之レ
ニ加フルニ郵便船ヲ開キ以テ運漕ヲ便ニシ電線ヲ布キ以テ音信ヲ通
スル事此則着手上一大急務トス而シテ叛賊平定ノ日通倭官吏ト共ニ
汽船ニ神戸ニ乗シ直ニ赴ン其汽船ノ如キハ暫ク該港ニ繫キ以テ非常
ノ用ニ供スベシ然リ而シテ彼ノ官吏ハ賊否ヲ分タス一旦官ヲ免シ而
シテ後チ用ユヘキハ之ヲ用ンバ戸長等ヲ処スルモ亦同シ因テ先ツ之
ニ代ルニ警部巡查ヲ以テシ而シテ大儀名分ノ有ル所ヲ説明セシメ亦
之ヲ各区ニ揭示シ速ニ県下人民ノ方向ヲ定メシメントス若或ハ賊徒
ニ強迫セラレ米金ヲ出シ或ハ雜役ニ使用セラルル者ハ一切有シテ問
ハズ且ツ病院ヲ設立シ瘡痍ヲ治シ治ク朝意ノ辱キヲ知ラシメ或ハ目
下凍餒ニ迫ルモノハ固ヨリ之ヲ撫恤シ産ヲ破リ業ヲ廢スル者アラバ
能ク授産ノ方法ヲ講シ到底其生業ニ安セシメントス抑該縣ノ如キハ
旧來ノ頑固加フルニ乱後ノ紛擾ニ際シ其県治ヲ図ル亦容易ニアラズ
然レトモ事ノ緩急順序ヲ慮リ遂ニ県治ノ章程ヲ履行セント欲スト雖
モ兩三年ヲ出ズンハ細大トナク成規定例ニ循フ事能ハザルベシ故ニ
非常ノ時ハ非常ニ処スル固ヨリ論ヲ持タス其平時ニアツテモ特ニ処
分ヲ乞フ事アラントス是通倭赴任前見ル所ノ大略ナリ書シテ以テ清
覽ニ供フ而已

真田庵等ノ一行長崎ニ於テ仁礼大佐ニ面会シ汽船ニ乗込ミ長崎ヲ
發ス

仁田登等ノ一行福岡県ニ於テ渡辺県令ニ面会シ久留米ニ着ス

四月廿三日晴 月曜日

内務卿へ上申書

通倭不日鹿兒島県赴任ニ付テハ該県素ヨリ乱後ノ儀ニ付神戸港ヨリ
運送汽船一隻拝借ノ上小官始官員一同為乗組入県仕且彼地ニ到着ノ
後ハ或ハ該船ヲ碇泊セシメ或ハ運輸ノ用ニ供スル等總テ該船進退ノ
權追テ郵船往來使用自由ヲ得候迄ノ間小官へ御委任相成候様仕度此
段奉願候至急御指令被下度候也

明治十年四月廿二日

指令

書面伺之通

但該船入費ハ其県臨時費ヲ以テ仕松候儀ト可相心得事

真田庵等ノ一行小嶋ニ着シ直ニ上陸熊本ニ達シ川村參軍ニ謁シ赴
任ノ事等ヲ議ス

仁田登等ノ一行坂本陸軍少佐ニ面会シ柳川ヲ經テ三池ニ宿ス

四月廿四日雨 火曜日

前県令大山綱良ノ請求ニヨリ官省受付ノ金穀公債書ト交換スル例
ヲ改メ以來普通ノ方法ニ依リ運送スヘキ旨駅通局ヨリ掛合アリ依
之右金穀公債証書類ノ運送方ヲ改正シ普通ノ方法ニ依ルベキハ勿
論其旧県令ヨリ上申ノ御指令及ヒ請求ノ金穀御渡方等總テ県令入
県調査ヲ遂候迄駅通局ニ留置度云々回答ス

県令赴任ニ付參内謁見ヲ賜フ

汝辭郷ニ趣キ非常ノ時ニ際ス非常ニ尽力セヨ

本県飯病院御用掛申付

月給四拾圓給与候事

難波 一

前同文 月給金廿五円

大河本 聰 松

真田庵等ノ一行熊本県庁ニ至リ福岡県令ニ面会シ船ニ帰ル

仁田登等ノ一行三池ヲ發シ高瀬ニ着ス

四月廿五日大雨 水曜日

太政大臣ヨリ達書

鹿兒島県令岩村通倭

其県元大属今藤宏以下別紙名前二十一名引渡場所追テ相達候条予メ
護送ノ用意可致置此旨相達候事

明治十年四月廿五日

別紙

鹿兒島県

元大属	今藤宏
元中属	義田長僖
一等属	右松祐永
元一等警部	中島健彦
元四等警部	中山盛高
同	河野通英
元六等警部	古川源助
同	宮内俊藏
十五等出仕	伊藤新一作
士族	篠崎新平
同	島本義澄
同	彌本義潔
同	平山竜助
同	木藤武章
同	春山行道
同	永吉小藤辞
同	谷口藤太
同	樺山資綱
同	仁礼景道
同	大久保規正
同	大久保一郎

同上申書

該県元大属今藤宏以下廿一名引渡場所追テ御達可相成ニ付予ノ護送ノ用意可致旨敬承仕候然ルニ拘留ノ儀県下ニ指置候テハ人心ニ指響可申ニ付便宜次第長崎県ニ護送致置度此段相伺候也

明治十年四月廿五日

指令

書面伺之趣聞置候事

同上申書

本県賊徒其巨魁ヲ始メ孰レモ罪ノ輕重ニ随ヒ至当ノ法刑ニ処セラル可キハ勿論ニ候得共士民ヲ不分一時賊徒ニ脅迫セラレ不得已米金ヲ出シ又ハ雜役ニ使用セラレ候者トモハ実ニ憫然ノ至リニ付寛典ヲ以テ一切放免相成候様仕度此段相伺候也

明治十年四月廿五日

指令

書面伺之通
等外三等出仕申付候事

右神戸ニ於テス

御用掛申付月給金廿五円支給候事

右大坂ニ於テス

真田庵柳原義則ノ兩人川村参軍々汽船ニ就見シ之ヲ議ス又本営警視主任田辺中佐ニ而晤シ着県ノ上速ニ真宗僧侶五名ノ幽囚ヲ解キ旧県官吏数名ヲ臨時裁判所ニ護送ノ事ヲ議シ去ル

仁田登等ノ一行ハ本ノ藥田原鹿子木七本村植木村ヲ經テ熊本ニ着シ県庁ニ至リ去リ真田庵等ニ汽船ニ会合ス

四月廿六日雨 木曜日

大書記官渡辺千秋属官并ニ医員ト共ニ郵船名護屋丸ニ乗込ミ横浜ヲ發ス

御用掛申付第四課ノ心得ヲ以テ月給四拾円給与ス

真田庵仁田登等十七名熊本解纜

四月廿七日雨 金曜日

任十等属
第一課申付候事
雇申付月給金拾貳円給与シ
第五課申付候事

柴 太一郎

浅利 伯徳

小野 修一郎

三 牧 盛 太
神 保 竜 玄

雇申付月給金八円給与シ
第五課申付候事

雇申付月給金拾円給与シ
第一課申付候事

任九等警部

同

御用掛申付第一課心得ヲ以テ
月給金四拾五円給与候事

任八等警部

任十等警部

同

任九等警部

任十等属

第一課申付候事

川村参軍及大山高島少将等兵ヲ率ヒ汽船ニ乗シ肥後地ヨリ鹿児島
ニ入ル

松嶋真田庵等一同鹿児島港ニ着ス午前八時上陸真田庵外両名ハ川
村参軍ニ本営ニ就見シ之ヲ議ス

征討総督ヨリ達書

鹿児島県

其県警部并巡査被廢候事

明治十年四月廿七日

同達書

鹿児島県

其県下嘯集ノ暴徒曩日熊本県下ニ乱入以來県下ノ人心不穩追々兇徒
ニ応シ終ニ非命ノ死ニ就ク者不少 天皇深ク之ヲ憂慮シ給ヒ親シ
ク反正帰順ノ道ヲ開カセラレンカ為メ 勅使ヲ被差立候処彼等毫
モ之ヲ悟ラス弥暴威ヲ逞セント欲スト雖モ終ニ挫折シテ今日ノ敗衄
ニ及ブ於是熊本県下ヲ去リ日州ヲ経テ其県下ニ歸リ再ヒ良民ヲ害ス
ルノ憂アラシモ難計ニ付今般更ニ陸海軍ノ兵員ヲ派遣シ以テ人民ノ

安寧ヲ保護シ正路ニ帰セシムルノ御趣意ニ候条一般ノ人民無疑念各
職業ヲ営ミ決シテ動搖セザル様至急管下ヘ無漏諭達可致候事

明治十年四月廿七日

権中教正大洲鎮然ノ顔ニヨリ總督本営ヨリ旧県官ニ令シテ川内ノ
獄舎ニアル正親大宜等ヲ解釈シ野崎流天ノ保管ヲ免サシム野崎流
天ハ本口放免ス

征討本営ヨリ第二課長松本良藏即刻出頭可致旨御達アリ

四月廿八日晴 土曜日

県令属官ト共ニ大阪ヲ發シ神戸ニ至リ海岸通り後藤某ノ旅廬ニ着
ク午後十一時大書記官以下属官百二十名医員十七名鹿児島県士族
十五名鹿児島裁判所長寛元忠随行ノ判事補以下三十七人真宗布教
ノ僧侶三名等ト共ニ汽船扶桑丸ニ乗込神戸ヲ發ス二等属長山信順
以下七名ヲ神戸ニ残シ残務ヲ取扱ハシム

第四課々長心得申付候事

任十等警部

任十等属

司法省十五等出仕

任六等警部

昨日鹿児島入港ノ官軍上陸各処ニ戦線ヲ布キ哨兵ヲ置キ警備ヲ嚴
ニスルヨリ人民大イニ恐懼シ産ヲ捨テ業ヲ止メ老幼ヲ扶携シ市街
櫻子近郷海島ニ遁ル先發十七名一同初テ県庁ニ出頭シ従前官員ニ
対シ是迄取扱ノ事務ヲ尋問ス朦朧トシテ一モ答フル所ナシ

征討本営ヨリ達書

鹿児島県御用掛 真田 庵

同 柳 原 義 則

県令赴任迄ノ間本営ノ命令ヲ受ケ県庁事務取扱可致候事

明治十年四月廿八日

同達書

一天神馬場通

一山口馬場通

一本新橋通

右通路之外哨兵線ニ障礙有之候ニ付通行差止候条此旨相心得即刻管下人民へ無漏可相達候也

明治十年四月廿八日

同達書

当県下之義従来巡查ヲ以テ市中取締ハ勿論火用心等夫々保護為致来候処此般詮議ノ次第有之警部并ニ巡查被廢候ニ付テハ即今警視局巡查ヲ以テ夫々取締向等為致候得共兎角着県ノ際彼是多用ニ付当節柄ノ義ニモ候間尚又町々ニ於テモ申合致シ火用心嚴重ニ取締行届候様注意可致旨至急管下へ無漏様布達可致候也

四月廿八日

御用掛真田藤同柳田義則ヨリ県令代理ヲ以テ達書

各区戸長

先般来県下之人民暴徒ニ脅迫セラレ終ニ越境賊軍ニ党与スル者不鮮故ニ候得共速ニ帰順自首スルニ於テハ寛大ノ御処分可有之候条御趣意徹底候様精々注意可致ハ勿論且戰地ニ於テ負傷療養ノ為メ或ハ帰郷潜伏ノ者モ有之候ニ候処右等ノ内タルモ前非悔悟帰順ノ者有之候テ即今御趣意ノ程ヲ不相辨白然押隠シ充分ノ治療届兼遂ニ死亡モ難計憫然ノ至ニ付右等ノ者ハ治療被遣候条無疑念自首善良ニ基キ候様旁説諭可致候也

同達書

各区々戸長

先般肥後表へ出兵イタシ候者名簿至急取調且戦死之者ハ其訳名上ニ記載シ可差出候此旨相達候事

征討本営ヨリ元区長島津又七御用有之即刻出頭可致旨達アリ同人ハ嘗テ賊徒ノ為ニ彈藥ヲ製シタル者ナリト云フ

四月廿九日時 日曜日

官員心得書ヲ定ム

第一款

凡ソ県治ヲ布クハ至誠忠実ヲ以テ大旨トス宜ク己ヲ虚フシ長官ノ命意ヲ奉シ協和輯睦以テ各自ノ職務ヲ尽スベシ

第二款

事ヲ議スルニ臨ミ各所見ヲ述ヘ反覆討論シ余カヲ遣ササルベシ然ト雖モ其事ニ從ヘ實際ニ施行スルト否トハ専ラ長官ノ權ニ在テ小權ヲ以テ大權ヲ犯スベカラズ

第三款

県官タル者ハ己レノ言語品行ヲ操持シ相共ニ提携切磋シ全管人民ノ標準トナルベシ苟モ放逸怠惰酒色ニ惑溺スル等ハ最モ嚴禁トス

第四款

県官ハ人民ニ対シ信憑依頼ノ念ヲ来タサシムルヲ以テ至重ノ要點トス寧口持重ニ失スルモ輕忽ニ陷ル勿レ

第五款

本県ノ位置タル三州ノ外島嶼各処ニ暮布シ風俗人情其習慣ヲ一ニセザル者アルヘシ人民ニ接スルニ臨ミ深切丁寧其具陳スル所ヲ聴納シ情意ヲシテ伸長セシムル事ヲ務ムベシ

第六款

方今乱擾ノ際ニ属シ士民ノ方向一定セザル者アルベシト雖モ懇切之ヲ誘掖シ 朝意ノ在ル所ヲ知ラシメ親愛ノ道ヲ厚フシ必シモ賊視スル勿レ

第七款

県治ノ体綱前日ニ異ルモノアルベシト雖モ猥リニ前県令ノ施設ヲ謗議シ或ハ言語風俗ヲ嗤笑スル事勿レ

右各遵守シテ此意ヲ愆ル勿レ

午後九時扶桑丸防州三田尻ニ泊ス県令寛判事等ト共ニ上陸ス関口山口県令ニ同所ニ邂逅ス

御用掛真田藤外一人ヨリ各区々戸長へ達書

嚮ニ県下ノ人民賊徒ニ党与スル者モ帰順自首スル者ハ寛大ノ御処分可有之且又負傷ノ者療養ノ為メ帰郷シ先非ヲ悔悟スル分ハ治療被

遣候ニ付押隠シ充分ノ施療届兼候テハ惓然ノ至ニ付致告諭置候義モ有之ニ付テハ精々細密ニ取調候様可致若シ潛伏シ白首セズ又容隠シテ不告者於有之者不容易義ニ付篤ト御趣意ヲ辨明シ各区鄉村ニ至ル迄懇々説諭可致候也

御用掛真田庵柳原義則ヨリ一等属右松祐永今藤宏松本武雄四等属義田長徳六等属三浦介雄ノ五名へ免官ノ辞令ヲ授ケ直ニ警視局ニ拘留ス

過日総督本営ヨリ本県属官へ御達相成居候暴動ノ節禁錮并問屋預等ノ者取調差出可申旨精々取調候得共簿記等モ無之旨従前官員ヨリ本営へ申出ル

甌島士族 石 神 弘 志

高城士族 大久保 十 郎

同 大久保 規 正

東郷士族 早 崎 敬 助

右ノ者暴動ノ節禁錮或ハ問屋預ケ相成居候哉取調差出可申旨御達有之帳簿取調候処先般私学校徒ニ捕縛セラレ一応取調ヲ受候後問屋預ケ相成居候段申出候旨従前官員ヨリ総督本営へ申報ス

甌島士族石神弘志外三名共警視出張所へ引渡候様總督本営ヨリ御達アリ依テ明日引渡可申旨従前官員ヨリ回答ス

明治十年五月分

鹿児島県日誌

第二

五月一日晴 火曜日

午前三十分扶桑丸長崎港ニ入ル

總督本營ヨリ海軍大佐仁礼景範へ達書

当分県令ノ心得ヲ以事務取扱被 仰付候事

明治十年五月一日

県令心得ヨリ近接四県へ通知書各通

下官儀本日当分鹿児島県令ノ心得ヲ以事務取扱可致旨征討本營ヨリ御達有之御請申上候間此段及御通知候也

總督本營ヨリ達書

当港出入大小船ノ儀是迄昼夜共差構無之候処以来御用船ヲ除ノ外夜中出入差止メ候条此旨至急管下へ無漏可相達候也

五月一日

警視局出張所へ管下人民ヨリ商業ノ為メ米穀浜出シノ節属官差出シ船中取調候ニ付同局ヨリモ掛官員可差出旨ヲ協議ス

県下ニ於テ仮病院設立ノ上薬品器械等差支候テハ不都合ノ旨軍医玉村魏ヨリ申出候ニ付県令心得ヨリ参軍へ同出ニ付第一旅団本營ヨリ可請取旨指令アリ

当分第一課兼務申付候事

御用料 真田 庵

当分第六課兼務申付候事

同 西久保 紀 林

同

六等属 木 村 利 文

五月二日晴 水曜日

午後一時三十分扶桑丸鹿児島湾ニ入ル本口港内ニ碇泊スル軍艦ハ龍驤日新筑波春日丁卯高雄ノ六隻三菱会社ノ汽船扶桑丸ト共ニ四隻汽船總テ十隻アリ又港隅ニ琉球船一隻アリ此日男女老幼相携へ家具什器ヲ小舟ニ積込ミ陸續トシテ逃レ去ル上陸スレバ市街悉ク空屋人影其疎ナリ埠頭街路皆番兵アリ戒衛甚嚴ナリ県令属ト共ニ先ヅ海岸ノ県庁出張所ニ應フ

県令及大書記官始官員一同只今赴任政旨川村参軍へ通知ス
県令当湾波戸場県庁出張所ニ致止宿旨川村参軍田辺中警視へ通

知ス午後三時県令大書記官寛判事等ト共ニ県庁ニ至リ県令心得仁礼海軍大佐ニ面会シ田辺中警視巡查ヲ率ヒ本地ニアルヲ聞キ之ヲ招キテ警備ノ事ヲ議ス後チ従前官員ニ面接ス

海軍大佐仁礼景範県令ノ心得ヲ以テ御用取扱被 仰付置処不及其儀旨征討本營ヨリ御達アリ

第一号ヨリ第六号迄ノ布達ヲ掲ス

第一号

拙者儀三月廿一口鹿児島県令ニ

宣下相成則大書記官渡辺千秋始メ官員一同今二日着候条此旨布達候事

第二号

先般西郷隆盛旧兵隊ヲ率ヒ出京ノ儀ニ付前県令大山綱良ヨリ中原尚雄等ノ口供相添布達セシ趣モ有之候処元來臣子ノ分ニ於テ兵カヲ要シ

天兵ニ抵抗候者罪固ヨリ誅ヲ容レズ加フルニ右口供ノ如キモ拷問ノ上出来候者ニテ全ク以テ信憑スベカラザル儀ニ有之然レドモ尚東京ニ於テ裁判所ヲ開カレ大山綱良ハ勿論其他夫々糾問逐ゲラレ候ニ付遠カラズ至理至当ノ御処置可相成ハ必然ノ儀ト存候条万一曩ニ大山綱良ヨリ布達セシ旨趣ヲ安信シ方向ヲ誤リ他日悔ヲ取り候儀有之候テハ実ニ不相濟候間心得違無之様可致此旨諭達候事

第三号

今般暴挙ノ際賊ノ脅迫ヲ受ケ不得止米金ヲ出シ或ハ雜役ニ使用セラレ候者共ニ於テハ寛典ヲ以テ其罪ヲ問セラレズ候条可致安堵此旨布達候事

第四号

今般暴挙ノ際士民間々方向ヲ誤リ或ハ脅迫セラレ戦地ニ臨ミ傷痍ヲ受ケシ者可有之依テ今般赴任ニ際シ熟練ノ医員且藥品等相提携シ新ニ病院ヲ設置シ一切官費ヲ以テ療養為致候条朝廷至仁ノ御趣意ヲ厚ク体認可致方一等閑ニ打捨費キ非命ノ死ニ陥リ候テハ遺憾不少候間都テ傷痍ノ輕重ニ不拘至急中出治療ヲ受クベク此旨布達候事

第五号

曩ニ西郷隆盛等旧兵隊ヲ率ヒ肥州ニ乱入シ其勢猖獗ヲ極メ候ニ付己ムヲ得サセラレズ

御征討被 仰出候末賊軍大敗一八人吉ニ遁逃シ一ハ日向路ニ潰走候趣ニ付之ヲ要スルニ不日鎮定ニ立到候間熟レモ安堵致シ聊動揺致間敷候此旨布達候事

第六号

今般拙者始当県官員一同入県尚海陸軍ヲ被差向候御趣意ハ全ク当県下鎮靜ヲ彼為要候深キ御仁恵ノ 朝旨ニ有之然ル処此際人民ニ於テ狐疑ヲ抱キ漸次産ヲ捨テ地方ヘ立退候者モ有之趣ニ相聞ヘ以ノ外ニ候此後縦令残賊再帰ノ形勢有之候共海陸軍ヲ以テ充分御処置可相成ニ付何レモ安堵營業決シテ散乱不致様可相心掛尚已ニ散乱候者ハ前件ノ趣意区戸長又ハ其親族共ヨリ精々可申諭此旨諭達候事

県令在庁ノ従前ノ官員三十二名ヲ別席ニ召シ説諭ヲ加フ其大意左ノ如シ

今般不慮ノ暴挙ニ際シ前県令大山綱良其他県官モ亦タ連累ノモノ不少依之予足下等ヲ見ルニ・モ其疑念ナキ能ハザルナリ然レドモ概シテ之ヲ賊視スルハ予が又忍ビザル所ナリ是ヲ以テ其關係ノ有無ヲ分柝シ以テ清濁ノ区域ヲ判別シ將ニ足下等ノ為メニ謀ル所アラントス予惟フニ之ヲ分析スルノ要タル足下等之ヲ心ニ監シ自ラ之ヲ欺カザルニ如クモノナキナリ足下等能ク其信ヲ表セバ予モ亦何ゾ疑ハン乞フ其關係ノ有無ヲ明言シ天ニ対シテ恥ザルノ言ヲ述ヘヨ

一同右ノ説諭ヲ聞キ或ハ答ヘザルモノアリ依テ暴挙前後ノ顛末ヲ書シ速カニ聞申スベキ旨ヲ命ス

本日在庁説諭ヲ受ル者三十二人

第一課

二等属	坂元清彦
旧中属	大迫元祐
四等属	橋口甚藏
五等属	迫田利建
六等属	野田耕一郎

第二課

八等属	染川安豊
同	上村直
同	鈴木壮七
九等属	小田為政
十等属	諏訪俣藏
同	池之上仲介

旧十四等出仕

九等属	石原周門
同	吉富直武
同	草野甚七
同	東郷榮之助
同	椎原孝助
同	関山金満
十等属	本田龍
同	神宮司 築兵衛
同	西俣喜兵衛
同	園田世吉

第三課

二等属	鯨島員秀
六等属	山田有庸
九等属	伊藤俊治
十等属	安藤直左衛門
同	南郷八郎次
十等属	伊藤喜之助
等外一等	有川源左衛門
第五課	
十等属	東郷八郎
第六課	
六等属	美代豊行
同	鎌田政直

等外一等出仕 伊集院 仲兵衛

第二大区十二小区五十八番地真宗東派東本願寺仮別院詰禪少講議
菊地了典ヨリ武ノ町明神前竹下長次郎宅へ仮別院移転ノ儀届出ル
庁下及ヒ各郷ノ区戸長ヲ召集ノ議ヲ達ス

九州臨時裁判所へ上申書

今般九州臨時裁判所被設候ニ付当県ニ於テ国事犯賊徒捕縛ノ者ハ至
急可届出段御達ノ趣敬承仕候右御届申上候上ハ何トカ御達ノ次第モ
可有之ト奉存候得共微罪ノ者ハ勿論縦令繋連ノ者ト雖トモ重罪ノ者
ニ然ルヨリハ一応鹿兒島裁判所ニ於テ取糾シロ供取ノ上臨時裁判所
へ差廻シ擬津相成候ハ、人民ノ疾苦ヲ免レ候儀実ニ不少ト存候ニ付
前条御許可被下候様仕度此旨及上陳候也

明治十年四月卅日

指令

上申之趣河野幹事不日其県へ出張ノ上何分ノ指令ニ可及差向其県
裁判所へ別紙一通相達候事

別紙

鹿兒島裁判所

河野幹事出張候迄其県国事犯ノ者其裁判所ニ於テ取調可致置此旨
相達候事

明治十年五月二日

九州臨時裁判所

- | | | |
|--------------|---------|--------|
| 第一課申付衛生掛申付候事 | 御用掛 | 小野 修一郎 |
| 衛生掛申付候事 | 福 永 信 治 | |
| 第一課申付候事 | 小林 良 恭 | |
| 第一課申付候事 | 関 根 柳 介 | |
| 第一課申付候事 | 小野 次 郎 | |

五月三日曇 木曜日

県庁ノ印鑑ヲ製シテ官員一同ニ授与シ其旨參軍本營ニ通知ス此印

鑑ヲ以テ哨兵線内ノ通行及ヒ線外ニ出ルヲ許ス

県令各区戸長ヲ召集シ説諭ヲ加フ其大意左ノ如シ

県下不幸ニシテ此暴挙ニ際シ産ヲ破リ業ヲ廢シ塗炭ノ疾苦ニ罹ル者
不少此時ニ當リ朝旨ノアル所ヲ示スモノ区戸長ヲ除テ誰ゾヤ依テ今
予カ一般ニ示ス所ノ布達ニ基キ広ク其意ヲ擴張シ勉メテ人民ヲ慰諭
セヨ

此日出頭人員

第壹大区戸長

- | | |
|--------|-----------|
| 一小区 | 時任 源左衛門 |
| 同 | 松 元 利 中 |
| 同 | 野 添 直 八 |
| 二小区 | 境 田 幸 助 |
| 同 | 木 村 利 元 |
| 四小区 | 土 橋 藤 助 |
| 同 | 小 田 為 方 |
| 同 | 有 馬 嘉兵衛 |
| 同 | 川 崎 彦兵衛 |
| 五小区 | 鎌田五郎左衛門 |
| 同 | 坂田善五左衛門 |
| 同 | 山 口 彦 七 |
| 同 | 益 山 新 介 |
| 同 | 佐々木 太郎太 |
| 同 | 石 原 正兵衛 |
| 六小区 | 山 本 猪散太 |
| 第二大区戸長 | |
| 一小区 | 滝 間 藤五郎 |
| 同 | 町 田 仲左衛門 |
| 同 | 大 山 郷右衛門 |
| 同 | 伊 地 知 一 郎 |
| 同 | 重 信 彦 八 |

山下 弥左衛門

高尾野戸長

瀬上 新左衛門

大根占戸長

淵 辺 彦兵衛

佐多戸長

児玉 恕左衛門

右總計八十人

島津久光父子將ニ桜島ニ逃レントスルト聞キ県令其邸ニ就キ之ヲ止メントス途ニ從者ニ逢ヒ既ニ去ルヲ聞キ果サズシテ歸ル

第七号ヨリ第十二号并ニ番外ノ布達ヲ揭示ス

第七号

鹿兒島裁判所三月十一日開庁候処本月四日ヨリ開庁事務取扱相成候条訴狀等總テ該裁判所長六等判事寛元忠名宛ニテ同庁へ差出可申此旨相達候事

但宮崎支序ノ義モ追テ開庁相達候迄訴狀等本庁へ差出可申事

第八号

海軍大佐 仁礼 景範

当分鹿兒島県令ノ心得ヲ以御用取扱被

仰付置候処不及其儀候事

明治十年五月二日

征討總督本營

右被相達候条為心得此段布達候事

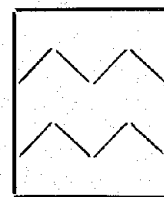
第九号

鹿兒島港出入ノ船舶ハ自今非常警備ノ際ニ付出帆前積荷乘客巨細ニ相記シ当直軍艦、屹度可届出此段布達候事

但当直軍艦へハ左ノ標旗相掲ケ有之候ニ付此段モ可相心得候事

当直軍艦標旗難形

赤地白山形



第十号

今般暴争ノ際一時方向ヲ誤リ及ヒ賊徒ニ脅迫セラレ不得止附和從軍セシ者更ニ反正帰順前非ヲ悔悟シ謝罪自首スルニ於テハ速ニ征討總督へ具上シ寛典ノ御処置ヲ可仰候条此段相心得反正帰順ノ者ハ速ニ可申出此旨布達候事

第十一号

県下磯海軍造船所前通住還ノ儀哨兵差出方ノ都合有之本日ヨリ通行差止候条此旨管下一般へ可相達旨征討總督本營ヨリ御達有之候ニ付此段為心得布達候事

第十二号

今般県庁構内第四課中ニ帰順掛ヲ置キ候間反正悔悟ノ者自首候節ハ戸長ノ奥印ヲ受ケ直ニ右四課へ申出候様可致旨布達候事
番外

下町戸長中

其町内ニ住居スル官許宿屋職ノ者ハ勿論其他ノ者ト雖トモ当分ノ内旅客ヲ始メ親族知已ニ至ル迄止宿為致候儀一切被差止候旨征討本營ヨリ御達相成候条得其意心得違ノ者無之様精々注意可致此旨布達候事

第四課中へ帰順掛ヲ置ク

県庁ノ官金ヲ竜驤艦ニ預ク

六等判事寛元忠鹿兒島裁判所長被 仰付昨二日当地着ノ旨同人ヨ

リ通知アリ

昨日県令ノ説諭ニ基キ従前官員八十三人銘々暴挙以來ノ始末書ヲ差出ス

四月廿五日太政官ヨリ廿一名ノ内元大属今藤宏右松祐永義田長停
外ニ松元武雄四人ノ者捕縛ノ上九等警部平林忠正一等巡查吉田直
外七名ニ護衛セシメ本日出帆ノ扶桑丸ニ乗セ長崎県へ送致ス

長崎県令北島秀朝へ掛合書

過日及御談置候通捕縛拘留ノ者別紙人名書ノ通右松祐永外三名九等
警視属兼九等警部平林忠正ヲ以及護送候間追テ何分ノ儀相定迄御預
リ置有之度候也

別紙略之

四月廿五日太政官ヨリ御達相成タル廿一名ノ者本県出張警視局ニ
於テ取調候区分左ノ通

明治十年四月

鹿兒島県元大属

今藤 宏

廿七日拘留

同

元中属 義田 長 僊

同

一等属 右松 祐 永

西郷ニ随行出兵

元一等警部 中島 健 彦

同

元四等警部 中山 盛 高

同

同 河野 通 英

同

元六等警部 古川 源 助

同

同 宮内 俊 蔵

西郷出兵ノ前戦
使ニテ出兵ス

元十五等出仕 伊藤 一 作

同

士族 篠崎 新 平

出兵

同 嶋本 義 澄

同

同 彌養 潔

同

同 平山 竜 助

同

同 木藤 武 章

高知辺へ戦使
本年五月三日

同

拘留

同

出兵

同 青山 行 道

同

同 永吉 小 藤 辞

同

同 谷口 藤 太

行衛知レズ探偵中

同 樺山 資 綱

同

同 仁礼 景 道

同

同 大久保 規 正

同

同 大久保 一 郎

右兩人ハ中原尚雄同様賊徒ヨリ嫌疑ヲ受ケ捕縛糾問ノ末問屋預
ケ相成居リ今般出張警視局ニテ取調不審ノ廉無之帰宿申達セラ
レ何時ニテモ呼出シ出頭可致者ノ由出張警視局ヨリ申来ル

川村参軍ヨリ左ノ通御達相成候旨通知アリ

今般当鹿兒島県警部并ニ巡查被魔候ニ付警察之儀ハ此際其官ニ於テ
夫々着手可致尤巡回等諸般ノ儀ハ県令へ打合可取計且兵器所持戦地
進退ノ儀ハ従前之通可相心得此旨相達候也

明治十年五月三日

川村参軍

田辺中佐殿

衛生掛申付候事

三等属 白根 大 道

任九等属

九等警部 岡上 雄 次郎

第一課衛生掛申付候事

五月四日微雨 金曜日

午後十一時三十分旧城山新上院ノ方ニ当リ始テ砲声ヲ聞ク十二時
山口馬場士族菱川奎之助宅ニ放火アリ暫アリテ鎮火ス賊ノ所為ナ
リト云フ是ヨリ先キ川村参軍旧小松帶刀邸中士族長崎用蔵ノ宅ヲ
以テ征討本營トシ此ニ居ル高島少第一旅団六大隊田辺中佐第三
旅団二大隊曾我少將第四旅団ヲ率ヒ大山少將拔刀隊一中隊凡ソ百
五十名ヲ指揮ス市街ノ四方皆哨兵線ヲ布キ外部ハ旧船手ノ河涯ヨ
リ新上橋西田橋武ノ橋ヨリ川尻ニ至リ山手ハ新上院後ノ山ヨリ旧
城山ノ内和泉崎岩崎ノ北ヨリ山脈ヲ東ニ涉リ又旧厩新橋石蔵隅ヨ
リ海手辺迄ニ及フ内部ハ山口馬場高見馬場天神馬場千石馬場山下
橋大手橋等ニ胸壁ヲ築ク昨日ノ探偵ニ因レバ賊ハ蒲生ヲ本營トシ
一手ハ加治木重富一手ハ下田川上ノ両村ヲ経テ西田村武村上ノ園

辺へ屯集ス又夕別府晋介逸見十郎太貴島卯太郎等ハ加茂郷加治木郷吉田辺ニアリト云フ

陸軍中將兼議定官二品親王東伏見貞愛上陸シ島津久光ノ邸ニ在リ此日征討本營ヨリノ通知ニ基キ賊徒追々襲来ノ形勢アルヲ以テ哨兵線外ノ人民ヲ立退カシメ且ツ内外ノ往来ヲ禁ズ於是人民大ニ驚愕シ家具ヲ提携シ或ハ什器ヲ埋藏シ哨兵内外ノ雜踏蹂躪ニ甚シ如此通路梗塞スルニヨリ内外人民ノ県庁ニ来テ鑑札ヲ乞フモノ頗ル多シ雲ニ県庁ニ居ラシメタル官員及其家族等ヲ県庁内ニ移転セシメ第六課ニ命ジテ糧食ヲ供給セシム

去ル二日区戸長赴集ノ達ニヨリ隅州地方ノ区戸長本日出頭ス渡
辺大書記官之レニ面会シ昨日県令ヨリ各区戸長ヘ演舌ノ旨ヲ以テ
一同ニ説諭ス
出頭人員

日向国第壹大区

[illegible]

副戸長 村山 藤一兵衛

副区長	篠田政竜
戸長	川崎盛善

今朝來追々賊徒襲來ノ報知有之候処ニ只今一里位ノ処へ相見へ候報知有之候間昨夕着港ノ五大隊兵士上陸為致候旨川村參軍ヨリ報知アリ

県庁門関通行ノ規則ヲ定ム

限門通行ハ県官及ビ県庁ニ召使候士卒共県庁ニテ相渡候印鑑相改候
上通行可為致其外ノ者ハ一切通行ヲ嚴禁ス

但無執事故有之通行申出候者有之候得バ一応伺出候上通行可為致

其他不審ノ者ノ通行候ハ、遠ニ可申出事

川村參軍八掛合書

当県官員通行印鑑ノ儀ニ付昨日雛形相添及御掛合置候処猶又区戸長
其外ヨリ追々願出候ニ付今朝ヨリ別紙雛形ノ印鑑相渡置候間夫々御
達相成度此段重テ及御掛合候也

別紙印鑑雛形

割印

鹿兒島県何大小区正副戸長

士族等

姓名

別何号

新タニ假定シタル仮病院ハ元医学所ニシテ哨兵線外ニアリ此際兵
要ニ係ルモ難計俄カニ之ヲ庁中ノ元第二課跡ニ移ス

米廩掛官員ヲシテ現米ノ在高ヲ調査セシム

曾根一等屬之ヲ監督ス

從前官員ヨリ差出タル取調書

古米壹万八千四百八拾六石三斗九升八合
右奉行十二月残本

新米四万四千九百八拾五石貳斗四升四合

右奉行秋貢納米各郷御蔵ヨリ回米本

合米六万三千四百七拾壹石六斗四升貳合

右ノ払

米六万六千八百八拾壹石七斗七升九合

右奉行十二月一日ヨリ丑四月三十日迄

家禄賞典并草高所務米払

但株々取分方至急難調ニ付相混総計ヲ以記載仕候

差引

残米貳千七百八拾九石八斗六升四合

右子ノ十二月ヨリ丑四月迄入払差引仕候廻右之通御座候

米蔵出張

六等属

有川一平

十等属

有田藤助

等外三等出仕

浜島新助

米蔵詰

等外一等出仕

今井喜藤次

奥金左衛門

川上作右エ門

右ハ是迄土族ノ需メニ応シテ日々禄米ノ渡方ヲ取計来ル所更ニ改

テ從來ノ手續ヲ以テ可払渡旨曾根一等属ヨリ従前官員十等属有田

藤助ニ相達ス

於管下有米ノ内近日本倉ヘ可相廻分モ亦タ従前官員ニ命シテ調査

セシム

同取調書

一真米九拾七石

福山寺

一同拾九石貳斗

國分寺住吉

一同三拾貳石

同浜ノ市

一同貳拾八石八斗

同真孝

一赤米壹石貳斗八升

同

一真米六拾六石

根占組大根占

一同貳百拾四石七斗七升九合

同佐多

一同九拾貳石

大始良寺

一同百七拾六石

高須寺

一同五百四石

内ノ浦寺

一同五百五拾石

加治木寺

一同百四石七斗六升五合

國分寺小村

一同六拾八石

出水寺

一同百六拾石

菱刈寺太良手

一同百貳拾五石

同牛山手

一同貳百石余

蒲生寺納屋町

一同貳百五拾四石四斗八升

長島寺

一同百五拾七石九斗五升五合

出水寺神之江

合直米貳千八百四拾九石九斗七升九合

合米壹石貳斗八升

右之通県下米蔵へ廻米殊大概右之通ニ御座候也

明治十年五月三日

第六課出仕

本日ヨリ夜衛ヲ戒嚴シ本県官員并ニ裁判所官員モ亦一同交番ヲ以

終夜庁中ヲ巡邏ス

賊徒追々襲来シ哨兵線ノ通路梗塞シ線外ノ獄舎ニ囚人差置キ難キ

ヲ以十等警部上倉繁蔵外十一人ニ命シテ郡元獄舎ノ囚人ヲ庁内ノ

監倉ニ移ス

郡元獄舎囚人五名

東京府平民北八丁堀

丑五月十日拘留 罪名不分

依岡長次
本県吉野村平民

懲役終身 九年四月廿六日ヨリ
同十年

水淵新介
多計

同大区六小区無番
屋敷運香亀太郎妻

同一年
同七十日 本月七日 満期解放

満舞
久満

征討総督本營ヨリ達書

磯島津從三位邸哨兵必要ノ地ニ付兵隊入込候条右至急可相達候也

五月四日

右御達ニ付二等屬伊藤一郎五等屬大江遼ヲ以テ其旨ヲ達ス家扶新時ナル者之ヲ領諾ス

第十三号ノ布達ヲ揭示ス

第十三号

暴徒追々襲来ノ趣ニ相聞候条下哨兵線外ノ人民立退候様至急可相達候也

但哨兵線内ノ人民ハ立退ニ不及候事

五月四日

征討総督本營

右之通御達相成候此旨布達候事

第十四号

暴徒追々襲来ノ模様ニ付兵備ノ都合有之陸地哨兵線ノ往来ヲ禁シ且御用船ヲ除クノ外大小船舶入港差止候条此旨相心得至急其向ヘ可相達候也

但山港ノ船舶ハ検査ノ上不都合無之候ハ、出帆差構無之候也

明治十年五月四日

征討參軍河村純義

右之通御達相成候此旨布達候事

九州臨時裁判所御用復命ハ柴太一郎担当シ自分ハ從是戰地ヲ經テ入県可致旨江馬三郎ヨリ柴太一郎ニ托シテ届山ル

開戦ノ後ハ時々四課中ノ官員五名ヲ派出シ実地ノ戦景ヲ報知セ

シム陸軍用船傭入レノ為メ二等屬伊藤一郎ヲ桜島ニ遣ハス
五月五日雨 土曜日

午前四時五十分西田橋西涯新照院旧大德寺上和泉崎辺ニ於テ開戦ス五時三十分始テ西田町片馬場後馬場柿本寺辺ニ放火ス午前九時二十分築地滑川行屋通り辺ニ放火ス是ヨリ先キ午前六時県令寛判事等ト共ニ雨ヲ冒シテ旧城山ニ登リ戰地ノ実景ヲ巡見ス

第十五号
第十六号
第十七号

第十五号

今曉開戦以來火災ニ罹リ日下凍餒ニ迫リ候者ハ御規則ニ照シ救恤可取計候条速ニ県庁ヘ可申出此旨布達候事

第十六号 告諭書

管下嘯集ノ暴徒一旦肥州ニ闖入シ王師ニ抗抵シ其罪素ヨリ誅ヲ容レヌ因テ不被為得已御征討被仰出候次第ニ有之然ルニ其本原タル当初前県令大山綱良ヨリ中原尚雄以下ノ口供相添ヘ布達セシ趣モ有之処右口供ノ如キハ拷問ノ上出来セシモノニテ全ク以テ信憑スヘカラサル儀ニ有之然レドモ尚東京ニ於テ裁判所ヲ開カレ大山綱良ハ勿論其他夫々糾問ヲ遂ケラレ候ニ付不遠至理至當ノ御処置可相成ハ必然ニ有之条曩ニ大山綱良ヨリ布達セシ旨趣ヲ妄信シ方向ヲ誤ルヘカラス殊ニ賊鋒挫シテ今日ノ敗衄ニ及ヒ日州ニ潰走スルヲ以テ県下ニ復帰シ再ヒ良民ヲ可害モ難計ニ付 朝廷深ク人民ノ保護ヲ要セラレ現今鹿兒島表ニ海陸軍及ヒ警視隊ヲ派遣セラル然リト雖モ最前暴徒ニ脅迫セラレ附和随行セシモノ其他前非ヲ悔悟シ謝罪自首スルニ於テハ速ニ征討總督ヘ具伏ヲ遂ゲ寛典ノ御処置ヲ仰クベク加之仮令一時賊軍ニ党シ戰地ニ臨ミ傷痍ヲ受シモノト雖モ至仁好生ノ御趣意ヲ以テ一切官費ヲ以テ療養可致事ニテ既ニ通俊赴任ニ際シ熟練ノ医員且藥品等相提携シ新ニ病院ヲ設置シ人民非命ノ死ニ陥ラザル様厚ク注意シ速ニ開院候条此等期意ノ在ル所ヲ衆人ニ告示シ一人タモ良心ヲ感發セシメ且ツ非命ノ死ヲ救ヒ度志念禁ズル能ハス仍テ告諭ス各自早ク之レヲ鑑ミ反正帰順スル処アレ

第十七号

先般暴挙ノ際一時方向ヲ誤リ候者先非悔悟ノ上致改心帰順度面々ハ
左ノ雛形通書面相認戸長奥印ノ上本人或ハ親戚ヲ以テ至急可差出此
旨相達候事

雛形

從軍ノ者帰順并療養願

自分儀先般暴挙ノ節一時方向ヲ誤リ脅迫セラレ從軍仕候処実ニ心得違
ニテ更ニ改心帰順仕度且戦地ニ於テ負傷仕候間病院ニテ療養被仰付
度奉願候以上

本籍

何之誰印

県令宛

右之通相違無御座候依テ奥印仕候也

戸長

何之誰印

金穀差出候者帰順願

自分儀先般暴挙ノ節一時方向ヲ誤リ或ハ脅迫セラレ金何田米何石差
出候段実ニ心得違ニテ深悔悟仕今更恐入候此段奉申上候以上

本籍

何之誰印

県令宛

右之通相違無御座候依テ奥印仕候也

戸長

何之誰印

五月六日曇 日曜日

県令警察戸籍ノ官員ヲ率テ火事場ヲ巡視ス東西ノ七族屋敷一時ニ
兵燹ニ罹リ炎天ニ漲ル其機ニ乗シテ竊盜強奪ノ患不少又タ如何ト
モスヘカラス

上町戸長へ達書

一昨四日賊徒襲来ノ趣相聞立退ノ義相違候処以来其区内人民目下凍
餓ニ迫リ候者有之哉ニ致承知実ニ不堪憫然候右ハ昨四日布達致置候

通り例規ニ照シ御救助ノ義モ有之ニ付右御救助相願候者男女姓名年
齡等寫ト取調早急可申出候尤哨兵線内ニ於テ相願度輩ハ取調之上願
意中出候様可致ニ付是亦可得其意候此旨相達候事

用米買入ノ為メ第六課八等属大森利学ヲ長崎ニ遣シ同所出納局出
張所在勤大蔵権大書記官長岡芳男ニ議シ其買入方ヲ辦理セシム

長崎出納局出張所大蔵権大書記官長岡芳男へ掛合書

一筆致啓上候然者昨五日早晩ヨリ賊軍來襲ニ付戦爭相開キ一時三面
ニ兵火相起リ只今迄鎮火ノ模様無之実ニ数千戸ノ焼亡加之市中人民
ハ悉皆難散其窮乏之実ニ慘然之次第有之依テ目下凍餓ニ迫ル者御救
助筋陸續願出相成然ニ当今県庁ニ支配ノ米ハ纔ニ貳千石余ニシテ陸
軍等ニ融通致候分モ有之其外追々土族其家祿操替ノ儀願出候ハ必然
ニテ忽テ米穀ノ闕乏ニ至可中候間兼テ御申合申通東京ニ於テ既ニ伺
済ノ事ニ有之候間此段承知御買上ケ御廻付有之度方一即時五千石行
届兼候ハ、差向三千石御廻シ越相成殘額貳千石ハ次便船ニテ御廻シ
相成候様致度代金ノ儀ハ一時御操替追テ返納ノ手順ニ可取計候右前
件ノ次第ニテ焼眉ノ急ニ付即時夫々御取計有之度依テ属官大森利学
差出候間尚御聞取有之度御掛合申入候也

今後県庁ノ印鑑ニテ哨兵線ヲ通過スル事ヲ許サハル旨征討本營ヨ
リ達シ米ル

征討總督官ヨリ達書

今般其県下エ九州臨時裁判出張所相設候筈ニ付右ニ属スル費用金ハ
其県ニ於テ一時操替置可申此旨相達候事

明治十年五月六日

八等属 大森利学

御用有之長崎出納局
出張所へ出張申付候事

五月七日晴 月曜日

五口以来變火益盛ナリ夜々小戦アリ島津家祠堂浄光明寺焼亡ス

川村參軍ヨリ達書

別紙ノ通り各旅団長へ相達置候条不審ノ者ハ巡查ニ於テ取押直ニ其

県第四課へ送致可致ニ付事案詳細取調犯罪人ハ其口供ヲ附シ本隊へ引渡贖品ハ県庁ニ預置致候様可取計此旨相達候事

別紙

当地開戦以來混雜ノ紛ニ人民ノ家屋へ立入狼リニ家財ヲ取出シ候者有之哉ニ付右不審ノ者ハ巡查ヲ以テ物品取調為致候條此旨相心得各部下へ無漏可相達候也

明治十年五月六日

川村参軍

各旅団長宛

川村参軍へ伺書

各旅団長へ御達ノ写相添犯罪人ハ其口供ヲ附シ本隊へ引渡云々ノ御達ハ軍属ニ関スル傭人等ノ儀ニ候哉又ハ軍属ニ関セザル一般ノ士族平民ノ犯罪人ニテモ旅団へ送付致シ此際裁判所へハ不関儀ニ候哉相伺候也

同回答書

巡查ニ於テ取押其県第四課へ差送ル各旅団ノ犯罪人ハ口供ヲ付シ本隊へ引渡云々ノ儀ニ付被問越候趣致承知候右ハ全ク軍属ニ関セサル一般ノ士民ハ無論其県ニ於テ処分可致答ニ有之候條此旨及回答候也
別働隊第一旅団會計部長平部副監督ヨリ掛合書

土塁築造用竹木并空俵縄ノ類貯蓄品殆ト払底ニ至リ講求方種々着手致候得共一昨朝開戦以降ハ近傍人民逃走候ニ付買辦ノ道絶果大ニ差聞罷在然ルニ從來人民所有之分未タ市中所々ニ相見候ニ付御庁ヨリ御立会ノ上右品柄員数日所有主等明細取調一時急場ノ用ニ相充テ後日ニ至リ適當ノ代価下渡候様致度候ニ付一応及御懸会候條至急何分ノ御回答有之度候也

右ニ付仮リニ左ノ方法ヲ設ケ何時ニテモ官員差出可申旨回答ス官用ノ為メ不得止其逃散シタル人民ノ遺留物ヲ使用スルハ県官区戸長ヲ率ヒテ其求ムル所ノ官員ト共ニ物品主ノ家屋ニ至リ戸長ヲシテ倉庫窓ヲ開放シ物品ヲ黙檢シ戸長ノ帳簿ニ記載セシメ之ヲ官員ニ渡スベシ而后其倉庫ヲ閉テ鎖鑰ヲ施コシ必ス之ヲ封印シ所有主ノ所在

ヲ知ル時ハ戸長ヨリ之ヲ本人ニ報知シ若所在ヲ知ラサル時ハ使用シタル物品ノ細目ヲ詳記シ以テ其所有主ノ軒下等ニ揭示スベシ

県令ヨリ西郷隆盛ニ贈ル書

足下拳兵以來肥後ニ屢王師ニ抗抵シ一時猛烈ヲ極ムト雖モ遂ニ大ニ潰ヘ再ヒ事ノ為スカラサルヤ知ルベキノミ而シテ尚鋒ヲ回シ士民ヲ煽動シ干戈ヲ弄スルニ其心安クニ在ルヤ通俊襲ニ乏ヲ鹿兒嶋県令ニ承ケ今県庁ニ在リ専ラ人民ノ安寧保護ヲ謀ル足下亦幼ヨリ此地ニ長ス豈其慘毒ヲ快トスルノ意アラシヤ早ク之ヲ禰ミ衆ニ代リ罪ヲ謝シ一人タモ非命ノ死ニ陥ラサシメバ是レ則身ヲ殺シ仁ヲ為スノ一端ニシテ既ニ順逆ヲ誤ルモ聯カ之ヲ償フモノ有ン通俊牧民ノ官ニ在テ痛嘆ノ至ニ耐ヘス為メニ一書ヲ贈リ副ルニ此告諭書ヲ以テス幸ニ鑑ル処アレ不宣

明治十年五月七日

西郷隆盛殿

鹿兒嶋県令岩村通俊

第十八号布達

此程賊徒襲来ニ付去ル四日哨兵線外ノ人民至急立退ノ儀相達候已来引続キ各所兵火ニ相成候ニ付テハ右人民ノ中己ニ目下饑餓ニ迫リ候者モ有之哉ニ相聞実ニ愍然ニ不耐候依テ右等困窮ノ者ハ例規ニ照シ御救助相成候間右救助ヲ受度者ハ直ニ左衛門坂上女学校へ罷出テ願意可申立此旨布達候事

午後八時柴太一郎肥後ヨリ帰ル

五月八日晴 火曜日

三方ノ兵火尚未タ熾マス昨夜賊軍數百近郷ニ來集スト云フ

従前官員四拾八人ノ職務ヲ免ス先是五月二日県令在庁ノ従前官員三十四名ニ懇諭シ各各暴挙以來ノ始末書ヲ差出サシム然ルニ開戦已後今日ニ至ル迄出勤スルモノ僅カニ三人ノミ依テ終ニ若干官員ノ職務ヲ免ス

大久保内務卿へ電報

此間申上候通着県ノ上從來ノ官員呼出方向等取料候末手續書為指出候得共開戦後県庁へ不罷出何方へ立去り候哉不相分ニ付因テ先ツ東京詰支庁詰其他西三人県庁へ詰居候者ヲ除キ不殘八日免職致候人名ハ郵便ニテ御届申スベシ

受付掛心得書ヲ定ム

一 受付掛ハ県庁内人民直接ノ第一場ニシテ県治着手ノ興廢人民信否ノ呼吸ニ関スル尤緊要ノ地ナレバ勉テ寛厚恕言輕卒ノ舉動ナク緩慢ノ所置ナク一言ト雖モ前後ヲ辨別シ人民ノ親悦ヲ来タス様注意スベシ

二 当時ハ別シテ乱離ノ間ニシテ人民ノ失産喪業土炭ノ疾苦ニ罷ルノ時ナレバ平常受付ノ順序ニ難至或ハ老幼婦女ノ言語スラ解シ難キモノアリ或ハ寒餓窮迫戸長ノ手ヲ經ル能ハサルモノアラン宜ク其情意ヲ察シ須ク便宜ノ処分ヲ具申スベシ

三 老幼婦女ニ限ラス強壯ノ者ト雖モ無筆等ノ者ハ兼テ掛リ中ニ於テ筆者ヲ定メ置キ手輕ニ願意ヲ記述シ実印又ハ拇印ヲ取り差出スベシ

但戸長出頭ノ節ハ戸長ニ書記奥印セシムベシ

右ノ条々厚ク相心得自然難解事件有之節ハ其時々稟議ノ処分スベシ遊撃別手組所謂抜刀隊ハ終日無事ナルヲ以テ暴戾ヲ制シ難シ依テ平ノ馬場深見休ハカ教場ニアル擊劍道具ヲ備用シ擊劍演習ヲ以テ消日致サセ度旨大山少將ヨリ申来ル何時ニテモ立公保証スベキヲ回答ス

県庁ノ印鑑ヲ改造ス

川村參軍ヨリ桜島垂水辺ノ魚商等前ノ派ニ来リ營業被差許候ニ付各郷へ通達可致旨申来ル依テ右等ノ者共線内へ立入候ニ付テハ本營ノ印鑑授与可相成哉否ヤ尋問ニ及フ処桜島垂水辺ノ魚商等ニ限リ本県ヨリ鑑札相渡シ置クヘキ旨回答アリ依テ左ノ規則ヲ定ム

県庁印鑑渡方心得

一 華士族印鑑願出ルトキハ征討參軍へ尋問ノ上指揮ニ從ヒ可取計事

一 哨兵線内ノ人民往來印鑑願出ルトキハ戸長ノ保証書取り下渡スベシ若シ戸長ノ首肯セサル者ハ住居姓名聞知シ直ニ四課へ廻シ同課ノ調査ヲ要シ不審ナラザルモノハ印鑑ヲ授与ス

一 桜島垂水辺ヨリ魚類其他ノ物品ヲ搬売スル商賈并淘圖者ノ如キハ別種木製ノ鑑札ヲ授与ス

但戸長ノ保証書ヲ要スルハ前ニ同シ

一 桜島垂水辺ヨリ來ル商賈又ハ淘圖者等ニ渡スベキ鑑札ニハ夜中哨兵線ノ出入ヲ禁止スヘキ旨ヲ記載スベシ

但哨兵線内ノ者桜島垂水辺ニ出ル者モ亦タ本文ニ準ス

右之通取極置候事

帝札鑑形

木札鑑形

竪六寸一分

竪一寸九分五厘

割印 姓名 番号	表 区地名 人名	横		裏	
		四寸一分	夜中哨兵線ノ出入ヲ禁ス	一寸二分	鹿兒島
番号	番号	五厘			

前県令大山綱良在職中本県裁判所ト申合セ懲役百日以下ノ犯罪ハ答杖実決致シ來リ候趣然ルニ今後ハ都テ懲役ニ処断相成度旨鹿兒島裁判所ニ申入レ同裁判所其旨ヲ承諾ス

第一大区十一小区旧下金生町百拾四番地山下吉之助へ魚商用達申付ル

川村參軍ヨリ達書

哨兵線内住居ノ者ハ過日開戦ノ際一時線外エ立退候者不少候処追々自宅ニ立戻リ度者モ有之哉ニ付右取調ノ為メ上ハ元來院邸下ハ千石馬場并ニ武橋ニ至急救恤人取扱所取設ケ其旨可届出此段相達候也但場所取極ノ上ハ標札ヲ掲ケ置可申支

追テ取調ノ方法ハ田辺中佐エ協議ノ上不都合無之様可取計此旨申添候也

征討本營ヨリ達書

別紙ノ通九州各県へ相違候条為心得此旨相違候事

明治十年五月八日

別紙

其県下人民ノ内是迄日本形商船ヲ以テ鹿児島県下諸港出入候者不少候処追々官軍同県下へ相進ミ候ニ就テハ津々浦々迄嚴重取締可相成候条右商船ヲ以テ同県下へ往復ノ義当分禁止候条此旨相違候事
但違犯ノ者ハ海上ニ於テ海軍船艦ヨリ取糾シ候等ニ付此旨可為相心事

長崎県令ヨリ左ノ電報ヲ送致ス

兼テ申談置候通大蔵官員八名昨七日払曉ノ船ニテ出發為致候然ルニ其県下當時ノ景況ニテハ急ニ着手難成ニ付暫ク長崎ニ滞在為致置候ニ付其地都合宜布候ハ、其趣達方ノ儀長崎県令迄通知可有之候右鹿児島県令へ通達方宣布可被取計候也

明治十年五月八日

大蔵卿大隈重信

長崎県令北島秀朝殿

追々県治着手ニ付行政警察ニ可用巡查無之テハ県内視察ノ如キモ官員交番ヲ以テ徹夜巡邏スレハ悉皆不寝審ノ姿ニテ長々相続難致ハ勿論其他掃順掛救恤掛哨兵線内外ノ巡視窃盜放火ノ防禦ニモ差支行政ノ渋滞不少依之田辺中警視所轄ニテ本地出張ノ巡查五十名モ致借用銃器ヲ脱シ棍棒ニ代ヘ凡テ県令ノ指揮ニ随ヒ候様度々同人エ申談スト雖モ庄当節柄軍務多端ノ趣ヲ以旨諾不致ニ付不得止蒲原敬路ヲ肥後ニ遣シテ川路大警視ニ依頼シ柳原義則ヲ西京ニ遣シ行政警察巡查三百名至急本地へ被差廻度旨内務卿ニ申諾ス

長崎県令ヨリ掛合書

元御県備独逸人カラメル氏先般貴県引松ノ際当用品ノミ携滞致其他ハ住宅ニ残シ置キ召使辨次郎ト申者ニ保護為致置候由然ルニ此節貴地ヨリ来ル汽船乗組ノ外国人ニ伝承スルニ昨今官軍多ク御操込相成同人ノ居宅等モ總テ兵士ノ止宿所ニ被充候趣ニテ多少家具毀損モ難量ニ付御県へ出向候テ夫々所置致度旨申出候得共方今開戦ノ趣ニ

モ相聞ヘ何分離聞屈筋ニ付説諭相加ヘ自分罷越候儀断念イタシ候得共頗ル懸念ノ体ニ相見エ候間果シテ同人伝承通ノ物品ノ毀損モ有之候ハ、必ス他日ノ紛論ニ涉リ後患ノ釀成モ難計ニ付右所屬ノ物品ハ追テ彼等進退ノ御指令有之迄成丈ケ毀損無之様御保護相成度且又同御備蘭人スケツプル氏妾勢以下申女今以貴地ニ滞在同人不在中カラ一メル氏ノ委託ヲ受ケ居候者ノ由万一混雜ノ際不慮ノ過チ有之候テハ殊更相濟不申儀ニ付可成ハ当地迄引松為置度段併テ願出候間御差問無之候ハ、便船ヲ以テ御差送相成度尤右勢以看護致居候由ノ物品ハ同人為立合封印之上貴庁ニ於テ一同御保護相成度此段及御掛合候也

十年五月八日

第十九号番外二三ノ布達ヲ揭示ス

第十九号

従前相渡置候通行印鑑相磨シ更ニ印鑑可相渡候条本日午後第六時迄ニ引替可申出此段相違候也

番外二

一等属 横山貞邦

以下百四十七人

右本日免本官候条此旨為心得布達候事

番外三

当分之内郵便事務県庁内ニテ取扱候条各地へ郵送ノ書状等ハ都テ県庁内郵便事務取扱所へ可差出候事

十年五月八日

郵便局出張

郵便局

第六課申付

雇 手塚元治

月給金六円給与候事

四等属 蒲原敬路

御用有之肥後表大警視

出陣先へ出張申付候事

同 第一課申付候事

九等警部 須知彦太郎
八等属 上村直

同
第六課申付候事

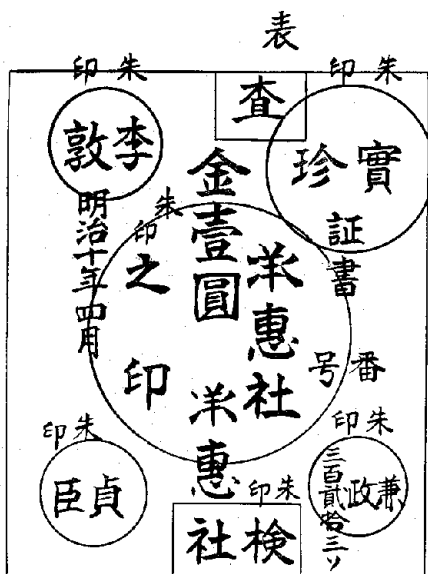
同
九等屬
鈴木 壯七
伊藤 俊治

五月九日微雨 水曜日

總督本營ノ命ヲ以テ大沼少佐来リテ云ク哨兵線外武橋ノ近辺ニ幾
許ノ娼婦嬰アリテ胸壁外ニ輻湊シ皆号泣シテ其帰向スル所ヲ失
フ県官速力ニ彼地ニ至リ慈誨ヲ以テ誘引セバ必ス帰向スルモノ多
カラント此ニ於テ大江通樂太一郎ノ兩人命ヲ受テ彼地ニ至リ新県
令赴任以來深ク人民ノ疾苦ヲ慇ミ目下凍餒ニ迫ルモノハ何レモ御
救助ノ恩典ヲ蒙ルヘキ旨ヲ諭ス

磯校油会社ノ番人等逃去リシ後該会社中ニ遺物米拾八俵金三拾円
八十七錢五毛有海軍少尉補安任保弘監護致シ居県庁ニ引渡旨申来
ル依テ三等屬新島善之五等警部大滝新十郎ノ兩人ヲ遣ハシテ金穀
ヲ受取ラシム其内承惠社發行ノ金券壹円壹枚五拾錢貳枚アリ
承惠社金券ノ図

縦横寸法図ノ如シ

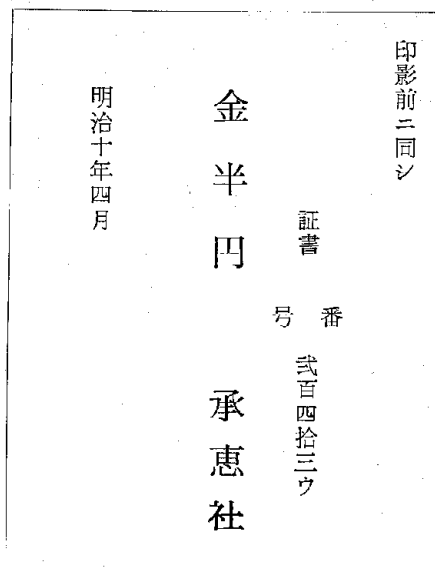


裏

此表借金返辦ニ付テハ撫育乳
惠商社合金三千七百五拾円ヲ
以テ月々返辦可申且又大坂工
通商金融調ヒ候上ハ多少ヲ不
問引換可申者也

印影前ニ同シ

表



文面前に同シ

裏

朱 印

金 半 円

右文中撫育承恵両社云々承恵社ノ起立ハ未タ分別ナラザレドモ撫育会社申合規則ナルモノニ依レバ蓋シ明治七年甲戌四月ノ創立ニ係ルモノ、如シ金券製造高モ分明ナラサレドモ旧四等屬養田長信カ裁判所ニ白セシロ供ニ依レハ瀨辺軍平逸見十郎太別府管介戦地ヨリ立戻リ旧六等屬鎌田政直ニ談シ承恵社ニ命シ同社ヨリ願書為差出製造シタル金高六万円ニシテ既ニ發行スルモノ四万円残り貳万円ハ未タ發行セズト云フ

長崎県令ヨリ左ノ電報ヲ送致ス

鹿児島県外人引払ノ節鹿児島ニ残シ置キタル道具類保護方注意セヨト鹿児島県令ニ直クニ通知アリタシ

五月九日午後四時四十分

長崎県令エ 東京寺島外務卿

上吉野橋近傍入来院邸千石馬場伊勢邸武ノ橋近傍新屋敷三原佐吉邸ヲ以テ救恤取扱所ニ取極メタル旨川村参軍ニ上陳ス

川村参軍ヨリ左ノ通各旅団長へ御達シ相成候旨通達アリ

過日開戦ノ際一時立退キ候輩ニテ此節自宅へ立戻リ度者及ヒ兵火ノ

為メ居宅焼失致シ他ニ寄り処無之者等有之哉ニ付右等ノ内十歳以下七十歳以上ノ男子及婦人ハ年齢ニ不拘当分無鑑札ニテ哨兵線通行差許候条取調ノ上相違無之候ハ、上方限リノ者ハ吉野橋近傍入来院邸下方限リノ者ハ千石馬場諏訪伊勢邸并ニ武ノ橋近傍新屋敷三原佐吉邸救恤取扱所へ護送致シ候様各部下へ無遺漏至急可相達候也

但夜中ハ此限ニ非ル義ト可相心得候也

十年五月九日

川村参軍

曾我少将殿

高島少将殿

田辺中佐殿

救恤方手続ヲ定ム

第一条

今般兵變ニ罷リ或ハ失産ノ者ニシテ目下饑餓ニ迫ル者ハ悉皆之ヲ救助ス然レドモ現今非常警備ノ際ニ付右出願ノ為メ哨兵線ヲ通行スル八十歳以下七十歳以上ノ男子并ニ婦人ニ限ルヘシ

第二条

救恤取扱所ハ吉野橋近傍入来院邸武ノ橋近傍新屋敷三原佐吉邸千石馬場諏訪甚六邸右ノ三所へ相關キ掛リ官員而名并ニ区戸長ノ内一名合三名宛出張スルモノトス

第三条

救恤取扱所へハ救恤取扱所ト記セシ大書ノ標札ヲ掲クベシ

第四条

救恤人員并ニ現米渡し高ハ其日限リノ合計翌日午前八時迄ニ第一課へ届出ベシ

第五条

救助ヲ願出ル者ハ左式ノ願書二通ヲ製リ本人住所最寄ノ取扱所へ指出サセ一通ハ取扱所ニ留メ一通ハ掛リ官員捺印ノ上現米ト共ニ本人へ下渡スベシ

御救助願

何大区何小区

何村
何番地

戸主 姓名 年齢

妻 名 同

長男 名 同

長女 名 同

右ノ外家族不殘記載ノ旨

今般騒乱ノ為メ居宅焼失致シ或ハ至急立退後失産ニ及ヒ目下難業仕居候ニ付御憐愍ヲ以御救助被成下度此段奉願候也

年月日

右

姓名 印 或ハ
捺印

県令宛

前書之通相違無之候也

戸長

姓名 印

願之趣聞届候事

地名

救恤取扱所



第六条

明治八年百二拾二号ノ御規則ニ因リ男一人一日玄米三合(七十歳以上十五歳以下ハ女ノ割合) 女一人一口玄米二合ノ積リヲ以口数十五日分ヲ渡スベシ

第七条

救恤取扱所ニ於テハ日々凡ソ積リヲ以テ御殿下米蔵ヨリ現米ヲ受取置クベシ

第八条

現米渡方ハ本人ヘ下付シタル願書ノ指令ヲ見認メ毎小区二分チ日々

救助スル者ノ姓名并ニ米数ヲ左ノ書式ニ随テ記載スヘシ

但該帳簿ハ米渡シト本人受取証トヲ兼用ス

何大区救恤米渡帖

何小区

十年五月 日

町名地所番号

合米何斗何升

姓名印

但一日 何升何合宛本日ヨリ
来ル何日迄十五日分

家族何人

合米同断

姓名同断

通計何百何十人

合米何石何斗也

以上何月何日分

第九条

救恤願書ハ必ス戸長連印スルモノトス然レドモ若シ不在ノ時ハ本人取札シノ上聞届クベシ

第十条

救恤ヲ願ヒ出ル者ハ族籍簿ト取調ヘ若シ不分明又ハ形情疑ハシキニ於テハ県庁ヘ護送致シ嚴シク取糾ニ及フヘシ

第十一条

現米渡シ済之者ハ救恤米渡帖姓名ノ下ヘ本人又ハ戸長ノ内捺印スベシ之ヲ本人受取ノ証トス

第十二条

現米渡方ノ升取ハ戸長ノ取計ヒニ任スベシ

第十三条

現米ハ本人エ直チ二下ケ渡スモノト雖トモ多人数一時差集ヒタル時ハ合計シテ俵ノ儘戸長エ下ケ渡スモ其時宜ニ拠ルヘシ

但俵ノ内増減 俵令ハ三斗五升入ノ俵ニシテ アルトキハ詳細記載
三斗四升或ハ三斗六升ノ類ヲ云フ

スベシ

右之条件ニ拠リ取扱ヒ尚實際不便ヲ生スルトキハ取捨スヘキ者ナリ

本県ノ請求ニ依リ川村参軍ヨリ田辺中佐へ達書

当鹿兒島県庁警備ノ為メ毎夜交番ヲ以テ巡查十名宛同庁ニ相詰候様
可被取計此旨相達候事

但今晚ヨリ差廻候様ト可被相心得候也

十年五月九日

二等属伊藤市郎舩船六十五艘ヲ引垂水ヨリ帰ル

東京臨時裁判所玉乃二等判事ヨリ電報

其県旧官員ノ内死刑ニ可相成ハ暫時見合セ貰タシ大山綱良ニ引合有
之ニヨリ裁判所へ通知有之度云々

第二十号布

桜島区戸長

桜島垂水辺ヨリ魚類其他ノ食物前ノ浜ニ積來營業致シ度者ハ通船差
許鑑札相渡候条右營業望ノ者ハ来ル十一日迄二人名取調置可申此旨
相達候事

但追テ相達候迄ノ間夜中ハ一切通船ヲ禁シ候也

第二十一号布達

今般兵火ニ罹リ又ハ産業ヲ失ヒ目下饑餓ニ迫ル者ハ御救助被仰付候
則左ノ三個所へ救恤取扱所相開候条各最寄取扱所へ可願出候尤右山
願ノ為メ哨兵線通行ノ義ハ非常警備ノ際ニ候得共先以日中ニ限リ十
歳以下七十歳以上ノ男子并ニ婦人ハ年齢ニ不拘無鑑札ニテ通行被差
免候条其旨可相心得此段布達候事

吉野橋近傍

入来院邸

武ノ橋近傍新屋敷

三原佐吉邸

千石馬場

諏訪甚六邸

征討總督官ヨリ達書

鹿兒島県

其県下鹿兒島へ九州臨時裁判所出張所設置候条此旨相達候事

明治十年五月

同

鹿兒島県

福岡へ設置候九州臨時裁判所ヲ長崎へ移庁候条此旨相達候事

明治十年五月九日

桜島出張申付候事

御用有之西京へ出張申付候事

救恤掛申付候事

同

同

同

同

同

月給金八円給与救恤掛付
属申付候事

同

同

当分受付掛兼務申付候事

御用掛 河原田 盛美

同 柳原 義則

五等属 大江 益穂

五等警部 塩田 義茂

九等警部 齊藤 義茂

同 石川 克

同 森田 一寧

御用掛 真田 庵

同 本村 甚四郎

同 本村 幸輔

御用掛 川崎 竜助

同 小野 修一郎

五月十日晴 木曜日

十歳以下ノ男子及婦人ハ年令ニ不拘無鑑札ニテ荷物並ニ米金ノ類
持参イタシ哨兵線通行被差許度旨征討本営へ稟請ス依テ同營ヨリ
各旅団長へ達書

十歳以下七十歳以上ノ男子及婦人ハ年令ニ不拘当分無鑑札ニテ哨
兵線通行差許候段昨日相達置候処右等ノ者ハ荷物並ニ米金類トモ無
差支出入為致候様至急各部下へ可被相達候事

明治十年五月十日

曾我少將殿

高島少將殿

川村参軍

田辺中佐殿

追テ哨兵線側迄巡ヒ来リ居候者モ多分有之趣ニ付本文通行之大至急達方可取計此旨副達候也

当地未タ陸軍囚獄ノ設無之ニヨリ軍人軍属徒刑若クハ懲役所斷之者本県懲役所ニ於テ他役囚同様使役被取計度旨軍団陸軍裁判出張所ヨリ依頼ス依テ本県未タ懲役所ノ設無之候得共追々設立ノ積リニ付処分済ノ者ハ被差送度旨回答ス

軍中仮治罪法本庁へ關係ノ義モ有之ニ付川村參軍ヨリ送致ス

軍中仮治罪法

第一条

陸軍裁判所ニ送付スヘキ者別ツテ四ト為ス

第一

軍人軍属ノ犯罪者

第二

捕虜

第三

賊ノ間諜

第四

總テ疑フベキ者及ヒ一切軍機ヲ害スル者

第二条

軍人軍属ノ犯罪ハ之ヲ鞫問シ軍法會議ニ付シ其罪將校閉門以下下士黜陟以下卒夫役ニ当ル者ハ直ニ之ヲ判決シ斷案ヲ付シテ參謀部ニ交付シ戴罪服務ノ例ヲ從フヘシ其警官及ヒ徒以上ニ当ルモノハ地方警部ニ托シ之ヲ鎖鑰シ便宜ヲ以テ大坂ニ送り其刑ヲ行ハシム若シ自殺或ハ逃脫等ノ虞アル者ハ反縛鎖鑰スルヲ得將校回籍停官降官ノ刑ニアタル者モ上文專官云々ノ例ニ從フト雖トモ罪状ニヨリ裁判宣告ヲ為シ參軍ノ意見ヲ以テ相當ノ軍役ニ服セシムル事アリ

但其罪輕シト雖トモ犯状ニヨリ戴罪服務ノ例ニ從ヒ難キ者ハ仍ホ

上文ノ例ニ依ル

附箋

參謀部ニ交付スル者現今ハ斷案ニ糊封シ本犯ニ付シ帰隊ノ上該隊長ヲシテ戴罪服務ヲ命セシム

附箋

大坂ニ護送スル者何ヲ經テ刑名宣告ノ後地方監獄ニ托シテ役ニ服セシムニ改ム

第三条

捕虜間諜ハ直ニ之ヲ鞫問シ其軍機ニ関スル事項ハ即時之ヲ參謀部ニ申報シ該囚ハ地方警部ニ托シテ之ヲ鎖鑰シ時宜ニヨリ反縛鎖鑰スルモ妨ケナシ

附箋

警部ニ托シ鎖鑰スルモノ今日ニ在テハ都テ臨時裁判所ニ付ス

第四条

總テ疑フベキ者ハ直ニ之ヲ鞫問シ間諜ノ疑アレハ前条ノ例ニ從ヘ之ヲ鎖シ事定マルヲ待テ事實ヲ審明シテ処分スヘシ其疑ヒナキ者ト雖トモ住居賊ノ戦線内ニ在ル者ハ我軍情ヲ漏泄スルノ恐れアルヲ以テ之ヲ拘留シ時ヲ待ツテ釈放ス但事實明瞭ニシテ疑ノ容ルヘキナク且其家我戦線内ニアリ軍機ニ害ナキ者ハ裁判官直ニ之ヲ釈放スベシ

第五条

軍法會議ノ法尉官以下ニ在リテハ參謀或ハ監督部將校一名裁判官二名ノ會議ヲ以テ之ヲ決ス其降官及ヒ下士卒夫徒以上ニ当ル者ハ會議ノ上斷案ヲ付シ征討參軍ノ決ヲ取り死刑ニ当ル者ハ征討總督ノ裁可ヲ乞テ決スヘシ

但參謀部若クハ監督部將校本務繁劇ニシテ會議ニ參スル能ハサルトキハ斷案ヲ該部ニ移シ其意見ヲ問フベシ

第六条

佐官以上ノ犯罪ハ臨時會議ヲ設ケテ其罪ヲ斷決ス

軍法會議官等人員畧表

罪人

議員

尉官

參謀部若クハ監督部佐官

一名

同相當官

裁判佐尉官及同等官

二名

同 同

下士卒 參謀部若クハ監督部佐官或ハ尉官 一名
同相当軍属 裁判佐尉官及ヒ同等官 二名

神戸ヨリ随從スル所ノ本県士族八人ニ命シテ兵燹ニ罹リシ戸数ヲ
調査セシム

第二十三号布達

過日開戦ノ際一時立退候輩ニテ此節自宅ヘ立戻リ度者及ヒ兵火ノ為
メ居宅焼失致シ他ニ寄り廻無之者等有之哉ニ付右等ノ内十歳以下七
十歳以上ノ男子及婦人ハ年令ニ不拘当分無鑑札ニテ哨兵線通行差免
候条取調ノ上相違無之候ハ、上方限ノ者ハ吉野橋近傍入来院邸下方
限ノ者ハ千石馬場諏訪伊勢邸并ニ武ノ橋近傍新屋敷三原佐吉邸救恤
取扱所ヘ護送致候様各部下ヘ無遺漏至急可被相達候也

但夜中ハ此限ニ非ル儀ト可相心得事

明治十年五月九日

川村參軍

曾我少將殿

高嶋少將殿

田辺中佐殿

右之通川村參軍ヨリ各旅団ヘ相達候旨達有之候ニ付此旨布達候事

第二十四号達書

十歳以下七十歳以上ノ男子及婦人ハ年令ニ不拘当分無鑑札ニテ哨兵
線通行并ニ荷物米金等ノ類無差支出入為致候心得此段布達候事

但本文ノ儀ハ日中限リト可相心得事

行在所太政官ヘ上申書

先般御渡ニ相成候当県大書記官田畑常秋官位親軍御辞令書右同人伝
達前已ニ死去候ニ付則返上仕候此段上申候也

御用有之西京出張申付候事

救恤掛申付候事

同

雇申付月給金拾円給与

御用掛 柳 原 義 則

六等属 丹 下 量 平

九等警部 星 野 正 淡

川 田 篤 雄

第一課救恤掛申付候事

雇申付月給金八円給与

第一課受付掛申付候事

雇申付月給金八円給与

第四課申付候事

雇申付月給金三円給与

第三課申付候事

堀 興 憲

仲 馬 清 秋

宅間弥平左衛門

五月十一日晴 金曜日

河野幹事岸良大檢事加納少檢事大塚五等判事香川一級判事補柳川一
級判事補今井一級檢事補小河平三級檢事補本日着港ノ敦賀丸ニ乗組
上陸シ県庁ニ来ル

河野幹事当地出張ノ上原令ト共ニ左ノ条件及ヒ重刑ハ凡テ長崎ニ於
テ所決スヘキ事ニ協議セリ

鹿児島ニ在ル賊徒処分ノ區別

一 懲役一年以上見込ノ者ハ仮口供ヲ取り長崎九州臨時裁判所ヘ送致
スヘシ

一 懲役百日以下見込ノ者ハ鹿児島出張臨時裁判所ニ於テ専決処分ス
ヘシ

右擬律權衡ノ儀ハ実地ニ就テ協議スルヲ要ス

川村參軍ヨリ達書

追々哨兵線内ヘ立戻リ候者共ノ内一時道具ヲ取纏メ猥リニ線外ヘ持
出シ候者有之哉ニ付右ハ防禦線ノ障碍不少候ニ付此渾食物ヲ除クノ
外線外ヘ荷物持出候義差止メ候条至急部下ヘ可相達候也

五月十一日

川村參軍

曾我少將殿

高嶋少將殿

田辺中佐殿

前書之通各旅団ヘ相達置候ニ付テハ一々哨兵ニ於テ人民ヘ説諭届兼
候義モ可有之ニ付官吏一両名宛哨兵線人民通路ノ場ヘ差出町聲ニ説

諭致候様取計可有之候也

五月十一日

川村参軍

岩村鹿兒島県令殿

入来院邸外二個所ノ救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フモノ男女合シテ三百九十人施ス所ノ米三石八斗ナリ

内務卿へ電報

先口御用掛柿原義則ヲ以テ巡查三百人許リ当県へ指向ケラレタキ旨申上候右ハ甚タ差急キ候ニ付至急大警視へ御掛合ノ上其運ヒ相成度相願候賊徒毎夜襲来致候得共小迫合ニテ官軍固ヨリ利アリ只一日モ早ク平定ヲ待ツ

海岸第一課分局ニ於テ更ニ救恤取扱所ヲ開ク

柴太一郎外二人ヲ哨兵線外三個所ニ遣シテ逃散シタル人民ヲ説諭セシム

第二十五号布達

此程追々哨兵線内エ立戻リ候者共ノ内家財道具ヲ取纏メ線外エ持運ヒ候者有之候ニテ防禦線ノ障碍不少候ニ付此涯食物ヲ除クノ外線外へ荷物持出候義差止候段征討本営ヨリ達有之候条此段爲心得布達候事

番外布達

桜島垂水辺ヨリ来リ魚菜ノ糶売并ニ肥取ノ者共エ此度木鑑札通行方ハ波戸場ヨリ本営并ニ県庁辺ノ用辨ニテ他ノ哨兵線へ一切出入等ハ不相成候事

但夜中出入ハ何レモ不相成候事

右之通相心得当地エ相越候者共エ無遺漏可相達候事

第二十六号布達

県下暴徒共追テ夫々御処分モ可有之候得共其家族等ニ至リテハ素ヨリ其罪ノ問フヘキ筋ニ無之此際篤ク御救助ヲモ被仰付候次第柄ノ儀ニ付右等心得違ヨリ銘々散乱等ノ儀無之様可致此旨布達候事

琉球藩邸近傍機跡之倉庫ヨリ玄米貳百貳拾俵第四旅団歩兵第二大隊ニテ取入置有之本県エ引渡依テ左ノ如ク揭示ス

第二十七号

一 玄米貳百貳拾俵

右ハ哨兵線外焼失ノ節琉球藩邸近傍ノ倉庫ニ積置キ有之候処今般県庁内へ取入置候ニ付所有ハ速ニ県庁へ可申出此旨揭示候事

任八等属

愛媛県八等属
酒井 政義

第六課中付候事

原 教三

原中付月給金五円給与

第六課中付候事

三等属 新島 善之

五月十二日 土曜日

各所ニ救恤取扱所開設候ニ就テハ夫々諭達モ致置候得共海辺番兵所ニ於テ窮民ト看做候者ハ救恤取扱所へ願出候様懇篤示諭致シ度旨川村参軍ニ中請ス依テ其旨各旅団へ達セラル

救恤取扱所へ願出候窮民ノ内稍資産有之者ニテモ取続キノ爲メ只一兩日間ノミノ救助願出候者モ有之此等ニ於テハ十五日間ノ成規ニ不拘暫時ノ救助ヲモ可取計儀ヲ決ス

他日鎮定ニ至ル迄哨兵線内ニ於テ仮ニ揭示場ヲ定ム

県庁門前 永安橋下 行屋橋下

松山通り 広小路 石燈籠道

右哨兵線内

浄光明寺下 左衛門坂上 新上橋

西田橋下 高麗橋下 武之橋下

右哨兵線外

救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フモノ男女合シテ三百十二人施ス所ノ米三石四斗一升ナリ

困事犯罪人帰順ノ者処分ノ爲メ帰順掛心得書ヲ定ム

第一条
帰順取調所ヲ本庁内ニ設置シ其他各郷ニ取調所ヲ置ク

但各郷取調所ハ人口ノ多寡土地ノ便否等ニ仍リ隨時之ヲ轉移スベシ

第二条

帰順取調所ニハ帰順掛及ヒ書記受付等ヲ置ク

第三条

帰順掛各郷ヘ出張ノ節ハ該所ノ区戸長ニ就キ区内ノ各戸ヲ調査シ方向ヲ誤リ或ハ脅迫セラレ出軍セシ者ハ本人ヨリ申号難形ニ照シ戸長ノ奥書ヲ要シ始末書ヲ指出サセ其状況ヲ審ニスヘシ

第四条

但自身ニテ執筆調ハサル者ハ親族代書又ハ仮口供ヲ取り置クヘシ
暴挙ニ関セサル者ハ戸主ヲ始メ一家ノ子弟等連署シ乙号難形ニ照シ戸長ノ奥書ヲ要シ始末書ヲ指出スヘシ

第五条

前条始末書ヲ調査シ之ヲ県令ニ出スヘシ

第六条

第三条ニ照シ各戸ヲ調査シ士官以上及輜重會計部等ニ長タル者ハ直ニ警部ニ協議シ執縛ノ手續ヲ為スベシ

第七条

自宅謹慎及ヒ入檻等ハ丙号規程ニ照シ之ヲ即決シ而シテ本庁通致ノ儀ハ其旨報知次第速カニ巡查ヲ派遣シ之ヲ引致ス

第八条

帰順取調所ニハ左ノ印願ヲ作り其用ニ供スベシ

帰順取調所印
朱字

第九条

帰順自白スル者ハ勿論假令執縛スル者ト雖モ負傷スル者ハ病院ニ送付シ療養ヲ許スベク依テ帰順掛ヨリ左式難形ノ通り切符ヲ製シ之ヲ

本人ニ付与シ病院ニ到ルヲ命スベシ

第何号	○	担当官員	朱字
用紙	何府県	士族	見認印
半紙	何大区何小区	何町何番地	
四ツ	何之誰		
切	本紙		
朱字	割印		
何年何月何日	朱字	治療許可	

第十条

各郷取調ノ執縛人賄方ノ儀ハ其取調所ニ於テ取計其都度第六課へ通知スベシ

甲号

私儀私学校ニ御座候処何々ノ訳ヲ以何年何月何日夜何某ノ指揮ニ從ヒ海軍製造局ニ有之彈等ヲ致強奪次ナ西郷隆盛等上京ニ際シ中原尚雄等ノ口供ヲ妄信仕逐ニ何々ノ盟約致シ何年何月何日於何処何番隊ニ加ハリ何某ノ指揮ニ從ヒ何役ヲ相勤何月何日何戦地ニ出陣仕候間ヨリ卒伍ノ身ニ付計曲ニ関与候儀聊無之候前条ノ通一時方向ヲ誤リ今更悔悟仕候依之帰順奉願候此段相違不申上候以上

年月日

本籍

平民
士族

何之誰印

年齢

県令宛

右之通相違無御座候以上

戸長

何之誰印

月日

乙号

私共儀此度ノ暴挙ニ一切関係之儀無之候間此旨申上候以上

年月日

本籍士族

何之誰印

同人弟

何之誰印

同人長男

何之誰印

県令宛

右之通相違無御座候以上

年月日

戸長

何之誰印

丙号

拘致程規

一 賊徒ニ脅迫セラレ金穀ヲ出シ

釈放

或ハ難役に使用セラルル者

一 方向ヲ誤リ出軍スル者

自宅謹慎

一 賊徒ニ脅迫セラレ出軍スル者

入檻

一 賊徒士官以上及ヒ

以上

輜重會計部等ニ長タル者

九州臨時裁判所岸長大検事ヨリ回答

但シ帰順掛心得書取極候ニ付異

存無之哉及照会依テ此回答アリ

明治十年五月十二日

県令ヘ伺

棄兒及ヒ迷兒又ハ行兇人癡癡人等警部巡視中又ハ警備兵ニ於テ見認
引渡候節取扱ハ当県安寧掛ノ主務ニ候得共右棄兒及迷兒ノ如キハ県
庁第二十二号布達ニ基キ救恤掛ニ於テ受付救恤致シ候様致度此段相

伺候也

指令

当分申立之通可相心得事

第二十八号布達沙見町元郵便局ヘ救恤取扱所相開候ニ付御救助願出
候者ハ都テ本月九日第貳拾貳号布達之通リ可相心得此段布達候事
救恤掛附属申候事

雇 堀 興 憲

五月十三日雨 月曜日

本日十二時ヨリ谷山郷ニ大斥候ヲ出ス県令属官数輩ト共ニ武ノ橋
ニ至リテ行軍ヲ見ル兵員凡ソ二中隊ナリト云フ時ニ哨兵線外ニ立
退キタル婦女子等陸續トシテ救恤取扱所ニ往來スルヲ見ル皆徒跣
ニシテ雨ニ濡レ奮奮ヲ担フ者アリ幼嬰ヲ提抱スル者アリ彷徨躊躇
スル者アリ何レモ多少ノ醃菜魚飯ヲ携ヘ皆癯然トシテ胸壁ノ間ヲ
出ツ其狀憫痛スベク実ニ目視ニ堪サルナリ此日ノ行軍ハ主トシテ
郡元ノ硝石車ヲ焼クニアレハ敢テ戦鬪ヲナサズ帰營ノ際谷山郷副
戸長吉井伸主ヲ縛シテ帰ル

川村参軍ヨリ達書

哨兵線内士族屋鋪ハ勿論町家ニ至ル迄空虚ノ土藏等銃前捨放シ家財
ヲ引出シ其儘捨置候場所間々相見得候ニ付右ハ外見上ニ於テモ別テ
不宜候条散乱相成居候物品ハ可成丈夫々取纏メ一ト先ツ従前之通人
付之上県庁ノ封印致置追テ持主罷帰候上引渡方致候様可取計此旨相
達候也

但人夫ノ儀ハ入用次第第一旅団ヘ掛合使用可致候

五月十三日

征討總督本營ヘ上申書

当県庁下ニ各旅団宿陣相成居候邸宅戸主ノ姓名御申越相成度且今後
移転或ハ別旅団着陣相成候節ハ前同様御通知被下度此段上申仕候也

同回答

当県下各旅団宿營相成候邸宅戸主姓名取調御通知可及旨御掛合有之
候得共何レモ戸主等相逃レ空舍ニテ取調兼候間左様御含有之度此段

及回報候也

五月十二日

兵變ニ罹リシ家屋ヲ調査セシム其概略左ノ如シ

西口

線内

西田橋ヨリ千石馬場入口兩辺通

凡二十戸

線外

西田町通一面

凡千戸

同

西田後馬場之内鷹師馬場一円

凡二十戸

同石墳馬場一円

凡三十戸

同下馬場一円

凡三十三戸

同中馬場一円

凡三十三戸

同藥師馬場一円

凡三十戸

同肥田河原一円

同

線外

新正院上通ヨリ
川迄一円

凡五十戸

同

西田町左辺片馬場一円

凡三十戸

同

草牟田四分ノ一

凡五十戸

線内

柿本寺通

凡七戸

同

上ノ平

凡十九戸

通計凡三千三百五十二戸

西南口

線外

上ノ園

凡百五十六戸

同

高麗町

凡二百七十八戸

同

下荒田

凡二百四十八戸

同

上荒田

凡三百二十戸

通計凡千九十九戸

北口

線外

上立馬場通一円

凡三百五十戸

同

同裏通 一円

凡二百戸

線内

大小路口 一円

凡百戸

同

行屋通 一円

凡五百戸

線外

車町 一円

凡百五十戸

同

大小路口小路一円

凡二百戸

同

向築地 九分通

凡四百戸

同

清水馬場 一円

凡二百三十戸

同

横馬場 一円

凡二百五十戸

同

町口 一円

凡五十戸

同

家鴨馬場 一円

凡二百十五戸

同

旧福昌寺門前一円

凡百戸

同

後追

凡六十戸

同

上ノ馬場 一円

凡二百戸

同

内ノ丸

凡百五十戸

同

城ヶ谷

凡七十戸

同

冷水

凡百五十戸

同

諏訪神社

春日神社

淨光明寺

通計凡三千四百七十戸總計凡五千八百四十六戸

救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願ヒ出ルモノ男女二百四十人施ス所ノ

米二石八斗三升ナリ

雇差免候事

宅間弥平左衛門

五月十四日雨 火曜日

河村参軍へ上申書

哨兵線内士族屋舖ハ勿論町家ニ至ル迄空虚ノ土蔵等錠前捻切り家財ヲ引出候儀聞相見ヘ候ニ付取締筋ノ儀云々御達ノ旨承知仕候就テハ官員派出ノ上其首尾可致候得共散乱ノ物品従前之通入附候儀ハ其見留難相立ニ付夫々一ト纏メニ致シ封印可取計候尤当節県庁ニ於テ巡查無之場合ニ付警備筋不行届ハ勿論ニ付今後右等ノ要業無之様取締之儀其筋ヘ御厳達相成度此旨御回答旁御依頼仕候也
追テ本口別紙之通揚示取計候条此旨添テ中上候也

別紙ハ本日第二十九号布達ノ如シ

駅通局長へ上申書

本月二日入県ノ上直ニ県地郵便局事務取扱上取調候処従前該局適宜雇加藤伊平太篠原当次郎兩人ヘ旧県ヨリ取扱役申付去月九日ヨリ事務取扱候趣之処右兩人而已ニテハ不都合ニ付当県八等属外島廳治同十等属吉川一雅兩人ヘ当分右事務取扱申付該局残余ノ金員及ヒ郵便切手等夫々取調中去ル四日夜開戦後右加藤伊平太始メ脚夫等ニ至ル迄不残遁逃今蹤跡不相訣兼テ右局ヘ下渡相成候金員及郵便切手等詳カナラサルニ付不得止現在ノ残切手並ニ金員ニ基キ仮ニ出納為取扱候到底右ノ者帰局ノ上取調不致候テハ從來ノ出納明ナラサルニヨリ右等詳細ノ儀ハ追テ可及御報知候
一郵便局取締ノ都合モ有之去ル七日ヨリ当分県庁内ヘ引移シ事務取扱申候

一郵便通線ノ儀陸路絶線ニ付給便ヲ以テ長崎及肥後小島夫ヨリ熊本ヘ別仕立ノ積リヲ以テ差立取計申候

一郵便端書書錢ノ分追々売下払底ニ付至急壹万枚下付有之度候

一追々他管ヨリ入県ノ輩運貨通送願出候者不勘実際不便ニ付至急郵便為換取開申度依之当分外島廳治ヘ取扱方為致右代理吉川一雅共

兩人ニテ取扱ノ積リ別紙印鑑四百枚差進候条可然御処分有之度尤為換用紙取調候処口号用紙残余白色ノ分三百九十九号ヨリ四百九十九号迄青色ノ分シヘ六十一号ヨリ二百号迄有之候ニ付右ノ分相

用ヒ可然哉又ハ別途下附可相成儀歟否御報有之度其他イ号用紙二千枚ヘ号三百枚ヲ号三十枚御渡有之度其外都テ差支無之候

一前条為換取扱ニ付テハ更ニ為替資金御下渡シ有之度尤回金ノ都合ニヨリテハ一時県金ノ内ヨリ操替渡置候ニ付否伺申越有之度候

一該局ニ属スル雇人其他郵便配達人等使役ノ都合モ有之候ニ付右人員並ニ局費定額金等御申越有之度候

右件々及申候候条至急可然御処分有之度候也

救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願出ル者八十五人施ス所ノ米壹石四斗二升五合

第二十九号三十号ノ布達ヲ掲ス

第二十九号

哨兵線内士民立退跡ノ土藏等へ何者共不知狼ニ立入家財等引出シ其
儘拾置候場所相見候ニ付人民保護上ニ於テ難差置次第ニ付官員派出
ノ上散乱ノ物品ヲ取纏メ此上ノ損害防止ノ為メ封印取計置候間追テ
滞家ノ上申出次第解封可致候条此旨為心得布達候事
第三十号

今般兵變ニ罹リ飢餓ニ迫ル者ハ夫々御救助被仰付候旨第二十二号ヲ
以テ及布達置候得共尙家屋灰燼ニ属シ目下雨露ヲ凌兼候者於有之ハ
御規則ニ照シ小屋掛料可貸下候条早々可願出此旨布達候事
第一課受付掛申付候事 雇 川 加 篤 雄

五月十五日雨 火曜日

勅使侍從長從三位東久世通儒征討總督本管ニ来ル
谷山郷副戸長吉井仲奎裁判所ニ送致セラレ札問ノ末無罪ニ帰ス
救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フモノ五十人施ス所ノ米八斗三升ナ
リ

五月十六日晴 水曜日

勅使隨行太政官大書記官尾崎三郎県庁ニ来ル大隈大藏卿ヨリ米多
分肥後地方ニアリ若入用ナラハ吉原大書記差出有之ニ付同人へ申
談スヘキ旨伝説アリ

川村参軍ヨリ通知書

東久世侍從長昨日当地へ着相成候条此旨為心得申入候也

五月十六日

川村参軍ヨリ達書

波戸場取締向之儀ニ付別紙ノ通田辺中佐ヨリ申出相成候処右ハ差向
不都合ノ虞有之問敷存候得共其庁ノ意見可被申出此段相達候也
但別紙ハ一覽ノ上直ニ返付可有之候事

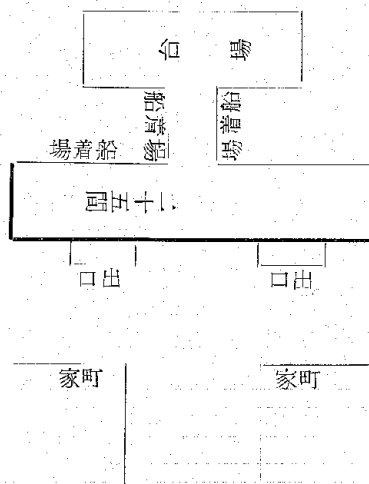
五月十六日

別紙

哨兵線内取締心得別紙之当旅団見込差出候間猶御評議之上御決定相
成度尤前御下付相成候印鑑ニテハ取締難行届上存候条更ニ住所姓名
年齢等詳記シタル印鑑ニ御改正相成度此段併テ申出候也
明治十年五月十六日 陸軍中佐 田辺良顯

征討参軍河村純義殿

船着場客図



哨兵線内取締心得

第一条

各哨兵ノ第一線ハ軍人軍属ノ外常人ノ通行一切禁ス

第二条

婦女子タリト雖モ線内ニ住居セントスル者ニ非レバ入線スルヲ許サ
ス

第三条

救助米施行所ハ哨兵線近傍ニ設クベシ

第四条

線外ヨリ救助ヲ請フモノアラバ篤ト調査ノ上給与スレバ直ニ之ヲ線
外ニ出スベシ

第五条

各舎陣営ヨリ物品買入レ又ハ運送等ノ為メ桜島其他へ渡海スルトキ

ハ指定メタル波戸場ノ外乗船上陸スルヲ許サズ

第六条

桜島ノ人民商業ノ為メ渡海シ来ルモノハ定メタル市場ニ限り販売ヲ許スベシ

但午前六時ヨリ午後五時迄

第七条

各營ノ下掃除ノ為メ来ルモノハ兼テ渡シ置キタル印鑑調査ノ上線内通行ヲ許スベシ

第八条

前两条ニ記載スル人民ハ指定シタル波戸場ノ外上陸スルヲ許サズ

第九条

各人民ニ下附スル印鑑ハ住所姓名年齢等詳記シ時々各旅団ヘ達スベシ

同回答

波戸場取締向之儀田辺中佐ヨリ申出有之候ニ付当庁ノ意見有無可申上御達之趣承知仕候右ハ心得書ニ附箋ヲ以テ申上候通ニテ他ニ意存モ無之候間尚可然御評議相成度即田辺中佐ヨリ差出候書面三葉相添此段御答申上候也

十年五月十六日

第二条附箋

先般ノ御達二十歳以下七十歳以上ノ男子ト婦人ハ入線ヲ許サレシ事ニ付此節追々救恤ノ途モ開ケ候ニ付従前ノ如ク被差置度候

第三条附箋

救恤米施行所ハ先般来種々搜索ノ上ニテ取極メ漸ク實際ニ就キシトキナレバ今又是ヲ変換スルハ不都合不少依然差置度候

第九条附箋

各人民ニ付スル印鑑ハ時々各旅団ヘ達スベシトハ一人毎ニ氏名記シ各旅団ヘ配付スルノ儀カ果シテ然ラバ一口數十人ノ下附アルトキハ實際ニ於難行届何レカ御詮議有之度事

川村参事ヨリ達書

兼テ相達置候哨兵線通行印鑑之儀取締上詮議之次第有之候ニ付其県ニ於テテ番号ヲ相定メ左ノ雛形朱書ノ処ヘ鹿児島県第何号ト必ス記入ノ上可相用尤哨兵線外ヘ持出候儀ハ本日ヨリ厳ニ相禁候条線外ヘ出ル者ハ其処之哨兵ヘ渡置キ入線ノ節之ヲ受取帰庁致候様可取計此旨相達候也

明治十年五月十六日

印鑑雛形

印 割

第何号

通行

免許

本官印

鹿児島県

第何号

五月十七日晴 木曜日

川村参事ヘ上申書

哨兵線内士族屋敷等立退跡取締之儀ニ付過日御達之趣有之其節申上候通官吏差出シ每家散乱ノ物品取締可仕ニ付テハ今後警備筋之儀其筋ヘ御嚴達相成度具申付置去ル十四日ヨリ官吏差出シ各戸取調之上倉庫及門鑰ヘ夫々封印致置尚昨十五日前同様官吏差出シ候処既二十四日取締置候分大半破封狼籍ノ痕跡有之加之高見馬場通西之末某之邸為取締官員罷越候節別働隊第一大隊二中隊織田六藏其他兵卒及人夫等右邸内ヨリ刀剣ヲ携ヘ出候儀有之事ニ相聞ヘ如此ノ次第ニテハ過日御達ニ仍リ夫々取締計候儀モ到底水泡ニ帰シ取締難相立候条此上警備筋之儀如何之御達ヒニ可相成哉本日官員出張見合置一応具狀候条何分ノ御達被成下度此旨申上候也

救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フ者六百九十六人施ス所ノ米七石九斗九升

五月十八日雨 金曜日

前県令大山綱良在職中雇入外国人「シケツベル氏」外五人処分之儀ニ付御用掛小野修一郎ヲ西京ニ遣シ大久保内務卿ヘ伺ノ上都合ニ依リ東京ニ至リ処分セシメ且大阪東京其他地方ニ於テ本県新任ノ

属官ヲ採用セシム

小野修一郎ヨリ伺書

和蘭人

シゲツペル

一雇期 明治九年一月一日ヨリ
同年十二月卅一日迄

一月給 一個月
金三百七拾五円

一職務英学并算術教師

同國人

ゴツプス

一雇期 明治七年一月一日ヨリ
全十年十二月卅一日迄

一月給 一個月
金二百五拾円

一職務英仏独逸学教師

英人

ウィキルリアムウヰリス

九年四月廿九日条約

一雇期 明治九年五月一日ヨリ
全十二年四月卅一日迄

一月給 一個月
金六百円

一職務医学教師

右三名人民雇ノ段九年七月卅一日届書扣有之候

和蘭人

チツセン

一雇期 明治九年五月廿一日ヨリ
全十二年四月三十日迄

一月給 一個月
金六百円

一職務水理工師

和蘭人

アルンスト

一雇期 明治九年五月廿一日ヨリ
同年四月卅一日迄

一月給 一個月
金百円

一職務工長

独人

クラマル

九年八月廿五日条約

一雇期 明治九年九月一日ヨリ
全十一年八月卅一日迄

一月給 一個月
金二百円

一職務植物学教師

右外国人雇入ニ付書類取調候処御届済扣相見へ候者アリ或ハ無キ者
アリ条約書ノ如キモ亦然リ其雇主モ御届ト条約面ト齟齬致候間於東
京主務官省ニ就キ取調猶不分明ノ康有之候ハ、其筋へ申入旧県令太
山綱良承札シ竟ニ県庁雇ニ歸スル省ハ各人在留ノ地方長官ニ依頼シ
穩当ノ談判相整候上ハ県令ノ名ヲ以解雇取計可然哉

但本文取調ニ不取掛中先ツ内務卿ノ意見ヲ伺ヒ若解約等ノ処分暫
時見合候様被中間候ハ、其意ニ可然哉

右ニ付左ノ条約携帶致候テ可然哉

一チツセン条約書

原書一葉

一ウルクス条約書

原書一葉
訳書一葉

一クラマル条約書

原書一葉
訳書一葉

右之条件相伺候也

十年五月十八日

指令

本文申立之外解雇賃金ノ儀ハ篤ト見込相立雇上之上具状可致儀ト

可相心得事其他伺之通

小野修一郎へ達書

当県雇外国人兩名帰省之手続等長崎其他ニテ相分り候儀モ可有之ニ付帰県可致事

従前官員等カ遺ス所ノ故紙中ニ得ル所ノ外国人等カ書類

ウエルリス氏開闢嶽ニ登ル記

不肖ウエルリス謹テ書ヲ薩摩知事公属官諸君ニ呈シ以テ請フ知事公ノ不肖ヲシテ海門登山ノ許可ヲ受ケシムルノ厚恩ニ向テ足下等不肖ノ為ニ万謝アラシム事ヲ

抑モ海門山ハ鹿兒島灣口ニ位置シ其岳頂ヨリ大陸小島ノ眺望美ニ佳景名状スヘカラス尋テ処々ノ温泉ヲ検査スルニ傷冷毒ノ病症ニ多少ノ効顯アリ然モ通常該温泉ニ沐浴スルノ用法ハ却テ衰弱ノ趣向アリ故ニ多クハ身体ヲシテ數種疾病ノ起因ニ屬セシム加之其温度或ハ百十一度或ハ身体ノ度ニ過分スル十四等ナル者ヲ目撃ス而シテ不肖經過セシ地毎ニ必ス火炭ノ在ル有テ夥多食物ノ成熟ニ適ス就中甘薯ノ如キハ充滿有余ト云ベシ不肖想フニ食者ノ食スル甘薯ニ牛酪牛乳ヲ加フル者ハ其健康勢力ヲ振興スルニ尤モ肝要物ナリト又野菜動物ト半混シタル食物ハ身体ノ健壯ヲ長保ス当州ハ其住民ノ食物ヲ生産スルニ足ルト此旅中実ニ快事妙説ヲ聞見ス就中霧島桜島海門宇和島嶺頂ノ平行併テ海門岳上其凹形ナルモノハ即チ池田ノ水海ヲ為シ風景真ニ愛賞スルニ尚余アリ

前件ノ如ク旅中大愉快ヲ尽スハ是全ク同伴ノ若下君初メ諸君ノ尽力ニ係ルナリ故ニ今爰ニ之ヲ謝ス願クハ足下不肖カ心情ヲ知事公閣下ニ貫通セラレン事ヲ不肖頓首再拜

明治四年五月十九日

鹿兒島寄留

ウエルリヤム、ウエルリス

薩摩知事公属官諸君足下

鹿兒島千八百七十一年五月十五日

一 屍鮮体ノ儀ハ医術教導ノ必用ニ付尚又政府御配慮被下度深ク奉願

上候

当年正月十二日 皇國 其日ヨリ差上候達書今一度被為在候様奉願上候一

一 戦争ノ時ニ当リテ巧手外科ノ必用ハ政府體ニ御承知有之通手負ノ

一 生命ヲ救ヒ手負ノ療治拙キヨリ軍勢常ニ勇氣ヲ落スノ弊ヲ禦キ候

一 医生解體習業無之候テ每人ノ憂患多少ノ疾病瘡傷ヲ療スル職務ノ

業ヲ求ムル事有之問敷候

右某勤ニ有之候間明白ニ申上候以上

ウエルリヤム、ウエルリス謹言

鹿兒島県令大山綱良殿

鹿兒島県千八百七十二一年一月一日

這今設置有之候病院中諸室八個処ノ分ハ毎一個月ニ一度宛張付ノ修繕アラシム事ヲ其筋ヘ御下命被下候様薩摩政府ノ長官ヘ某謹テ希望仕候尤モ些ノ金額即チ三四百位ハ失費モ可有之候得共元來不精ナル張付ハ寒風ノ時節ニ至リ候者直ニ破壊可致候將又當時ノ病院ハ希臘國ノ如キ或ハ歐羅巴州中ノ王國ニ均シキ數百万ノ人民ヲ保護セル邦國ノ仕方ニモ足ラサル程ニテ今此數千郷ノ純轄ヲナセル薩摩政府杯ニハ不適当ナル者ト恐惶致ス処ニ御座候也

ウエルリヤム、ウエルリス手記

大山県令閣下

内務卿代理前島密及ヒ大坂府知事長崎県令ヘ依頼書各通

当県属官採用ノ為メ御用掛小野修一郎東京其他ヘ差遣シ候間於其地

新任ノ者ヘ可相渡旅費申出候ハ、無差支御操替相成度此段 及御依頼

候 〇相願

川村參軍ヘ伺書

今般賊徒追討ニ付進軍并藩陣ノ際人民ノ家屋無主或ハ有主ノ別ナク全營ニ御引上ケ相成候向ハ都テ相当ノ宿料御下渡且飯米其外取替品等有之候者ハ其代価御仕込可相成旨熊本県ヘ御指令済之趣モ有之就テハ当県下ニ於テモ同様御処分可相成儀ト存候得共為念一応相伺候条早々御指揮被下度候也

十年五月十七日

指令

書面之趣ハ鎮定ノ上実際取調可尙出儀ト可相心得事

明治十年五月十八日

征討本営ヨリ熊本県へ指令ノ写

伺之趣ハ今般賊徒追討ニ付進軍并滞陣ノ際村落ノ家屋無主或ハ有主ノ別ナク舍営為致候ニ付テハ相当ノ宿料可下渡候条其県ニ詳細取調置必定後可申出候事

但匆卒ノ際飯米其外取替品等有之者ハ其他価等無遺漏取調宿主申出書へ区戸長奥印ヲ捺シ可差出候事

長崎県令へ回答書

当県雇カラメル家財保護及ヒ蘭人スケツブル召使女セイ為引弘ノ義ニ付委曲御申越ノ趣致承知候右ハ当県学校雇佐瀬精一ナル者最前雇外国人ニ附屬致シ居候ニ付其始末相尋候処別紙申乙印寫之通申出候間即チ属官差向ケ右家財入置有之候土蔵封印為致候且スケツブル召使女セイ儀ハ在所不相分候ニ付即今取計方無之候間其趣可然「カラメル」へ御申聞相成度此段回答等申進候也

明治十年五月十八日

別紙署之

救恤取扱所ニ来リ救助ヲ願フモノ千二百九十七人施ス所ノ米拾石

三斗三升三合六勺

東京表出張申付候事

御用掛 小野 修一郎

五月十九日晴 土曜日

県庁ニ於テ使用スル小使人足等ニ与へ置タル紙製鑑札ヲ木製ニ改造ス

諸官員病院診療願允許仮規則ヲ定ム

第一条

官員疾病アリテ病院ノ診療ヲ受度者ハ願書ニ通ヲ作り差出スベシ

第二条

願書差出シタルトキハ指令文ヲ記シ通例一般ノ指令振ニ準シ下渡スベシ

第三条

病人ハ指令済ノ願書ヲ病院へ持参シ診療ヲ受クベシ

第四条

但診療料ハ差出ニ不及業価ノミ可相約事

第五条

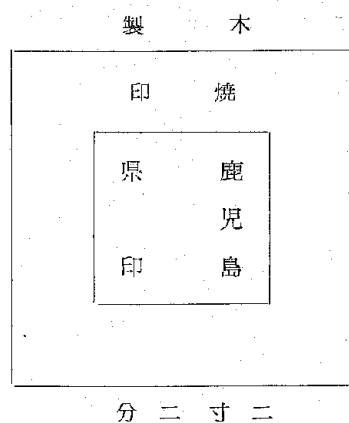
診療許可ハ引続キ服藥ノ間ハ更ニ願ヒ出ツベシ

第六条

本院ハ賊徒中流傷者ヲ療スル本旨ナレハ他人ノ入院ハ許可セザル者トス然レドモ篤疾者又ハ難症等ニテ事情已ムヲ得サル者医者ノ診断書ヲ添ヘ願出ルトキハ臨機詮議ニ及ブベシ

右之通当分仮定候事

元鹿兒島県五等警部木藤武章全元六等属高知県士族三浦介雄本日長崎臨時裁判所へ送致セシ旨臨時裁判所出張所檢事ヨリ通知アリ



救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フ者六百四十一人施ス所ノ米拾石六斗九升

第六課申付候事

同	上等属	桑原政夫
同	等外三等	本山純一
同	同	竹内於鬼一

五月二十日晴 日曜日

県下第二大区十小区二番地平民田辺為太郎ナル者商人五六名ト共ニ官軍入県以降兼テ第一旅団被服課其他ノ軍衛ニ於テ用達被申付居タルニ開戦ノ後同志ノ者ハ皆遁逃シ為太郎独リ依然トシテ奉務ス然ルニ去ル十日糧食課病院其他第一大隊用品買求ノ為メ自船ヲ以テ谷山ヘ至リシニ同所ニ於テ同行ノ使丁及舟子ヲ合セテ悉ク賊徒ニ捕縛セラレ上伊敷村賊徒ノ本営ニ於テ苛酷ヲ受ケ其日ハ馬舎ノ底ニ撃棄セラル翌十二日ノ夜ニ至リ眼ヲ抉リ手足ヲ断ツ等ノ悲惨ノ苦楚ヲ極メ終ニ賊手ニ弄殺セラレタリ為太郎曾テ任侠ノ聞ヘアリ西郷等カ出兵ニ際シ金二百円乾梅二樽刀二本ヲ出シテ賊用ニ供ス此等ノ縁故アルカ故ニ別府辺見等モ故ト交際アリ故ニ妻子等凶報ヲ聞ト雖モ敢テ生命ニ関スル禍ナキヲ期スト且此日為太郎カ谷山ニ行クヤ哨兵線内ノ市街ハ本タ兵燹ノ患ナキヲ保スヘカラサルニヨリ衣類家什ヲ拳テ彼地ニ携ヘ旧知ニ托シテ監護セシム賊等又之ヲ掠奪シ悉ク糶売ス為太郎其性剛毅ニシテ堅忍不撓官府ノ為メニ能ク其身ヲ致シ命ヲ隕ス実ニ哀憫ニ耐ヘサルナリ妻美津娘恵以情具シテ旅団及県庁ニ哀訴シ来テ遺族ノ扶助ヲ乞フ

川村参軍へ上申書

賊徒負傷ノ者取扱方之儀ニ付別紙ノ通相定候間御異存於無之ハ向後御送知ノ節ハ当県病院詰衛生掛へ引渡可申旨各旅団へ御達相成候様致度此段申上候也

明治十年五月二十日

追テ去ル十七日第三旅団ニ於テ捕縛ニ相成候吉原治郎吉当県臨時病院ヘ向ケ送付ニ相成候ニ付向後ハ都合モ有之候間本県宛ニテ送

致有之候様及御照会候処本文ノ次第二付団ヘ右回答之廉ハ取消候旨格別御相成度此旨併テ申上候也

指令

書面之趣別紙之通改正各旅団へ相達候事

別紙賊徒負傷之者取扱手續

賊徒負傷之者各旅団及臨時裁判所ヨリ病院ヘ送致ノ節ハ病院詰衛生掛ニテ受付ケ療養ヲ遂サセ快復ノ上ハ第四課ヨリ出張検事局ヘ協議シ本犯引渡方可取計事

但本県第四課ニテ捕獲セシ者モ亦本条ニ照シ療養ヲ加フベシト雖モ成ル可ク丈ケ飯口供ヲ取リ先ツ検事ニ送付シ快復ヲ待テ本犯ヲ引渡スベシ

病院ノ薬価ヲ定ム

一内服 一日分

水薬 散薬 丸薬

右各代価金四銭

一外用 膏劑

膏藥膏了 塗擦劑膏了 洗擦拾了

注射藥膏了 含嗽劑拾了 点眼水膏了

右各代価金四銭

一頓服 壹劑

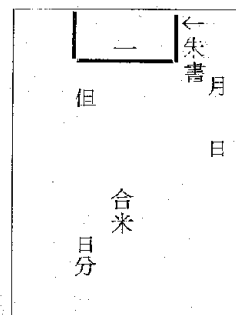
右代価半減金貳銭

救恤方取扱手續第五條中願書ヲ県官ニ於テ認遣シ正副ニ通ヲ差出サセ内巻通ヲ取扱所ヘ留置一通ヲ本人ヘ下付シ来ル処追々多人數ニ至リ右之手順ニ及ヒ難ク依テ願書ヲ一通ニシ別ニ小札ヲ左ノ如ク製シ米渡帳ノ割印シ下付スベキニ改正ス

小札

美濃紙十

二分ノ一



救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フ者千十六人施ス所ノ米拾六石式斗
七升野上橋東浜手旧生産会社跡ヘ陸軍運輸局ヲ開ク

第三十三号布達

本月四日第十七号ヲ以テ従軍ノ者帰順願等ノ儀布達致シ置候処右願
書々式ノ内ヘ猶左ノ廉々ヲ區別シ可差出其他療養願書及ヒ願書ヘ戸
長奥印等ノ儀ハ總テ同号布達ノ通可相心得此旨重テ布達候事

但本文ノ通戸長奥書ヲ要シ候儀当然ニ候得共此節戸長不屈合場所
ハ当分ノ内奥書無之指出候共不苦尤右等ノ分ニ限り保証ノ為メ本
人又ハ親族等呼山シ願意一応取調可致事

方向ヲ誤リ或ハ脅迫セラレ出軍セシ區別
一私学校ニ入り或ハ入ラサル區別

海陸製造局彈藥強奪ニ関係ノ有無

一士官或ハ卒伍ノ區別

一入隊ノ名号及ヒ隊長等ノ氏名

一戦争ヲ為スト為サヘルノ區別

五月廿一日晴 月曜日

此日大書記官渡辺千秋属官八名医員ヲ率ヒ始テ桜島各村ヲ巡回ス
舟行シテ古里村ニ上陸シ村吏ノ家ニ憩フ時二十族日高静一外二名
婦願出ルニ依リ謹慎シテ朝命ヲ待タシム揭示場ニケ所ヲ設ケ右
村ヲ経テ瀬戸村ニ至ル第三旅團ノ山口警部ニ遇フ彼云ク一帯水ノ
対岸垂水ノ地ニ賊徒アリ因テ此地ニ哨兵線ヲ布クト先是薄暮県官

ノ至ル見テ闔村騒然タリ依テ村民ノ為ニ県治ノ大意ヲ説ク衆民安
堵ス二十二日又士族村吏ヲ学校ニ集メ説諭ス衆皆悦服ス垂水郷ニ
賊徒ノ負傷者アルヲ聞キ柴太一郎外三名ニ命シテ同所ニ赴カシム
午前瀬戸村ヲ發シ黒神村ニ至リ又其地ノ士族等ノ為ニ説諭ス海軍
少佐大村松次郎ニ邂逅シ島北ノ事情ヲ聞キ全島ヲ一回ス舟路赤尾
原ニ至リ横山ヲ経テ赤水村ニ着シ仮出張所ノ地ヲトシ日暮テ帰庁
ス此日柴太一郎等カ垂水ニ至ルヤ暴徒十数人來リ迫ル依テ直チニ
同所ヲ去ル

御用掛小野修一郎カ長崎ヨリ報知ニ云フ北島県令云ク賊徒天草辺
ヨリ当地ニ渡海シ竊ニ物品ヲ購求シ去ルヲ以テ嚴重取締中ナリト
内務卿代理前島内務少輔ヘ何書

警部ノ儀ハ公務上制服着用勿論ニ候得共警視局警部着月ノ服ニ倣ヒ
左之通署帽服相定制服ニ換用候様致度此段相伺候条何分ノ御指揮有
之度候也

明治十年五月廿一日

一地色 黒羅紗 衣袴共

一銀釦 黒包ミ

一裾ハ両手ヲ垂レ指頭ニ至ルヲ以テ度トス

一畧帽ハ制帽ヘ紺羅紗ノ覆ヒヲ用ユ

一帯剣ノ時ハ必ス襟ヲ立総テ釦ヲ閉ツ

大書記官ニ桜島ニ随行人員

御用掛	横川	源藏
同	西久保	紀林
四等警部	柴	太一郎
九等属	津田	全温
十等警部	上村	新
病院事務掛	山科	元行
医師	山崎	泰輔
同	田中	緝熙
同	前田	政四郎

救恤取扱所ニ来リテ救助ヲ願フ者千二百六十八人施ス所ノ米二十石三斗貳升ナリ
五月廿二日

東京臨時裁判所ヨリ掛合書

鹿児島県士族

大久保 規正
大久保 一郎

右二名ハ鹿児島旧県令大山綱良取紀ニ付相尋度義有之候間為引合至急其地出發當臨時裁判所へ出張候様御取計有之度此段及御依頼候也
同回答書

当県士族大久保規正同一郎出京取計御掛合之趣致了承候然ルニ同人共処分之儀ハ下官赴任前当地第三旅団ニ於テ取扱候儀ニ付問合候処別紙之通回答有之候ニ付則回答書相添及御報告候也
別紙

大久保規正同一郎呼出方之儀玉乃二等判事ヨリ申来候云々御懸合之趣致承知候右ハ市来郷住居之者ニテ近來同郷ハ既ニ賊地ニテ当分達方行届兼候間此旨可然御回答有之度此段御答候也
明治十年五月廿二日

岩村鹿児島県令殿
田辺陸軍中佐

二仲通路相開ケ次第可中達此段申添候也

第一課中付候事
月給金拾五円給与候事

当分之内熊本県ヨリ借用申
来候ニ付同県へ出張可致候事

救恤取扱所四ヶ所合計

人員 千八百十一人

同 小林 廉三
同 村松 碩三
同 報知新聞社犬 飼 毅
同 曙新聞社 中 島 泰 雄
同 佐 瀬 精 一
同 島 田 道 生

米 二十八石一斗三升

五月廿三日晴 水曜日

賊徒旧大興寺山ノ頂ニ胸壁ヲ築キ巨砲ヲ以テ哨兵線内ノ市街ヲ彈射シ砲丸頻リニ県庁内ニ墜ツ○新上院谷及ヒ武橋向ノ燒跡ニ於テ聖上皇后宮ノ御写真扁額三枚ヲ拾フ依テ高島少將ヨリ県庁ニ引渡ス此口第一旅団ノ兵士三中队武村ニ進撃シテ敗北ス別働隊第一旅団第一聯隊第二大隊長陸軍少佐永田貞伸戦死ス
太政大臣へ上申

当県元大属今藤宏以下二十一名引渡場所御達有之候迄予メ護送之用意可致置旨客月廿四日ヲ以テ御達シ相成候処中島健彦以下十三名之者ハ已ニ西郷隆盛ニ随行出兵或ハ専使等ニ出候由樺山綱仁礼景道ハ専ラ行衛探偵中ニ有之其他拘留之内今藤宏始四名之者ハ本月三日并二十八日ニ長崎県へ護送致シ大久保規正同一郎ノ兩名ハ別紙田辺陸軍中佐ヨリ通知之通ニ有之候間別紙人名へ朱書相加へ此段上申仕候也
別紙

太政大臣ヨリ捕縛方御達相成候二十一名ノ内当県士族大久保規正同一郎兩人之儀ハ賊徒ヨリ謀名之嫌疑ヲ受ケ捕縛糾問之末問屋預ケニ相成居リ候ニ付一応取調候処不審之嫌無之ニ付川村参軍へ何之上始太書取置キ放免申達候儀ニ有之候此段及御通知候也
始末書

私共儀明治十年二月四日捕縛相成当地ニ被差廻同八日一応調ヲ受候処中原尚雄高崎親章之兩名ヨリ県内探偵方依頼有之候段相聞へ候ニ付白状可致旨承候ニ付決而右様之儀承候儀無之旨相答候様精々取調ニ相成候得共右同様申募候得者問屋預ケ謹慎罷在様承知仕是迄謹
慎罷在候間此段上申候也

第廿三大区一小区四十二番地居住

明治十年四月卅日

市来郷士族

大久保 規正
大久保 一郎

警視出張所御中

私共儀市米郷第廿三大区一小区四十二番地工住居罷在候者共二御座候間本日帰郷仕度奉存候間御用之節者速ニ出県仕御届可申上候此段上申候也

明治十年四月卅日

大久保 一郎
大久保 規正

警視出張所御中

(太政大臣御達書別紙ニ朱書ヲ加フ)

十年四月廿七日拘留
五月三日長崎県へ護送

今藤 宏

全 同 元中属 養田 長 僖

全 同 一等属 右松 祐 永

全 同 元一等警部 中島 健 彦

全 同 元四等警部 中山 盛 高

全 同 元六等警部 河野 通 英

全 同 十五等出仕 古川 源 助

全 同 士族 伊藤 一 作

全 同 島本 義 澄

全 同 彌山 重 潔

全 同 平山 武 章

全 同 木藤 武 章

全 同 春山 行 道

全 同 永吉 小藤 辞

全 同 谷口 東 太

全 同 樺山 資 綱

全 同 仁礼 景 道

全 同 大久保 規 正

全 同 大久保 一 郎

征討本營達書
別紙之通各旅団エ被相違候条此旨為心得相違候也

別紙

婦女子ニ限り無鑑札ニ而入線差許来候処間々他之室家ニ立入猥リニ家財衣類等ヲ盜取リ線外エ持出候者有之哉ニ付以来免許状所持不致者ハ哨兵線ニ於テ嚴重物品検査之上不審之品ト認ルトキハ直ニ取掲ケ県庁へ引渡候様可被取計此旨相違候也

明治十年五月廿三日

川村參軍

曾我少將殿

高嶋少將殿

田辺中佐殿

征討本營ニ伺書

賊徒從軍ノ者帰順等之儀別紙甲号之通布達仕置候処尚又乙号之通甲号願書々式ノ内エ廉々書加へ為差出候方事更明瞭可致ニ付重テ布達可仕心得ニ有之且ツ丙号之通追々帰順掛各郷へ派出為致賊徒共罪ノ輕重ニ随ヒ入檻或ハ自宅謹慎等即決為致可申管ニ候処丁号官軍先鋒本營告諭書ノ内一旦官軍ニ及向ヒ候者タリトモ前非ヲ後悔シ其趣ヲ訴へ降参ヲ願ニ於テハ其罪ヲ免サレ候云々ト有之然ルニ假令降参ヲ願出候トモ其事更裁判所等ニ於テ取調ノ上放免可相成筋ト被存候間右放免迄ハ丙号之通賊徒士官以上等ハ入檻方向ヲ誤リ出軍セシ者等ハ自宅謹慎為中波可然裁別紙書類相添此段奉伺候也

追而本文之趣臨時裁判所出張檢事へ及照会候処異存無之旨ニ付此段モ申上添候也

指令

伺之通

甲号

明治十年五月四日第十七号布達器之

乙号

明治十年五月廿日第三十三号布達器之

丙号

明治十年五月十二日帰順掛心得書畧之

丁号

今般生捕たる薩摩人ともを取札す処謀逆の初より一筋に御国の為とのみ思ひ込み其朝敵たるを辨へずして張本人に荷担いたし候輩も少からず或ハ此節にいたり降参致すとも官軍にてハ其罪を赦されず杯申触らすニ付詮かたなく戦死と覚悟の者も有之哉ニ相聞へ不便の次第に候右様の儀ハ決して無之儀ニ付たとひ張本人ニ与し一旦ハ官軍ニ刃向ひ候者たりとも前非を後悔し其趣を訴へ降参を願ふニ於てハ其罪を被免候条一刻も早く理を弁へ賊軍の汚名を免れ申すべし此旨相諭候事

明治十年五月

官軍先鋒本営

電信局長掛合書

今般御県下鹿兒島表へ電線架設着手候ニ付而者柱木買上及ヒ人夫傭方等出張当省官員ヨリ及御依頼候間諸事宜御取計相成且又右建築費用之儀漸々送金之積ニ者候得共自然今之形勢ニ付回金延着現場工業差支左名面之者ヨリ申出候儀モ有之候ハ、御庁於而一時御操替暫御渡置追而御返金致シ度右御承諾可然御処分相成度此段及御依頼候也

工部四等技手補	清	家	義	信
同	五等属	南		蟻
同	五等技手三級	長	山	伸
同	同	寺	崎	誠
同	同	寺	崎	遜

回答畧ス

征討本営へ伺書

去ル九日哨兵線通行之儀ニ付御達之趣有之示来十歳以下七十歳以上之男子及ヒ婦人ニ限り救恤願出候節ハ線内へ立入候儀被差許候次第ニ相成候処近來四方離散之人民ヨリ県庁へ諸願何等差出候儀指問難渋之由其他帰順願書等差出度志願之者モ哨兵線通行不相成ヨリ其素志ヲ不遂遷延疑懼罷在候哉ニモ相聞情実憫然ニ有之候間別紙之通布達仕度就而者此上哨兵線へ人民罷越事実明瞭申立候上ハ其次第納ニ寄リ入線速ニ被差許或ハ県庁へ護送相成候様仕度然ル上ハ県庁ニ於

テ篤ト取調之上相当ノ所置可仕尤取調之上不審之者ハ相当見込ヲ付シ尚御稟議ニ及可申候其他裁判所へ送付スベキ者等ハ成規ニ照シ可取計候条至急御裁可被下度候也

指令

書面之趣先ツ従前之通可相心得候事

別紙畧ス

桜島出張官員へ達書

桜島赤水村ニ当分ノ内本県仮出張所ヲ設置シ候ニ付別紙之通り布達候条速ニ桜島各村ニ揭示取計人民ヨリ願出候廉々至当ニ可及取計事但仮出張所ニ標札可掲置事

別紙布達次出

一 仮病院ノ義ハ仮出張所内ニ設置候義ニ付負傷者療養願出候ハ、治療可取計事

一出張ノ官員ハ時々各村へ派出シ兼而布達ノ旨徹底候様説諭可致事

一村々へ速ニ揭示場取立無遺漏布達類張出シ可中事

一 帰順願出候者処分ノ義者帰順掛心得書ニ照シ可取計事

一 但心得書ハ人民ニ可相示モノニ無之候間其旨可相心得事

一本県庁へ人民ヨリ申出度件有之或ハ線内住居ノ者一旦立退候共此節帰家或ハ線内へ立入度申出候ハ、篤ト事情ヲ取札シ可怪義無之候ハ、見込ヲ附シ本庁へ可何越事

一 哨兵線内へ人民立入ノ義ニ付川村参軍へ別紙之通及稟議候処朱書之通指令有之候ニ付為心得差回候事

一 巡查一同日中到着ノ答ニ付着次第三十人其出張所へ向ケ可差回候

一 冬人民保護筋行届候様注意可致事

一 赤水村へ救恤所取設ケ候ニ付蒲原敬路島崎正心等へ出張相達候

右条々協議ノ上不都合無之様可取計此旨相達候事

川村参軍へ伺書

昨廿二日渡辺大書記官桜島巡回候処琉球藩安仁屋親雲上ヨリ同所ニ於テ別紙書面差出候処無余儀次第ニ相聞候ニ付聞届可然哉一応相

伺候早々御指揮相願候也

但シ本文御指揮濟之上ハ同藩人民之内一兩人相呼候筈ニ付入線差支無之様其筋へ御達置被下度添而申上候也

別紙

私事琉球藩書役勤ニテ上国仕居中候処此節年季筈合ニテ跡代茂坊津迄罷登候段申来就而者私ニ追々帰帆仕管御率候処今般鹿兒島縣騷動ニ付而者先達而般島古里村へ差越居中候其御急々之事ニテ当用之諸品モ特越不申至極差迫リ居申候間件之次第御取訳ヲ以何卒諸品物館内ヨリ持運ヒ候儀御免被仰付被下度奉願候此旨宜様御取成可被下儀奉願候也

明治十年五月廿五日

鹿兒島県令岩村通俊殿

安仁屋親雲上

当分赤水仮出張詰中付候事

西久保 紀 林

同

横 川 源 藏

同

柴 太 一 郎

同

津 田 全 温

同

村 上 新

当分帰順掛兼務申付候事

横 川 源 藏

同

津 田 全 温

同

村 上 新

第三十四号布達

今般般島ノ赤水村へ当分仮出張所ヲ取設来ル廿五日ヨリ事務取扱候条差向候願同等ハ同所へ可差出此旨布達候事

但般病院ヲモ仮出張所内ニ設置シ医員相詰且藥品等備置候ニ付テハ曩ニ第四号ヲ以布達候通負傷者ハ一切官費ヲ以テ療養為致候此段為心得更ニ申添候事

第三十五号布達

去ル九日廿二号ヲ以布達候通今般兵火ニ罹リ又ハ産業ヲ失ヒ目下饑餓ニ迫ル者ハ御救助被仰付候次第第二有之処当節般島之内各村ニ立退

居候者モ有之困難ノ趣ニ相聞候ニ付同所赤水村ニ救恤所ヲ仮設シ救助計候条其旨可相心得此段布達候事

但救恤願出候者ハ必ス躬自ラ出願可致候事

救恤取扱所四ヶ所合計

人員 二千二百四十八人

米 二十七石七斗四升

等外等出仕申付候事

第一課申付候事

御用有之長崎出張申付候事

同

坂 本 澄 実
小 山 善 述
酒 井 政 義

五月廿四日晴 木曜日

安藤中警視掛合書

今般内務卿ノ命ニ依リ当局巡查二百名二等少警部重田位俊三等警部大沢省三百名宛引率御票出張申付本日東京出發為致候条到着之上ハ可然御取計有之度此段及御照会候也

一番小隊長 二等少警部

同 半隊長 警部補

同 分隊長 警部補

同 一分隊長 警部補

同 二分隊長 警部補

同 三分隊長 警部補

同 四分隊長 三等少警部

同 五分隊長 警部補

同 六分隊長 警部補

同 七分隊長 警部補

同 八分隊長 警部補

同 九分隊長 警部補

同 十分隊長 警部補

同 巡查

重 田 位 俊
小 和 瀬 夏 礼
清 水 盈
満 田 真 積
飯 馬 半 晴
佐 藏 高 定
山 田 幸 重
近 藤 貞 次
下 村 敷 宜
清 水 国 太 郎
志 村 能 明
柳 崎 直 信
小 松 利 忠
百 名

二番小隊長	三等少警部	大沢省三
同 半隊長	三等少警部	詫摩治亮
同 分隊長	三等少警部	齊藤 肇
同 一分隊什長	警部補	長崎 喜白
同 二分隊什長	警部補	野沢 定勝
同 三分隊什長	警部補	木村 求信
同 四分隊什長	警部補	安田 当元
同 五分隊什長	警部補	太田 清春
同 六分隊什長	警部補	竹中 櫻
同 七分隊什長	警部補	小泉 昌好
同 八分隊什長	警部補	高橋 維孝
同 九分隊什長	警部補	今井 左司雄
同 十分隊什長	警部補	齊藤 正信
巡查		百名

外二

醫師	一名
刺隊教導巡查	三名
練兵教導	二名
器械兼職工	二名
用度	一名
使	二名

県令へ何書

県下人民目今ノ場合生業ヲ失シ飢餓ニ迫リ候者へ既ニ官米ヲ以テ御救助相成居候処右等ノ内貯財之向ト雖モ一時米穀購求ノ策無之族モ往々有之哉之趣ニ付哨兵線内之者ニ限り今般長崎港ヨリ廻米之分願人家族ノ多少ニ從ヒ凡七日以内ノ日數ニ基キ定価ヲ以御払下相成可然ト存候尤計立其他周旋人トシテ区戸長見込之者官人民中ヨリ為差出度此段相候也

但本文之次第揭示方等モ其筋へ御達相成度尚又米渡シ場所ノ儀ハ米蔵統キ旧書林会社於テ払下候積リ之事

付箋

区戸長ノ内ヲ撰ミ周旋人ヲ人民ヨリ為差出候ニハ不及候間計立等之儀ハ願山ノ時ニ県庁ニ罷在候区戸長ノ内ヲ召連払下可取計儀ト可相心得事

右許可

赤水村松山熊太郎ノ宅ヲ以テ仮出張所トシ浜野清右衛門ノ宅ヲ以テ仮病院トシ川升新太郎ノ宅ヲ以テ救恤取扱所トス

加納少検事へ回答書

賊徒從軍之者帰順願手續之儀ニ付御打合之趣致承知候右者異存之廉無之候条此段及御答候也

大坂ニ在ル小野修一郎ヨリ長崎県令へ電報

外国人解約之儀内務卿異存無之ニ付廿八日飛脚船ニ而上東京之積リ且ツ今日林ニ面会候処土佐ハ無事ノ由ニ御座候此段鹿兒島県令へ御通知相願候也

北島長崎県令へ依頼書

当県下方今之形勢ニ拠リ物品購求ノ為官員八等属小出善述同酒井政義御地へ差出候処時宜ニ依リ其御庁へ可相伺出儀モ可有之候間可然御指揮相成度此段及御依頼候也

四等属

当分松島赤水村救恤所詰申付候事

同

同

当分救恤掛兼務申付候事

同

当分赤水村仮出張所詰申付候事

当分帰順掛附屬申付候事

甕島伊王島種子島巡回申付候事

同

同

救恤掛附屬申付候事

蒲原敬路	十等属	同	同	三等属	同	備
島崎正心	等外二等出仕坂	同	同	白根大道	秋葉邦相	佐瀬精一
浦原敬路	四等属	同	同	堀 興憲	古賀保高	
島崎正心	十等属	同	同			

桜島救恤掛へ達書

今般桜島へ救恤取扱所設置候ニ付テハ先般相定置候救恤手続書第一
条ニ相記シ候通救助出願ノ為哨兵線ヲ通行スルハ十歳以下七十歳以
上之男子並婦人ニ限ルヘキ儀ニ有之候得共桜島ノ儀ハ現今哨兵線内
外ノ区別無之ニ付別紙布達文ノ通凡テ自身ヲ救助ヲ願出候者ニ限リ
救恤方可取計此段相達候事

救恤取扱所四ヶ所合計
人員 三百八十二人
米 六石四斗六升

五月廿五日雨 金曜日

米国軍艦クラサーシ号入港ス

征討本営へ伺書

哨兵線外へ諸物品差出之儀ハ兼テ御達モ有之食物ヲ除ク之外家財衣
類等線外へ持出候儀ハ不相成儀ニ候処本口別紙江夏与兵衛所有之物
品哨兵線へ差出之節哨兵ニテ差留県庁へ廻シ米則取調候処戸長魚住
源蔵ヨリ右ハ当人所有之物品ニ相違無之旨保証申出候右等ノ如キ戸
長ニ於テモ保証致シ県庁ニ於テモ相違無之者ト見認候節ハ食物並ニ
小包物等ニ限リ当県第一課ヨリ哨兵へ掛合次第線路通行御差許相成
候様予メ其筋へ御達相成度此段相伺候也
指令

伺之趣ハ波戸場哨兵線ニ限リ聞届候条其庁ヨリ哨兵線へ掛合致候
節ハ必ス物品詳細ニ記載シ右ヘ庁印ヲ捺シ通行可差許義ト可相心
得候事

征討本営へ上申書

当県へ警部巡查等配置之儀ニ付兼而内務卿へ上申仕置候処昨廿四日
警部巡查併而二百二十四名着県仕候間不取敢此段上申仕候也
追而本件ニ付安藤中警視ヨリ差越候書面写別紙之通ニ付此旨添而
申上候也
別紙既書

第三十六号布達

本月三日第十二号布達書中第四課ヲ第一課ニ相改候条此旨布達候事

第二課々長心得兼務申付候事	御用掛	青江	秀
第二課申付候事	九等属	田	辺
同	十等属	山	崎
任二等警部	御用掛	藤	井
第一課申付候事	同	真	田
同	同	仁	田
第一課申付候事	同	西	久保
同	同	江	間
同	同	柴	太
任四等警部	同	塩	田
任五等属	御用掛	河	原
第一課申付候事	同	八	等
任六等属	同	石	川
第一課申付候事	同	内	海
任八等属	同	九	等
第一課申付候事	同	服	部
救恤掛申付候事	同	齊	藤
任九等属	同	星	野
同	同	森	田
同	同	山	本
救恤掛差免候事	同	九	等
任九等属	同	御	用
第一課申付候事	同	三	浦
衛生掛申付候事	同	直	臣
任九等属	同		

任十等属
第一課申付候事
婦順掛申付候事

十等警部 須田 義直

県令へ伺書

遺失物取扱規則中揭示ノ日限無之儀ニ候得共擾乱ノ際人民諸方へ立退候テ二十日間或ハ五十日間揭示候共人民不在ニテハ揭示ノ功モ無之候ニ付同規則中第二条一年内其主ナキトキハ之ヲ得ル者ニ給ストアルニ依リ当分之内一年間示可致候相伺候也
右許可

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 千八百九十四人

米 二十四石一升五合

五月廿六日晴 土曜日

今夜旧城門外旧訓練場ニ於テ煙火ヲ揚ク參軍県令將校属官兵卒ヲ始メトシ衆庶皆ナ来リ觀ル矣ニ開戦以來ノ壯快ナリ○此日田辺一等属米国軍艦クラサージ号ニ至ル船長メ子ヤ氏ニ面会シ乗組員ノ多寡及ヒ当港ニ来ル所以ヲ尋問ス○今夕賊徒冷水ノ水源ヲ絶チ市街ノ水脈悉ク枯渴セリ

第三十七号布達

本月九日第二十二号ヲ以テ及布達候通目下飢餓ニ迫リ候者ハ御救助被仰付置候処成規ニ基キ御救助日数十五日ヲ過キ候者ハ不被及其儀候尤七十歳以上十歳以下之男子並婦人ハ年齢ニ不拘哨兵線通行被差許居候条最寄救恤取扱所へ躬自ヲ願出候時ハ当分之内特別ヲ以引続御救助被仰付候条此旨布達候事

但丁年之男子ト雖モ救恤願出候時ハ其事情ニ寄リ時宜御救助被仰付候儀モ可有之候事

長崎県令ヨリ掛合書

貴県御備蘭人チツセン物品防禦線外ニ有之儀ニ付御取寄難出来云々御申越之趣致承知候將又御備外国人所屬品之義ニ付今般別紙之通外

務卿ヨリ掛合有之候ニ付而者成丈御取纏メ当県迄御送致可相成方ト存候尤クレーメル外兩名ノ内其物品目錄差出居候者モ有之候得共翻訳當便迄間ニ合兼候間追而御送付可致因テ外務卿ヨリノ掛合書並英医ウイリス所有品目錄写相添此段御回答申進候也

寺島外務卿ヨリ掛合書

鹿兒島県備外国人等先般立退候節同県ニ残シ置候物品保護之儀該県令へ御通知有之度旨本月九日電信ヲ以申入置候処右外国人之内英人ウイラム・ウイリス氏ハ別紙目錄書之通同県へ所有品殘シ置候旨申立候即今其港滞在之和蘭人ア・チツセン「デ・アルンツ」ノ兩氏ハ品名目錄其県庁へ差出候答ニ付右差出候ハ、ウイリス氏所有品一同其県へ取寄方鹿兒島県へ照会シ着港候ハハアルンツ・チツセン兩氏ノ分ハ本人へ直ニ可被引渡ウイリス氏ノ分ハ追而相達候迄其県ニ留置保護可有之候且又過般其港出張當省渡辺樞大書記官ヨリ中談置候独逸人クレーメル氏所有品之儀モ右和蘭人同様鹿兒島ヨリ取寄候上本人へ直ニ被相渡其段早々被中越度候也

追而本文物品運搬ニ付入費等相掛リ候ハハ御申越可有之候也

物品目錄客之

県令へ伺書

当県備外国人英人ウイラム・ウイリス氏ノ所有品別紙之通外務卿ヨリ被達候旨ニテ長崎県令ヨリ通知有之候ニ付昨日同居人居住ノ形況一見ノ為罷越候処已ニ盜賊ニテモ入込候哉土藏ノ戸前ヲモ相開キ諸荷物散乱之分不少就而者追而右荷物長崎県へ御廻シ相成候迄之間巡查名宛交番守衛相成候方可然ト被存候此段相伺候也

但戸メ之儀ハ昨日一通リ取計置且右荷物長崎へノ護送ハ次便他之

屋外外国人所有之目錄到来之上取計可然ト奉存候

婦順掛申付候事

征討本營ヨリ達書

等外三等出仕 小野 次郎

兵卒人犬鳥魚類購求運搬方之儀ニ付田辺中佐ヨリ中出之趣モ有之本日別紙之通各旅団へ相達候条此旨為心得相達候也

別紙

兼而前之浜波戸場内へ市場取設右場中ニ限り桜島人民魚類販売差計
候ニ付此市場外各管舎等へ出入販売致候者へハ別ニ県庁ニ於テ印鑑
附与致置候処間ニハ魚船波戸場へ到着之際兵卒人夫等其所ニ於テ直
ニ買取リ印鑑之有無ニ不拘其海人ニ命シテ各管舎へ相運候者モ有之
哉ニ相聞へ其不都合之儀ニ候条以来右様勝手之取計無之様各部下其
筋へ嚴重可相達候也

十年五月廿六日

川村参軍

曾我少将殿

高島少将殿

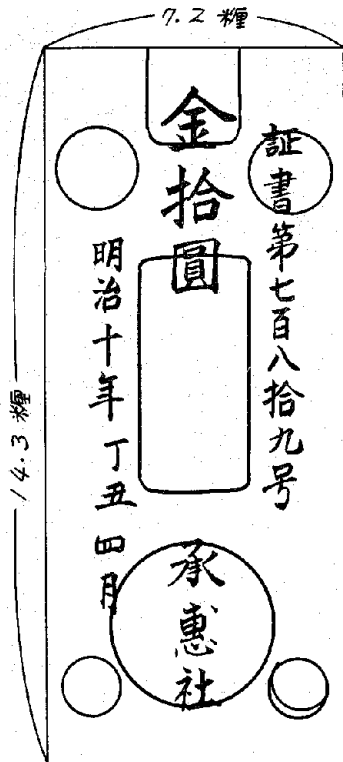
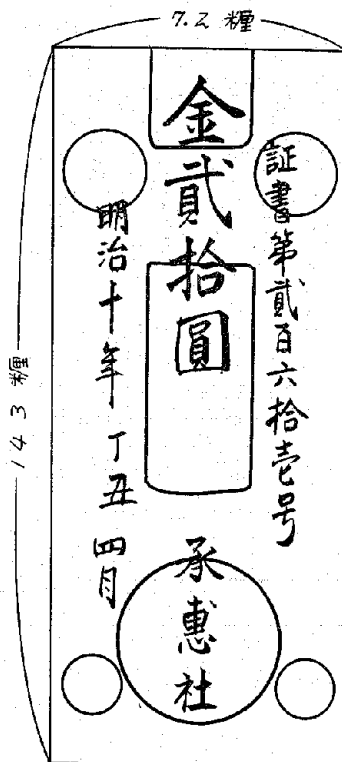
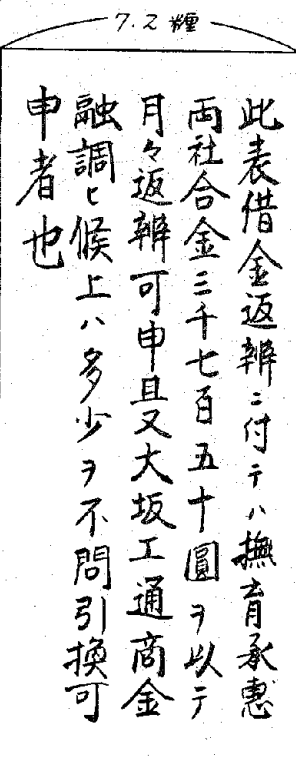
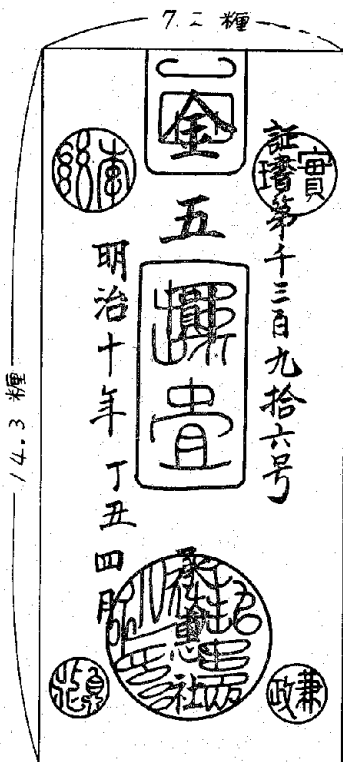
行在所第六号ノ布告ヲ揭示ス

大蔵卿へ上申書

入県以来管下於而開戦相成加フルニ人民兵火ニ罹リ飢餓ニ迫ル者不
勘且ハ諸官員糧米等モ一時差支ヲ生シ候ニ付兼テ何濟ニ基キ米三千
石長崎出納局出張所於テ既ニ操替請取候間此段御届仕候也
救恤取扱所五ヶ所

人員 五百四十八人

米 九石四斗貳升五合



五月廿七日曇 日曜日

病院仮規則

第一条

本病院及び桜島出張病院ハ賊徒ノ傷痍者ヲ治療スルモノユヘ診察料薬価其外共總テ官費ナリ

第二条

騒乱ノ際医療ニ便ナラサルヲ以テ当分之内一般人民ノ治療ヲモ兼施スト雖モ入院スルヲ許サス

但赤貧ノ者ハ薬価ヲ納ムルニ及ハズ

第三条

一般人民ノ治療ハ午前八時ヨリ午後三時ヲ限ル急劇ノ患者ハ此限ニアラズ

依願備差免候

当分桜島ノ内赤水出張所

詰申付候事

八等属

中馬 清秋
川越 新吉

第六課申付候事

同

土山 与助

任九等属

第六課申付候事

九等警部

森田 一寧

任十等属

第六課申付候事

十等警部

松井 堂介

第六課申付候事

同

等外一等出仕

牧田 新太郎

同

等外二等出仕

岩田 実

兼任八等警部

八等属

松本 彰

監獄兼懲役場掛

附属申付候事

等外一等出仕

福井 家規

同

同

篠山 資厚

同

等外二等出仕

鈴木 武

同

等外四等出仕

長命 房吉

第四課申付候事

雇

荒木 逸平

懲役場掛兼監獄掛
附属申付候事

同

見座申付候事

同

同

庶務掛附属申付候事

同

当分桜島ノ内赤水出張所

詰申付候事

同

免本官

明廿八日ヨリ除服出仕
可致此旨相達候事

第三十八号布達

本月二日第四号ヲ以テ傷痍者治療之儀ニ付云々及布達置候処当節果下開戦ニ際シ人民四方ヘ立退キ候折柄患者治療ニ差支困難不少趣相聞候ニ付当分ノ内一般ノ患者ヲモ治療為致候条病氣之者ハ県庁内及ヒ桜島仮病院ヘ可願出此旨布達候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 四百六十三人

米 六石九斗六升

五月廿八日曇 月曜日

田辺陸軍中佐ヨリ掛合

小野田元勲儀昨日陸軍中尉兼二等大警部ニ被任候条御県警部兼任之儀ハ相解候様御取計有之度此段及御照会候也

追而本文之都合ニ付取調事務差支候条林三等大警部及牧野警部補平林九等属ノ兼任モ右同様相解候様致度此段申添候也

右回答

小野田元勲外三名本県警部兼務之処御用都合有之四名共兼官相解候

等外一第出仕 祖山 鉉弥

雇 荒木 逸平

等外二等出仕 山口 鄭

同 服部 三樹之助

同 等外三等出仕 手島 良介

等外二等出仕 岩田 実

雇 松本 多賀司

十等属 佐久保 秀徹

等外三等出仕 速藤 正方

五等属 河田 景雄

八等属 上村 直

様御照会之趣敬承知候於当県何等差支無之ニ付免兼官辞令書四枚致御回候条本人へ御達有之度此段及御回答候也

免兼官

二等警部兼鹿兒島県 小野田 元 瀧

同

三等大警部兼鹿兒島県 林 誠 一

同

九等警視兼鹿兒島県 平 林 忠 正

同

警部補兼鹿兒島県 牧 野 恒 雄

号外布達

先日米開戦相成候ニ付而者人民中米穀買入方ニ差支候者モ可有之依テ当分之内元書林会社ニ於テ哨兵線内ノ人民ニ限り玄米払下ケ候間望ノ者ハ家族男女之員数取調同所へ可申出此旨布達候事

第三十九号布達

本月九日第二十二号ヲ以及布達候救恤所之内武之橋近傍新屋敷三原佐吉邸ヲ本日古新屋舗中通今井邸へ移転候条為心得此旨布達候事

懲役人之逃亡ヲ覺ラサル者謹責申候候事

等外二等出仕 山 口 鄭

編輯掛申付候事

八等属 石 川 辰 一 郎

受付掛申付候事

十等属 正 木 善 一 郎

掃順掛申付候事

雇 古 畑 金 達

内務大藏両卿へ上申書各通

当県下大島喜界冲永良部徳之島等論島等之諸産物貢納等之儀ニ付追々改革ニ着手相成候儀ニ相見得候得共右ニ関スル支庁建設以來官員増置之儀ヨリ島民拝借金非常予備米等及貢納金納仕組之原由其他各島へ商社設立之願末ニ属セシ伺書類並御指令文等紛乱取調方目的不相立甚差支候間明治四年置県以來ノ該島ニ関スル凡百之事件書類都テ御膳写之上可成丈至急御下渡相成候様致度此段申上候也

桜島出張所へ達書

桜島出張病院へ治療願出候患者之内負傷者其他平常病者等貧窮人ヲ

除之外ハ左之通薬価取立置追而仕訳書添衛生掛へ交付可致事

薬価

水薬一日分 貸価四銭

散薬一日分 同 同

丸薬一日分 同 同

膏薬一剂 壹了ヲ以 同 同

塗撮剂一剂同 壹了ヲ以 同 同

注射薬一剂 六了ヲ以 同 同

含嗽剂一剂 十了ヲ以 同 同

洗薬一剂 十了ヲ以 同 同

点眼水剂 一了ヲ以 同 同

頓服一剂 一剂トス 同 二銭

種子島行報告書

五月廿五日午前一時難波丸ニ乗込海軍少佐成松明賢外二名及ヒ第一旅団輜重部平野不二彦等巡查十二名ト共ニ鹿兒島ヲ発シ同日午前九時種子島ニ着ス上陸スレバ見物人海浜ニ蟻集シ戸長等米リ迎フ一同相伴フテ戸長役所ニ至ル日暮レテ戸長數十名ヲ旅寓ニ集メ厚ク朝旨ノアル所ヲ先論ス戸長等稍感佩ノ色アリ同廿六日戸長ヲ召集シ区内ノ事情ヲ尋問シ且ツ陸軍ノ人夫雇方ヲ促ス命ニ応スル者百五十名ニ下ラサル旨ヲ答フ夜半佐藤警部米リテ云フ昨夕所々ヲ探偵シテ医師田上庵ノ俾早苗ヲ拘引スト此者曩ニ賊軍ニ従事シテ日向地ノ本病院ニ存リ賊命ヲ受テ兩三日以前本島ノ東浦ニ来航シ米金鉛銀彈藥等ヲ徴収購売シテ日向ノ賊營ニ輸送スルノ際ナリト依テ警部ト共ニ其荷物ヲ点検スルニ戸長役所ヨリ賊軍ニ送ル所ノ金貳拾五円及ヒ土族数名ヨリノ送金若干賊徒宛ノ書狀若干アリ○廿七日朝戸長平山寛藏等難波丸ニ来リ昨日金貳拾五円ヲ早留ニ渡シタルハ実ニ其勢ヒ己ムヲ

得サルニ出タルヲ述ヘテ其罪ヲ謝ス懇ニ県官ノ滞在ヲ願請スレドモ其需ニ応シ難キヲ諭ス戸長又來リテ先諭書一篇ヲ留メラレン事ヲ願請ス依テ左ノ一書ヲ残ス

戸長中

今般賊徒御征討ニ付テハ最初ヨリノ御公布御告諭ハ何レモ拝承被致候ハ勿論ニ候得共尚説諭ノ為メ派遣セラレ夫々通達致シタル義ニ候間御趣意ニ不相悖様区内一般へ諭説可有之此上ハ心得違於有之ハ取調ノ上吃度御所置ニ相成候間必ス方向ヲ誤ラサル様精々尽力有之度候也

十年五月廿七日

種子島見聞

一該島長サ三十里余幅二里或ハ三里

一戸數四千五百七十六

内二千八百八十五士族

一口數一万九千七百六

内九千九百三十同

一公學校十四

一私學校十

一女學校壹ヶ所兼テ紡織ヲ教授スト云フ

一草高壹万石

十四年前疫癘難痘流行シテ口數頗ル減少シ田畑モ初メ大ニ荒蕪セリト云フ○物産ハ沙饒糧材茶葉等ナリ年中ノ材木ヲ内地へ運輸シテ諸色ニ交換シ米ハ僅ニ全島ノ食料ニ給スレドモ麥稍余リ有ルヲ以テ山川谷山鹿兒島等ニ運入スト春夏ノ中ハ漁獵ナシ○廿七日午前種子島ヲ發シ右ニマゲ島一名 向島ト云フ周圍一 左ニ屋久島口之江良部島ヲ望ミ竹島ヲ經テ午後五時半硫黃島ニ達ス時ニ風浪甚シ

硫黃島見聞

一戸數五十二

一口數二百四十余

外硫黃山人夫ノ寄留スル者アリ

一硫黃ノ精製高一年六万斤ト云フ

一金錢ナシ開物会社ニ於テ發行スル硫黃会所ノ木券ヲ以テ融通ノ用ニ供ス○島人鹿兒島ノ本社ニ來リテ木札ヲ金錢ニ交換シ米穀其他ヲ需メ歸ル

一山ノ半腹ニ安德帝ノ御陵アリ落葉埋沒ス硫黃島權現ハ帝ノ神靈ヲ祀ルト云フ藩政ノトキハ祭礼之儀式甚タ嚴ナリト云フ

一溫泉數ヶ所アリ

一手長ハ代々浜野小平太ト云フ呼テ島情ヲ問ヘハ傲然トシテ答テ云ク我輩ヲ始メトシ此島ニ在ル者ハ尽ク安德天皇ノ後裔ナリト

明治十年五月廿八日

三等屬 白根 大道
四等屬 古賀 保高
同 秋葉 邦相
外ニ士族 吉井 泰治

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五百八十七人

米 拾三石九斗四升

五月廿九日 水曜日

本日官軍桂山ニ進撃シテ大敗ス死スル十數人ナリト云フ

征討本營へ御掛合書

当県出張警視局二等警部重田位俊ヨリ別紙之通申出候因テ考フルニ今般ノ一舉以降市街人民戰慄之余リ各所へ逃走近日漸ク復歸之景況ニ垂ントスル之際右等之舉動有之候テハ折角復歸之民心今更離散候様成行候テハ治民上甚差支候付向來右等之舉動無之様夫是へ御嚴達被成度御報送旁及御掛合候也

別紙 二等少警部重田位俊ヨリ通知書

第二大区二小区六十二番地

種ヶ島直次郎

右之者方へ昨廿八日午前第九時五十分比鎮台兵卒三名突然入來リ手

込ニ味噌并醬油等持出シ候ニ付外品ト違ヒ生活ニモ差支候旨戸主直次郎ヨリ種々相断候得共更ニ不聞入持去リ候趣同十時五分過キ巡視之者へ訴出タリ依テ此段及御通知置候也

千石馬場諏訪邸救恤取扱所伺

第一条

第三十七号御布達中七十才以上十才以下并婦人ハ年令ニ不拘御救助被仰付ト云アリ又但書中ニ独リ丁年之男子トノミ有之十五才以下十一才以上之男子ノ儀ハ明文相見へ不申候得共丁年ノ男子同様ニ見做シ米量渡方ハ救恤手続ノ通婦人同様ニ取計可然哉

第二条

同上ノ御布達但書中其事情ニ寄リ時宜御救助可被仰付候儀モ可有之ト有之右者丁年ノ男子御救助願出候節主務ノ官員ニ於テ事情不得止者ト思考スル時ハ願意聞届可然哉

指令

伺之通

県令へ伺書

今般旧書林会社ニ於テ官米御取扱所御設置ニ付右同所へ左之雛形之通標札取設度此段相伺候也

払下米取扱所

右許可

官米売下手続

一官米払下願人ハ御規則之通家族人員多少ニ寄リ七日ノ以内ノ内米數御払下願出候ハ、直ニ受付掛於テ取揚ケ第六課へ配賦ス同課ニ於テハ線内外及事実取調相違無之節ハ石數ニ応シ代金ト切符交換相渡本人ハ直ニ旧書林会社へ相越同所於テハ切符引替ニ米穀相渡可申事

但多人數雜省候モ必切符番号ノ順次ヲ以テ可相渡事

一壹俵以下払願之者ハ米袋持參可申壹俵以上ノ分ハ壹俵ヲ斗リ立余ハ貫目平均ヲ以テ売渡可申事

一官米払下係リノ者ハ帳簿人名 家族ノ全 員モ込ル 及日數ニ応スル石數ヲ掲ケ置願人有之都度重複等照会可致事

官米払下定価

県下人民へ一時米穀購求之策無之族ハ長崎港ヨリ廻米之分願人家族ノ多寡ニ從ヒ凡七口以内ノ日數ニ基キ定価ヲ以御払下ノ儀伺済ニ付定価取究申度就而者買入米代及長崎出帆迄之積込其他諸費ヲ合算シテ運搬ハ官船ニ付勿論相省キ其他当港へ着船後解船水夫并人足等陸上ノ諸費ハ相省キ別紙定価仕出書之通取究申度此段相伺候也

精米御払下定価仕出書

金四千八百円 精米八百六拾石代

金五百円 右米蔵出入其他一切諸費

金三十四円四拾八錢六厘 右解船へ積込蒸氣船積入諸入費

金三円四拾五錢八厘 右積込延引ニ付水夫人足等手当金

合計金五千三百三拾七円九拾四錢四厘 此精米八百六拾石

平均定価米壹斗ニ付

金六拾貳錢壹厘

玄米御払下定価仕出書

金九千六百円 玄米貳千石代

金八拾円貳拾錢 右解船へ積込蒸氣船積入諸入費

金八円四錢貳厘 右積込延引ニ付水夫人足等手当金

合計金九千六百八拾八円貳拾四錢貳厘 此玄米貳千石

平均定価米式斗二付

金四拾八錢五厘

右許可

当分松島ノ内赤水村

飯出張所詰申付候事

当分松島出張申付候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 二百六拾貳人

米 五石壹斗七升

五月三十日 火曜日

果令へ伺書

一金四千五百円

右者本年 自四月 警察費金六千五百式円七拾五錢ノ内曩ニ官員県地赴

至六月

任ノ際旅費及取越月給等渡高概算金九千七百円余ノ仕払ニテ差引金

三千百円余不足相成尤月給ノ如キハ四月已向三ヶ月分見込渡ニハ候

得共着県已来県下騷擾之場合ニ立至リ隨而臨時費途モ不尠況ンヤ民

費金等今以テ引統候ニモ難相歩ヒ然ト雖モ今ニ鎮定ニモ至ラス且創

業ノ際旁此先キ多少ノ消費ヲ要セサルヲ以ス然ル時ハ差向キ該費ニ

充ツベキノ金額無之百事差支ノ筋不尠候間依之右不足金額及ヒ斯ル

場合臨時仕払見込金ト併セテ前章ノ通別途御下ケ渡相成候様追而御

上申案副テ可相伺候得共先以一時臨式拾万円ノ内ヲ操替御渡相成候

様致度此段相伺候他

右許可

内務省達書

其県雇和蘭人職工長テ・アルンツ氏儀今般騷擾ニ付長崎港へ立退滞
在中月々給料百円并家賃十弗宛支給致シ空敷日数ヲ經過スルハ無益
ノ儀ニ付相当使用有之敷不然ハ解雇之手続ニ可取計旨外務省ヨリ
協議之趣有之右ハ是迄使用ノ場所等存在致シ鎮定之後再ヒ起業ノ見

据有之候ハ、約定通雇置可申候得共可成ハ此際速ニ解雇致シ候方可
然ト存候ニ付見込相立早々可申出此旨相達候事

果令へ伺書

警部之儀ハ非常ノ場合ハ自ラ警備ニ可充モノナルニ付戦端相開キ候
節ハ昼夜ノ別ナク直ニ警部發出シ其実況ヲ偵視シ一々上申致シ候上
テ庁内等警戒ニ注意致候間乗馬一頭別当一人御渡被置度此段相伺候
也

右許可

果令へ伺書

瘋癲人取扱担当之儀ハ本月十一日第四課之伺ニ寄り救恤掛ニ於テ救
恤可致様御決裁相成候然ルニ瘋癲人ノ中ニハ独リ人事ヲ辨セサル
ノミナラス器物ヲ毀チ或ハ後園ノ作物ヲ暴シ或ハ人跡ノ絶間ヲ覗ヒ
逃走スル等ノモノモ有之右等ノ類ト雖モ一通リハ取締相付候得共何
分相当ノ入レ場所モ無之ヨリ自然取締方行届兼候ニ付右等ノ類ハ当
分ノ内第四課へ預ケ瘋癲院ノ代ニ入檻取締相成候様致度此段相伺候
也

右許可

宿直仮規則

第一条

宿直ハ毎日退出時限ヨリ翌朝出庁時刻ニ至ル迄ヲ直衛スルモノト
ス

第二条

宿直定員ノモノハ素ヨリ終夜交番ヲ以不寝ルモノトス然レドモ交
番ノ休息ニ当ルモノハ休息所ニ於テ休息スルハ妨ナシサレ共交番
時刻ヲ怠リ或ハ休息所外ニ於テ休息スル等ノ儀ハ決テ相成ラズ

第三条

宿直之節至急ノ書翰来ラハ直ニ果令又ハ大書記官へ差出スベシ
但通常書翰ハ翌朝受付掛へ交付スベシ

第四条

宿直ハ時々庁中各課ヲ巡視シ火ノ元ハ勿論諸事不虞ヲ戒ムベシ

第五條

火ノ元其他万一怪シムベキモノアラバ直ニ防禦ノ方法ヲナスベシ
若事大事ニ及ブベキ景況アラハ傍ラ防禦ヲナシ且ツ第四課へ急報
スベシ

第六條

宿直ノ者病氣ノ節一週間以内ハ其本人ヨリ頼合代直可為致候事
右之通当分之内仮定候条遵守可致事

第四十号布達

今般詮議之次第有之当分之間軍属共休暇等一切被差止候ニ付現今帰
省休暇等致シ居候者ハ神速帰省候様可相達旨佐倉管所歩兵第二聯隊
本部ヨリ照会有之候条帰省休暇中之者ハ其旨速ニ当県庁へ可申出此
旨布達候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三百七拾八人

米 八石五斗

五月卅一日曇 木曜日

大蔵省達書

其県昨九年分家禄金等渡方ニ要求スヘキ金員ハ申出次第長崎出納局
ヨリ可相渡候条当省派出官員ニ協議ヲ遂ケ其都度上申候様可致此旨
相達候事

但至急ヲ要スル分ハ電信ニテ申立不苦候事

明治十年五月五日

大蔵省達書

其県旧庁ニ属スル諸費用其他当省主管ニ係ル諸般ノ事項ニ於テ或ハ
例規ニ抵触スル者ハ其件既往ニ在テ修正シ得ベカラズ及ヒ将来ニ因
襲シテ妨害ナキ分ニ限り派出官員ト協議シ旧貫ニ仍ルモ不苦候尤事
将来ニ関係有之分ハ仮令瑣細ノ件タリトモ必伺出可申且又新庁ニ属
スル事務ニ於テハ從來ノ慣行ヲ廢棄シ専ラ一般ノ成規ニ照シ執行候
様可致此旨相達候事

明治十年五月六日

大隈大蔵卿達書

今般大蔵二等属金田清風始八名別紙名面之通其県出張為致別紙之通
申付候条其旨相心得諸般協議不都合無之様可取計此旨相達候事
明治十年五月

出張人名

大蔵二等属

金田 清風

同二等属検査局勤務

菊池 武英

同六等属租税局勤務

上野 幸一

同六等属検査局勤務

倉本 賢寧

同六等属国債局勤務

橋本 速水

同七等属租税局勤務

滝沢 尚弘

同八等属

服部 元成

同九等属国債局勤務

足立 忠恕

鹿児島県派出心得

第一条

這回派出ノ本旨ハ特ニ該県從來ノ成立ヲ追査シテ方今ノ現況ヲ審
明シ之ヲ新県官ニ引継ニ在リ故ニ各員ハ一ニ旧事ヲ整理シ新官員
ヲシテ力ヲ新務ニ専ニスルヲ得セシムベシ其事務タル多端ト雖モ
就中租税家禄及ヒ出納ノ三項ヲ以テ最トス其他件ヲ逐ヒ類ヲ推シ
毎項其顛末ヲ査究シ滲漏ナキヲ要ス

第二条

従前租税賦課ノ方法徴収期限ノ如何ヲ詳明追査スルヲ要ス蓋其順序タル先ツ方今ノ現況ヨリ推シテ旧藩制ノ時ニ溯リ毎節沿革ノ大綱ヲ確認シ然後細目ニ及ブベシ且其沿革ヲ査究スルニ当テハ封土奉還并ニ辛未置県ノ際ニ於テ尤注意スベシ

第三条

従前現収納ノ総額何程ナルヤ旧藩知事ノ家禄ヲ定メシ時ノ前年平均高ヲ根拠トシ之ヲ現今ノ實際ニ参照シ以テ其概額ヲ領知スベシ

第四条

従前現収納ノ概額ヲ領知セシ上ハ琉球藩ノ貢額及ヒ佐土原延岡等各県ノ合併セシ高ヲ加除シ更ニ辛未置県以來旧令ヨリ本省へ上呈セシ皆済目録并上計帳ニ対照シ實際ノ如何ヲ較量スベシ

第五条

毎年ノ上計帳等ニ拠リ各種税実地施行ノ有無ヲ検査シ將來施行スベキ廉々ハ主務ノ新官員ニ中継連ニ着手ノ順序ヲ為サシムベシ

第六条

明治八年以來金納ノ制履行シアルヤ否ヲ検査シ果シテ履行シアラハ其相場立ノ方法等実地如何ヲ査究スベシ

第七条

租税金ノ内県庁へ既収未収ヲ区分シ既収ノ内旧県官上請ヲ経スシテ檀ニ消費セシ分アラハ戻入可相成分ハ戻入ノ順序ヲ為サシメ到底戻入難相成分ハ損失ノ積取調ヘシ若シ現存ノ金穀アラハ速ニ上納セシメ并徴収期限ヲ過テ下民ヨリ未納ノ分アラハ之ヲ督促スル等宜シク新県官ト協議スベシ

第八条

諸印紙鑑札類ノ現存高ヲ精査シ若シ不足等アラハ損失払ノ積取調仍ホ其旨新令ヨリモ具申セシムベシ
凡ソ損失ニ立ツル件々ハ總テ本文ノ如ク其旨新令ヨリモ具申セシムルヲ要ス
下之二
做ヘ

第九条

土地ヲ有スル士族ヨリ小作ニ賦課スル租税ハ藩庁直轄ノ人民ヨリ徴収スル方法ト同キヤ否實際検査スベシ

第十条

旧令ヨリ上呈セシ九年度予算上ニ禄税ノ額ヲ掲ケアリト雖モ其地ノ如何ヲ探究シ直ニ溯テモ七八両年分ニ推及スベシ若シ逃税ノ向アラハ名寄帳ニ拠テ該名氏ヲ注明シ歸京ノ日具狀スベシ

第十一条

従前士族卒禄制ノ旧貫如何并封土奉還以後辛未置県ノ際ヨリ現今ニ至ル迄ノ沿革ヲ討明シ且辛未年中旧令ヨリ進達セシ家禄賞典禄帳ヲ基礎トシテ金禄帳ト不合ノ廉ヲ査究シ禄券売買ニ至ルノ情故ヲ推察シ結局方今現行ノ実況ヲ審明確認スルヲ要ス而シテ其一般ノ例規ニ抵触スル者ハ改正ノ見込ヲ具シ県官ヨリ稟議セシムベシ

第十二条

米金及ヒ幾期ノ米金渡ノ向ヘ支給ノ方法ニ割渡スノ類ヲ詳査シ其支給スヘキ禄高ハ該年ノ物成ヲ以テ該年ノ取高ニ充アルカ或ハ前年ノ禄ノ後レ渡シカ又ハ翌年分ノ繰上ケ渡シニ係ルカノ區別判然分析スルヲ要ス

第十三条

従前軍備トシテ士族家禄草高式石ニ付現米八升壹合ツ、藩庁へ収入セシ制法ノ廢存ヲ追査シ果シテ三申十月旧令伺出ノ通廢シアラハ其廢止ノ順序ヲ探究シ仍ホ其実況ヲ精査スベシ

第十四条

家禄過渡及ヒ其転シテ貸金トナルノ原由実況ヲ究討シ而シテ現ニ息納ニ係ル分ノ総額及ヒ内訳ヲ明析シ其下方ニ各名氏ヲ記注シ第十條ノ如ク歸京具狀ヲ要ス尤督促徴収スベキ者ハ直チニ其処分ヲナスベシ

第十五条

家禄賞典禄ヲ支給スルニツキ毎年下金ヲ要スル原因及ヒ其實際ノ如何ヲ探討スベシ

第十六条

昨九年分ノ家祿ハ這回始ク旧ニ仍リ渡方ヲ為スヘシ尤精査ノト或ハ増減過不足ヲ生スル事アラハ追而金祿公債証書下付ノ際其額而又ハ利子上ニ於テ加除スル事アルヘシ宜シク此意ヲ以テ新県官ト協議執行スヘシ

第十七条

新令赴任ノ際現在セシ各種金穀 例ヘハ地租雜稅及ヒ 定額金予備金ノ類
右ニ関スル諸帳簿ヲ管理シ対照精勘ノ上之ヲ新官員ニ引継キ開庁後ノ分ト混淆セシメザルヲ要ス而シテ其上納スルト支用ニ充ツルトニ至テハ一ニ県官ニ付シテ適宜執行セシムベシ

第十八条

該県諸經費ハ新令開庁ノ前後ヲ以テ之カ区域ヲ立テ即チ現時ノ如キハ九年度ノ定額ヲ月割トナシ該月諸費ノ仕払ヲ為サシムヘシ若シ開庁前ノ諸費ニシテ方今之カ仕払ヲ為スニ於テ不足ヲ生スル事アラバ其増費ヲ請求セシムルモ妨ケナシ開庁後ノ分モ亦之ニ準シ毫モ前後ノ区域ヲ乱ルヲ得セシメサルヲ要ス

第十九条

置県以來各歳ノ入出ハ本省ヘ進達シアル諸帳簿ト県庁藏ノ簿冊ト照査シ果シテ符合スルヤ否ヲ詳認スベシ

第二十条

諸收入及ヒ預前金其他各種ノ米金ヲ賊ノ軍費等ニ支用セシ分ハ其員數頗末ヲ詳細取調指揮ヲ乞ハシムヘシ

第二十一条

旧庁ニ屬スル諸費用他緒般ノ事項ニ於テ或ハ例規ニ抵触スル者アリ其件既往ニ在テ修正シ得ベカラス且將來ニ因襲シテ妨害ナキ者ニ限リ姑ク旧貫ニ仍ラシムルモ妨ケナシ苟モ事ノ將來ニ關係ヲ有スル者ニ至テハ仮令瑣細ノ件タリトモ具狀シテ指揮ヲ乞ハシムベシ

第二十二条

新庁ノ施行ニ屬スル費途其他凡百ノ事項ニ於テハ敢テ第二十一条

ト混同スルヲ得ス且從來ノ慣行等ニ泥マシムヘカラス断然其ヲシテ一般ノ成規ニ照シ嚴ニ之カ矯正ヲ為サシムルニ注意スヘシ

第二十三条

掛屋并会社等ノ興廢及ヒ其成立ヲ查究シ方今ノ現状ヲ詳認スベシ

第二十四条

該県下村々及ヒ旧宮崎縣ニ屬スル村々ヘ貸下金ノ元高何程納済ノ分何程將來可取立分何程ノ訳ヲ詳査シ其内旧庁ヘ既收ニシテ本省ヘ未納ノ分アラハ其金額ノ存否ヲ調査スベシ若シ上請ヲ経ズシテ支用シアルカ又ハ期限ヲ過テ未納ノ分アラハ總テ第七条ニ照準スベシ

第二十五条

加治木外三ヶ所ノ開墾地其他曾テ本省取扱ノ件ニシテ未タ完結ニ至ラザル分ハ時宜ニヨリ実地ニ臨ミ將來ノ見込ヲ付スル事アルヘシ其實糖運賃未納ノ件ノ如キ未タ旧庁ヘモ納済ニナリ居ラサレバ嚴ニ之ヲ督促シ速ニ上納セシムベシ

第二十六条

備荒方法ノ如何ヲ追探シ其沿革ノ次第ヲ詳ニシ併セテ附屬諸島備米ノ利害ヲモ審查スルヲ要ス

第二十七条

諸收入金ノ未納資金延滞ノ如キハ嚴ニ督促徴収シ而シテ尚ホ完結ニ至リ難キ分ハ新官員ト協議シ該県裁判所ニ懇告セシメ而シテ如此金穀ノ類ハ精細其員數ト事由トヲ具載シ之ヲ新官員ニ引継キ整理セシムベシ

第二十八条

事務整理ノ為メ緊要ナル帳簿ヲ要シ及ヒ旧官吏人民ヲ召集シ又ハ巡回スル等ノ事アラハ宜シク県官ト協議幹辦スヘシ

第二十九条

凡ソ事由ヲ調査シ処分ノ方案ヲ立ツル等ハ派出官員ノ担当ニ屬スト雖モ之ヲ實際ニ施行シ又ハ稟申請求スル等ノ事ハ總テ之ヲ県官

ニ負担セシムベシ

第三十条

凡ソ這回調査セシ条件ハ毎項其起源経歴ヲ詳ニシ尋イテ今日ノ現
状ヲ明ニシ且其利害得失ヲ考ヘ其第十四条等ニ準拠シ既ニ処分セ
シ者ハ帰京ノ日成蹟ヲ具シテ開申シ其指揮ヲ乞フヘキ者ハ処分方
ノ見込ヲ具シテ稟申セシムヘシ尤モ事ノ緩急ニヨリ或ハ帰京ノ際
稟申シ或ハ直ニ県地ヨリ稟申スル事アルベシ

第三十一条

以上ノ諸条ハ予メ各員当サニ処辨スヘキ事項ノ大畧ヲ示スモノト
ス故ニ実地ニ臨マハ首トシテ県庁蔵ノ帳簿及ヒ旧官吏等就キ類
推審問シ事々精確ナラン事ヲ要ス其他見聞ノ及フ所ニシテ事本省
ノ主管ニ係ル者ハ余力ヲ遺サス細大討究スヘシ万一帳簿紛乱シ及
ヒ推問スヘキ旧官吏者ナクシテ百方力ヲ探討ニ尽スト雖モ其端緒
ヲ得ルニ由ナキ件々ハ帰京ノ日其顛末ヲ具狀スベシ

鹿児島県仮病院五月分患者月表

入院患者

背部銃創	男一人
腰部銃創	男一人
上肢刺傷	男一人
總計三名	
外来患者	
腦諸病	
腦充血	男二人
右男二人	
神経系諸病	
齒痛	男一人
依ト昆埤里	男二人
併私の里	女四人
膀胱神経痛	男二人

右男五人
女二人

呼吸器諸病

鼻加答兒

喉頭加答兒

氣管枝加答兒

慢性肺炎加答兒

右男二十四人
女一人

消化器諸病

慢性胃炎

痙攣性食道狹窄

食道加答兒

急性胃加答兒

慢性胃加答兒

胃瘻

消化不良

腸胃加答兒

急性腸加答兒

慢性腸加答兒

疝

便秘

下痢

蛔

条虫

右男五十五人
女三人

泌尿器諸病

腎臟炎

男七人

男九人

男七人

女一人

男一人

男一人

男一人

男二人

男一人

男六人

女二人

男四人

男十二人

男四人

女一人

男七人

男二人

男六人

男四人

男一人

男四人

男一人

右男一人	生殖器諸病	淋疾	睪丸炎	下疳	右男十二人	伝染性流行諸病	間歇熱	右男二人	汎発諸病	癩麻質斯	ア子ミ	脚氣	高老病	右男八人 右女一人	皮膚諸病	エクセマ	羅斯	疥癬	右男五人	外科諸病	上肢膿腫	胸部膿腫	下肢膿腫	右男五人	眼諸病	眼瞼内転	結膜炎
男七人	男一人	軟性男二人 硬性男二人	男二人	男二人	男四人	男一人	男三人	女一人	男二人	男一人	男二人	男一人	男二人	男二人	男二人	男二人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	

角膜炎	角膜炎	右男五人	耳諸病	外聽道炎	右男二人	外傷	上肢銃創	下肢打撲	上肢挫傷	下肢挫傷	右男四人	總計百四十九人内 男百四十人 女九人	外來患者	神經系諸病	后頭神經痛	依卜昆坪里	併私的里	右男四人 女五人	呼吸器諸病	鼻加答兒	喉頭加答兒	氣管枝加答兒	喘息	肺結核	右男十二人	消化器諸病
男一人	男一人	男二人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	男一人	

口内炎	男一人	右	男一人
消化不良	女一人		
腸加答兒	男七人		
下痢	男三人		
	男二人		
男十三人			
女一人			
泌尿器病			
腎臓炎	右男二人		
生殖器諸病			
尿道狹窄	男一人		
下疳	軟性男一人		
右男二人			
汎発諸病			
癩瘡質新	男一人		
蜜尿病	男一人		
ア子ミ	男一人		
棋性骨痛	男二人		
右男五人			
皮膚諸病			
エクセマ	男一人		
	女二人		
右			
男一人			
女一人			
外科諸病			
上肢腫	男一人		
下肢腫	男一人		
右男二人			
眼諸病			
結膜炎	男七人		
	女二人		

右男七人
 女二人
 外傷
 銃創
 上肢切創
 下肢刺傷
 右男四人
 女一人
 總計六十三人内
 男五十二人
 女十一人

男二人
 男一人
 女一人
 男一人

明治十年六月分

鹿兒島県日誌

第三

六月一日

赤水出張所ヨリ上申書

別紙賊徒ノ回章鹿ノ屋郷辺華水近傍致同達居候ヲ写取有之分探索ノ者ノ

手ニ入候ニ付差出申候此模様ニテハ賊輩モ亦タ頗ル困難ヲ極メ候趣ニ相見ヘ類リニ良民ヲ強迫致居候体ニ御座候右ノ外舊県官ニテ賊党

ニ与セシ阿多慶ニナル者下方表ヘモ谷山 山川 伊作 市来 近日募兵 伊集院辺ヲ云

ノ為メ罷越火ニ強迫招集致候得共山川郷戸長某市来郷副戸長某等其需ニ応セサルヲ以テ終ニ之カ為メニ殺害セラレ候由然ノ至ニ候亦昨日谷山ノ賊徒五六名募兵ノタメ垂水ヘ罷越候風説モ相聞ヘ中候右ハ全ク確説トモ難相定候得共全ク浮説ニモ有之間數被存候賊ノ殘忍刻薄ナル言語ニ難尽候依テ右回章写供御内覽候也

別紙回章ノ写

今般不容易拳ニ立至リ己ニ此際ニ臨ミ候上ハ姦賊分隊ヲ日向路ニ差向ケ人民困難ニ差掛リ候儀眼前ノ事ニ候間何レ我兵割拠シ民政ヲ布キ候地ヲ父母ノ地ト思ヘハ士民一心ノ義務ヲ竭スハ当然ノ事ニテ募兵ノ尽力ハ勿論之儀ニ候間士族ノ外農商ハ可成強富壯年輩ヲ可募立万々及違背者共ハ敵ト見做シ軍制ノ処分可行候条各戸長ヘ御注意有之度候様御尽力ノ程分テ及御依頼候也

但南北両道迅速御諭達有之度候也

明治十年五月廿一日

本官

支庁御中

右之通宮崎支庁ヨリ御布達相成候間各被得其意触方無漏可及通達候左候テ此回章早々順達終ヨリ返納可有之候

十年五月廿一日

軍務取扱所

県令ヘ伺書

五月廿六日第三十七号ヲ以七十才以上十才以下之男子并婦人ハ年齢ニ不拘引続救恤スヘク旨布達ニ付出願ノ書式左之如シ
但取扱等ハ都テ第五条ニヨルベシ

御救助願

今般騒乱ノ為メ居宅焼失致シ或ハ至急立退後 産業ヲ失ヒ目下難決仕候ニ付先達テ出願之上御救恤被仰付難有奉存候然ル処今以取続方困窮仕居候間特別之御憐愍ヲ以テ引続御救助被仰付度此段奉願候也

何大区何小区何番地

明治十年 月 日

姓名

父

名 印或ハ摺印 年齢

母

其外子弟等

鹿兒島県令 岩村通俊殿

前書之通相違無之候也

戸長

姓名印

願之趣聞届候事

地名

救恤取扱所

掛リ官 員官印

明治十年 月 日

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三百五人

米 六石五斗一升

六月二日 晴 土曜日

当分桜島出張申付候事

同

八等属

坂本

宗喜

九等属

有馬

純徳

通行印鑑ヲ遺失スル者謹責申付候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 四百二十六人

米 九石六斗八升

六月三日 日曜日

第三課ヨリ伺書

海岸通りランプ新設之位置別紙之通相定メ速ニ着手候儀ト相心得可
然哉尤右点火之人吏使役方法等之儀ハ追テ第六課ニ於テ取調相伺可
申上候也

別紙絵図客之

出張官員ヨリ伺書

管下桜島之内横山有村黒神ノ三ヶ所ヘ兼テ郵便局設置有之候処当春
来閉局郵便不通相成居候然処横山ノ儀ハ緊要之地ニ付閉局事務取扱
可致ノ処従前取扱役当春通逃于今蹤跡不相訳差向取扱人モ無之ニ付
当掛リノ内ヨリ一人出張当分事務取扱可致尤有村黒神社前局ハ従前
取扱役其任ニ難堪他ニ取扱為致候者モ無之候ニ付前局ノ儀ハ当分閉
局ノ儘差置可申哉此段相伺候也

第四十一号布達

管下大隅国桜島之内横山郵便局当春来閉局郵便不通ニ候処本日ヨリ
当分赤水村当県出張所内ニ於テ郵便取扱日々鹿兒島ヘ往復致候條為
心得此旨布達候事

当分桜島出張所詰申付候事

通行印鑑ヲ遺失ス

ル者請責申渡候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 二百六十七人

米 七石九斗七升

六月四日 月曜日

第二課官員ヨリ伺書

本県仮事務章程先般御達相成候処尚又右ノ内甲乙両課ニ跨ル諸營等
ノ免許料及税金等其細目別紙ノ通賦課徴収ノ分掌相定メ申度此段及
伺候也

別紙

一諸玩業及菓売營業ノ興廢願ハ第二課ノ主務トシ之カ免許料金及税
金ヲ課スルモ又同課ニ於テ之ヲ掌リ其料金及税金ヲ徴収スルハ第
三課ノ主務トス

一酒類舟車烟草銃狢牛馬売買ノ營業興廢願ハ第三課ノ主務トシ之カ
鑑札料金及税金ヲ賦課徴収スルモ併セテ又同課ノ主務ス可キモノ
トス

一番種生絲売買類ハ第二課ノ主務トシ之カ鑑札料金ヲ收入シ及ヒ印
紙売上等モ又同課ニ於テ之ヲ掌ルベキモノトス

一番種生絲印紙ヲ除ク外諸印紙ニ係ルノ事務ハ悉皆第三課ニ於テ之
ヲ專掌ス可キモノトス

一度量衡ヲ検査シ之カ製作請負人及売捌人ヲ定ムルハ第二課ノ主務
トシ其税金ヲ收入スルハ第三課ニ於テ之ヲ掌ルベキモノトス

一版權ノ免許願及之カ料金ヲ課スルハ第五課ノ主務トシ其料金ヲ収
入スルハ第三課ニ於テ之ヲ掌ルベキモノトス

一代言人ヲ試験シ之ニ免許ヲ附与シ其免許料金ヲ賦課徴収スルハ併
セテ之ヲ第四課ノ主掌スベキモノトス

一物産ニ課スルノ県税 飯令ハ茶砂 糖等ノ如キ 飯令ハ旅籠屋
ニ於テ之ヲ徴収ス其物産ニ関セサルノ県税 質屋税ノ如キ 賦課徴収共
第三課ニ於テ之ヲ掌ルベキモノトス

但芸娼妓税ハ第二課ニ於テ之ヲ賦課シ第三課ニ於テ之ヲ徴収ス
ベシ

指令
充樂營業ハ第五課衛生掛ニテ担当可致其他原案之通各課ニテ担当
候儀ト可相心得事
等外三等出仕申付候事
救恤取扱所五ヶ所合計
人員 二百二十六人

網代 浜

米 十二石二斗四升五合

六月五日 火曜日

大藏省ヨリ達書

其県旧庁ニ属スル諸費其他当省主管ニ係ル諸般ノ事項ニ於テ或ハ例規ニ抵触スル者ハ其件既往ニ在テ修正シ得ベカラズ及ヒ将来ニ因襲シテ妨害ナキ分ニ限り派出官員ト協議シ旧慣ニ仍ルモ不苦候尤事將來ニ關係有之分ハ仮令瑣細ノ件タリトモ必何出可中且又新庁ニ属スル事務ニ於テハ從來ノ慣行ヲ廢棄シ専ラ一般ノ成規ニ照シ執行候様可致此旨相達候事

第二課ヨリ伺書

一承恵社札二千四百二十六円也

外下地紙 一括

右ハ運輸局内土藏中照査之節在合セ候ニ付外品トモ異リ候儀故へ員数相改メ封印之上本課ニ於テ預リ置可申哉此段相伺候也

任五等属第三課申付候事

任七等属第六課申付候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 二百一人

米 一石六斗四升

六月六日 水曜日

川村参軍ヨリ達書

熊本本営ヨリ過刻別紙之通報知有之候ニ付為心得及回達候也

別紙

山県参軍ハ今晚ヨリ八代表へ出張云々扱人吉モ昨二日終ニ陥リ近傍ニハ賊一人モ見へ不申候趣報知有之候然ルニ豊後口竹田潰走ノ賊三重市ニ砲臺ヲ築キ防守スル趣ニテ去月卅一日奥少佐之ヲ攻撃シテ利アラズ退テ戸次ヲ守リ居候趣同夜五六百名ノ賊三重市ヲ発シ本月一日臼杵ニ侵入ス依テ同所出張ノ巡查百名臼杵士族ト協力防戦利アラ

ズシテ臼杵ハ終ニ賊有ト相成リ賊勢ニ乗シ直ニ鶴崎ヲ經テ大分ヲ襲ントスル勢ニ付奥少佐ハ昨二日戸次ヲ発シ大分ニ至リ防戦ノ用意ノ又重岡へハ日州ヨリ賊徒陸續繰リ出シ候趣ニテ野津大佐ハ重岡口押へ且三重市之賊攻撃ノ為メ多岐ト申所へ出張致候段今朝報知有之申候其他ノ報知ニテハ賊ハ頻リニ豊後地へ押出ス勢ニ有之様相見申候尚又萩ノ賊徒ハ直ニ巡查ヲ以打払巨魁ハ追々捕縛シ頃日既ニ鎮定之趣山口県ヨリ報知有之候付御掛念被下聞布候先近日之景況耳御報知如此

六月三日

林内務少輔ヨリ来翰

其県管下日向国那須地方曲淵門芝原三田井村等ノ賊既ニ追撃相成不殘潰散致候ニ付テハ差向鎮撫説諭可有之筈之処其地ヨリハ未タ道路梗塞致居候ニ付其県官員并数名当地へ被差廻右賊退散之場所々ニ当地方ヨリ追々説諭相成候方可然ト存候此段申入候也

明治十年六月三日

同回答

当県管下日向国那須地方曲淵門芝原三田井村等ノ賊已ニ追撃相成不殘潰散候ニ付而ハ差向鎮撫説諭可致管之処当地ヨリハ未タ道路梗塞致居候ニ付官員并巡查数名右地方界へ差廻可申旨御申越之趣承知仕候就テハ不遠官員数名右地方へ可差廻積ニ有之候間御承知有之度此段御回答仕候也

東京臨時裁判所二等判事玉乃世履ヨリ通知書

内務九等属ノ辞表ヲ上リ	同	鹿兒島県三等属	川上親郷
開届ナキニ県官を奉シ	同	七等属	折田常隆
官制御改革後	同	十等属	平岡八郎太夫
等級未定	同	中属	長倉 認
同	同	権中属	原 作藏
同	同	少属	永吉 実

同 同 元 邨 門 延
同 同 高 木 義 孝
同 同 等 外 三 等 出 仕 篠 崎 真 積
以上十四名之官等五月二日在庁官員申立ヲ以取調免職之辭令相
渡置分

鹿兒島県七等屬 折 田 常 隆
同 同 十二等出仕 上 村 行 英
同 同 十五等出仕 吉 井 叶
同 同 鹿兒島官心得 貴 島 平 八
同 同 鹿兒島等外三等出仕心得 上 村 精 之 助
同 同 鹿兒島師範學校一等訓導 北 条 卷 蔵
同 同 鹿兒島師範學校一等訓導 小 久 保 直 五 郎
同 同 鹿兒島師範學校訓導 鈴 木 敏 勝
以上八名

同 同 鹿兒島六等警部 伊 勢 汀
同 同 鹿兒島一等巡查 内 藤 佳 一 郎
同 同 厚 池 兼 治
以上三名

川村參軍ヨリ達書
明七日午前五 垂水新城花園等へ蓬来丸可差遣候ニ付人民説諭旁ト
シテ諸布告書類所持之上官員出張可被申付此旨相達候也
追而警護之為メ巡查兵可差出候条為心得申添候也
垂水迎出張申付候事

同 同 仁 田 登
同 同 白 根 大 道
同 同 河 原 田 盛 美
同 同 服 部 安 容
同 同 須 知 彦 太 郎
同 同 高 田 貴 之 輔
同 同 副 区 長 宮 里 仲 之 丞
内務省大小書記官へ掛合書

当県旧官員之中当時滞京ノ三等屬中村兼志十五等出仕竹迫弥一兩名
へ別紙免官辭令狀下渡度乍御手数可然御取計有之度此段辭令書相添
及御依頼候也

別紙畧之
任五等屬第一課申付候事 馬 場 雅 雄
同 溝 口 維 美
任七等屬第六課申付候事 今 泉 清
任八等屬第一課申付候事 須 川 藤 太 郎
畢申付ケ月給拾五円給与候事 細 井 一 濟
同 田 辺 松 太 郎
救恤取扱所五ヶ所合計
人員 二百六十七人
米 三石三斗六升

六月七日晴 本曜日
賊徒砲臺ヲ催馬染山王ノ阿山及ヒ武ノ丘ニ築キ每堡巨砲數門ヲ備
ヘ昨日ヨリ今日ニ至リ彈射シテ止マズ此日彈丸ノ參軍本營及ヒ県
庁構内ニ破裂スル者各十余又庁前ノ倉庫及ヒ街頭ノ家屋為メニ燒
カレントスル者數ハ、則チ庁中備フル所ノ消防器械アリ用テ皆之
ヲ救フ居民及ヒ役奴ノ街上ニ在テ彈死セラル、者八人は是ヨリ先キ
ニ県官其家族ヲ庁中ノ一隅ニ置ク其居タル旧財庫ノ属舎ニシテ別
ニ一構ヲ成ス所ナリ此日之ヲ旧城内ノ長局ニ移シ以テ之ヲ避ケシ
ム庁中弥戒嚴各其任所ニ在テ徹夜シテ之ヲ守ル
内務卿ヨリ達書

丙第廿六号 鹿兒島県
本年七月ヨリ米十一年六月迄一周才河港道路經費目途金之儀別紙之
通可相心得此旨相達候事
明治十年五月廿五日
別紙

鹿児島県

一金壹万六千三百四拾貳円 河津道路橋梁一周才經費額

鹿児島裁判所長寛六等判事ヨリ通知書

免兼十四等出仕 喜界島詰兼司法省十四等出仕 川口 貢

免兼十三等出仕 喜界島詰兼司法省十三等出仕 染川 安豊

免兼十四等出仕 徳之島詰兼司法省十四等出仕 吉田 勢十郎

免兼十五等出仕 輿論島詰兼司法省十五等出仕 長崎 勇之助

右頭書之通免職相達候間此段及御通知候也

明治十年六月

任六等属第一課申付候事

渥美 力弥太

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 六百二十八人

米量九石四斗六升五合

六月八日雨 金曜日

昨七日参軍本営ヨリ汽艦蓬萊丸ヲ以テ兵士ヲ垂水新城等ニ遣ルニ依リ県官出張云々ノ達アリ乃其人民反正帰順説諭ノ為メ白根大道外六名ヲ遣ル此日午前第五時拔錨少時ニ垂水ニ達ス土人ノ説ヲ聞ク曰ク今朝賊徒土兵ヲ募リ百余名ヲ率ヒ去ルト衆則水陸兩道ニ分シ花岡ニ到テ相ヒ逢フ軍団ノ驍者アリ報シテ曰ク大始良ノ官倉ニ米五百余俵アリ賊將ニ明朝ヲ期シテ之ヲ奪ントシ為メニ方サニ車馬ヲ勒ス宜シク之ニ先キダテ之ヲ序下ニ致スベシト此ニ於テ水陸ノ衆ヲ合シ陸路大始良ニ到ル官倉ヲ襲スルニ異状ナシ人夫ヲ發シテ之ヲ海岸ノ倉ニ輪セシム輪シ未タ終ラサルモ数十俵日將サニ暮レントス依テ其残米ヲ措キ土人ニ与ヘ速カニ帰途ニ就カン事ヲ罔ル蓋シ官兵多事ノ際帰期ニ急ナルヲ以テナリ則チ与ヘントス土人受ケズシテ謂ラク他日必ス賊アリ其受ルヲ謹メ之ニ警スルヲ如何ンセン衆乃チ相ヒ謀リ之ヲ倉前ニ抛棄セシム土人蟻集シテ拾フ遂ニ海岸ノ倉戸ニ鎖鑰シ而シテ皆去ル後二日ヲ経テ之ヲ驗スレバ

悉ク既ニ賊ノ奪ヒ去ル所トナル

内務省へ上申書

去月廿五日亞米利加合衆国軍艦当県下へ入津致候ニ付尋問之為メ当県一等属田辺輝実七等属近藤真言之兩人差遣シ候処別紙之通申立候間此段及上申候也

別紙

一亜米利加合衆国軍艦

船名 クラルサルジ

船将名 アフ ウー メナキル

乗込人員 百七拾名

砲門数 九門

右者日本海巡見之為メ入津致候事

県令ヨリ各官員へ達書

諸官員病氣ノ節他府県下へ出療又ハ父母ノ病氣ニ付帰省看病願及辭職願共詮議ノ次第有之当分之中一切不聞届候事但旨ヲ諭シ辞表為差出候分ハ別段之事

同

予テ銘々へ相渡置候通行印鑑ハ方今騷擾ノ間反賊ノ党与ト判然類別スルノ証ニシテ寸時モ遺亡スヘカラサルハ勿論万一右印鑑遺失スルヨリ不幸賊ノ手中ニ入リ之カ為メ不測ノ患害ヲ醸シ候様ノ儀出来候テハ実ニ国家ニ対シ不相濟事ニ付以後印鑑紛失等致シ候者ハ嚴重ノ所分ニ可及候条一同注意疎漏無之様可致為心得此旨相達候事

追テ職人夫人足等へハ各其管轄ノ課ヨリ可相達候事

桜島ヨリ帰庁

白根 大道

同

河原田 盛美

同

服部 安容

同

須知 彦太郎

同

高田 貫之輔

同

仁田 登

同

副戸長 宮里 仲之丞

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三百七十二人

米 四石五斗七升五合

六月九日曇 土曜日

砲発事變昨今トモ概子去ル七日ノ如シ

軍団ノ牒者アリ口ク賊徒彈藥銃砲等ノ製造所ヲ都ノ城近傍ニ設ケ類ニ之ヲ製スト

赤水出張所ヨリ伺

当島出張所ヘ向ケ追々參軍本營ヲ始メ旅団并第四課等ヨリ拘引及ヒ捕縛可致者示談有之候ニ付其節ニ警部巡查等申談送致及候得共免角差掛手当致ニ付自ラ猶予贖ニ相成候間左之件々兼テ御処分ヲ抑キ置臨机不都合無之様取計申度依テ奉伺候

一兼テ相詰居候巡查時々交代致来候得共甚差支ニ付一ヶ月ツ、詰切候様仕度候也

一全島周回船場出入ハ取締相立候ニ付島内ノ搜索平常注意為致度取来地理未熟言語不分之処故別段二人撰便宜之処分御委任相成度就テハ警察費モ兼テ相応御渡相成度候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三百八拾三人

米 四石四斗壹升

六月十日曇 日曜日

嘗テ戦端ヲ此地ニ開クニ際シ居氏皆四方ニ遁逃シ万家悉ク空盡ト為ル相見ル所ノ者ハ唯兵士ト県官ト其役奴トノミニ依テ商賈販売ノ道悉ク塞ク衣食日用ノ具復餘ルニ由シナシ県官等頼ル之ニ困ス内務卿深ク之ヲ察セラレ為メニ広業商會笠野熊吉ナル者ニ命シ物品ヲ此ニ蓄ラシ各其購求ニ応シ以テ之レカ欠乏ヲ補ハシム乃チ其資三万円 本県臨 時費金 ヲ貸与シ且ツ汽艦ノ便ヲ給ス熊吉其命ヲ奉シ手

代田中正純ナル者ヲ遣リ之ヲ行ハシム正純来リ飯リニ其店ヲ庁隅

ノ一所ニ開ク此ニ於テ嚮ニ欠乏スル所ノモノ購フヲ得サルハ莫ク求テ到ラザルハ莫シ庁中ノ人皆始テ蘇息ヲ得ル者ノ如シ

大久保内務卿ヨリ通知書

別幣九州臨時裁判所ヨリ申越候処已ニ御承知ニモ可有之ト存候得共為念御廻付ニ及候却說其県下島々之儀ハ船都合ヲ以テ追々致廻視取締相立候様之都令ニ相成候得ハ至極之事ト存候間猶御勘考之上河村參章ヘモ協議ヲ被遂可然御取計有之度此段内々申進候也

十年六月十日

別紙賊徒ノ口供書翰畧之

赤水出張所ヨリ報告

別紙賊徒書類ノ写八代規ヨリ密ニ差越候ニ付供内覽候也

別紙

一宮崎支庁之事

軍務所

右之通改称致候条此段及右達候也

五月廿八日

本 營

定

一我器ヲ棄テ逃走スル者

一戰場ニ於テ兵士ノ分ヲ誤ル者

一道路本陣其人民ニ對シ亂暴狼籍スル者

右相犯スニ於テハ凡ク割腹ニ処シ候条厚ク可得其意事

但シ戰場ヲ脱シ逃帰等致候者悉ク捕縛致シ人吉ノ方ニテ其罪ヲ相亂候条是又相心得夫卒ニ至ル迄無漏告諭可致事

五月廿九日

本 營

一大区事務取扱所之事

郡代所

一戸長役所之事

支郡所

右之通名称被相替候条各組中無漏通知イタシ尤此廻章早々順達終ヨ

リ返納可被成候也

六月一日

以下畧之

郡代所

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 六百十二人

米 九石三斗

六月十一日 月曜日

林内務少輔へ呈書

管下日向国那須地方由淵等ノ賊ハ既ニ進撃相成不殘潰散致候付テハ
差向鎮撫説諭之為官員差回シ候様先般御中越相成則及御答書候次第
ハ疾ク御承知被下候儀ト存候然ル処派出官員ノ儀ハ差繰モ有之此度
ハ先以別紙四名ノ者日向表巡回中付其御比へ罷出候ニ付万事可然御
指揮被成度委細ハ巡回官員ヨリ御聞取相成度御依頼旁此段申進候也

別紙

御用掛

真田 庵

五等警部

大滝 新十郎

九等属

添田 弼

十等警部

野中 法隆

日向表巡廻申付候事

同

真田 庵

同

大滝 新十郎

同

添田 弼

救恤取扱所五ヶ所

人員 百七十一人

米 壹石九斗一升

六月十二日 火曜日

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 百六十二人

米 十一石九斗八升

六月十三日 水曜日

出張官員ノ辞令式ヲ定ム

一管内出張又ハ巡回等其課掛主務ヲ以テ派出候節ハ別段辞令書不下

付口達ヲ以テ申付候事

一管外出張者都テ辞令書相渡候事

但管内ト雖モ在勤或ハ場所詰又主務ノミニ無之一個重立タル出

張ハ辞令下付候事

桜島出張所ヨリ歸庁

村田 新

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五百六拾壹人

米 貳拾四石貳斗五升

六月十四日 木曜日

桜島横山ニ在ル旧地頭屋敷ヲ以テ軍団支病院ニ充ント欲ス則チ之
ヲ命ス住スル者去ル然ルニ其狭矮ナルヲ以テ果サス遂ニ其近傍ノ
学校ヲ以テ之ニ充ツ旧地頭屋敷ハ島津久光父子ノ乱ヲ避ケテ居ル
所ナリ聞ク父子ノ此ニ在ルヤ郷村ノ士族五百人ヲ以テ護衛ノ士ト
為シ之ヲ其近傍ニ分処セシムト

川村参軍ヨリ達書

桜島横山ニ有之候旧地頭屋敷へ病院取設之筈ニ候処至テ手狭ニ付同
処近傍ニ有之候学校右病院用トシテ軍団支病院へ引渡相成候様取計
有之度此旨相達候也

明治十年六月十四日

同回答書

桜島横山ニ有之候旧地頭屋敷へ病院御取設之筈ニ候処手狭ニ付同所
近傍ニ有之学校右病院用トシテ軍団支病院へ引渡候様可取計旨御達
之趣致承知即桜島之内赤水出張詰へ相達置候間軍団ヨリ同処へ掛合
ノ上御請取相成候様致度此段御受旁申上候也

大蔵省出官員ヨリ掛合書

庁下住居之士族ニテ去子秋所務米請取残有之并切符所持ノ向ハ其可
受取残高ヲ記載シ切符所持之向ハ写相添来ル廿三日限可届出旨鹿兒
島及ヒ桜島へ御布達之上右届書取廻候へ、当詰所へ御廻相成候様致
度此段及御照会候也

明治十年六月十四日

鹿兒島県

御中

甲第四拾貳号布達

当県士族之輩昨九千秋所務米請取残余有之右勘合之切符所持之輩ハ
其可受取残高記載之書面及ヒ切符写シ相添来ル二十三日迄ハ当庁へ
可届出此旨布達候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 四百五拾七人

米 五石六斗六升

六月十五日 金曜日

当分桜島へ出張

同

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 四百二拾三人

米 六石四斗壹升五合

六月十六日 土曜日

川村参事へ上申書

各旅団兵卒各所戍衛之節篝火入用ノ為士民ノ邸宅ニ有之材木或ハ薪
等ヲ取出シ又ハ家屋ヲ毀傷候等ノ処業有之趣右者巡查巡行ノ際見当
リ候へ、直ニ拘引取糺候ハ勿論ニ候得共兼テ其筋へ可然御達置有之

度此段上申候也

桜島出張所ヨリ帰庁

同

免出仕

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 六百二拾三人

米 六石八斗壹升五合

等外二等出仕

関本喜
坂本源
山口鄭

六月十七日 日曜日

嘗テ賊徒ノ泉源ヲ絶テ派泉皆涸渴セシヨリ此ニ二旬時ニ旧城内ニ
通洞アリ俗伝フ某所ニ達スト而シテ未タ人驗ヲ經ス此ニ於テ之ヲ
驗ス長サ二町余其山嶺ニ達スル洞中ニ涯アリ深サ数尺此日之ニ寛
ス

大阪出張申付候事

同

救恤取扱所三ヶ所合計

人員 九百十四人

米 十石九斗六升

六等属 河原田 盛美
九等属 芥藤 助作

六月十八日 月曜日

渡辺大阪府知事へ依頼書

御府下立売堀旧薩州邸当県下承恩文社取調之儀有之当県六等属河原
田盛美九等属芥藤助作出張為致候条都合ニ寄リ該社取締ノ為封印或
ハ社員拘引致候都合ニ立至リ候儀モ可有之其筋ハ可然御取計有之度
此段及御依頼候也

甲第一号布達

庁下左ニ開列セル公立学校及ヒ学寮書器局病院共当分相廢シ候条此
旨布達候事

学校

英語 学校 準中学校 師範学校

女子師範学校	山本小学	平小学
松原小学	八幡小学	中洲小学
田上小学	武高小学	日枝小学
太平小学	高嶺小学	若宮小学
長谷小学	原小学	錦江小学
孝行小学	鶴嶺小学	滑川小学
鶴尾小学	広小路小学	女学第一校
女学第二校	女学第三校	女学第四校
女学第五校	女学第六校	女学第七校
女学第八校		

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 九百五拾五人

米 拾壹石三斗九升五合

六月十九日 火曜日

川村参軍ヨリ来翰

追々守線ヲ延候ニ付テハ当管下之儀者専ニ巡査ヲ以テ十分ニ取締致候ハデハ人民保護行届兼候儀ト存候ニ付此際更ニ式千名丈速ニ御遣シ相成度旨内務卿ヘ掛合致度存候条於貴官御異存無之候哉一先御打合ニ及候間至急御回答有之度此段申進候也

六月十九日

同回答書

追々守線ヲ被延候ニ付此際巡査式千名丈速ニ御遣シニ相成候様内務卿ヘ御掛合被成度段御打合之趣承知仕候儀官於テモ尊慮之通当県之儀ハ巡査ヲ以テ十分ニ取締リ不致候半テハ人民保護上行届兼候儀ト相考ヘ既赴任前内務卿ヘモ其旨申上且於東京安藤中警視ニ面会猶打合候処同人儀モ同論ニ有之就テハ内務卿並中醫視ヨリモ川路大警視ヘ乱後取締之儀ニ付彼是申入候様兼テ承知仕居候間免角県下御平定ニ向候ハハ大警視ニ面会協議ヲ遂ケ是非其運相付度存居候儀ニ付右御打合之趣実ニ御同意ニ御座候間尚可然御請求被成下度希望此事

ニ御座候此段及御回答候也

追而本日請求ニ付小官ヨリハ格別内務卿ヘハ上申不仕候尤過日川路大警視ヨリ出水辺ニ巡査廻候様申越候ニ付過日官員彼地ニ出張申付當時式百人ノ巡査分遣候テハ差間候ニ付相断リ置其内彼地之都合ニヨリ猶川路大警視ト協議之上別ニ巡査差廻方之儀内務卿ヘ請求致候様申合候次第モ御座候間此段為御心得申上候也

長崎県令ヨリ来翰

貴県之郵便線路陸路不通ニ付東京其他ノ新聞紙当分当県庁ヲ経テ御送致可申旨曾テ御依頼ニ依リ自後夫々御送致方取計来候処頃日当地ヨリ貴県ヘ海路郵便開通之趣ニ付右各新聞紙ハ其各社ヨリ直ニ当地郵便局ヲ経テ貴県ヘ郵送候様取計置候条御了承相成度此段為念及御通知候也

明治十年六月十二日

大島支庁在勤申付候事

同	御用掛	柳原義則
同	八等属	土山与助
同	九等属	渡辺順
同	等外三等	小野次郎
同	同	本山純一
同	雇	手塚元治
同	御用掛	仁田登
同	八等属	西村正陽
同	十等属	志賀重花
同	等外三等	島田篤棲
同	御用掛	横川源藏
同	十等属	三枝盛太
同	八等属	太田正保
同	六等属	河原田盛美
同	十等属	須田義直
同	雇	加藤喜久太
同	輿論島支庁在勤申付候事	

沖永良部島支庁在勤申付候事

同

同

同

長崎表出張申付候事

桜島出張所詰申付候事

安寧掛申付候事

庶務掛申付候事

衛生掛申付候事

同

等外四等出仕申付候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五百五拾壹人

米 九石貳斗九升

六月廿日 水曜日

川村参軍へ申稟

桜島小池村学校今般御連ニ依リ軍病院用御渡申候処右学校ハ先般同所へ島津家仮住居ノ頃ヨリ借請米穀其外多数入置有之儀ニ他へ運出申儀ニ候処当今桜島各村へハ諸方ヨリ立退人入込士民家屋土蔵共相塞右之米穀等可入置場所無之島津家ニ於テモ目下甚難洪之趣ヲ以テ小池村造船所囲外へ相建居候人足小屋壹軒当分拝借願請度旨同家令伊集院九郎ヨリ願出事情無余儀相聞候条此節柄御差支無之候半ハ願之通御許可相成候様致度此段相伺候也

指令

伺之通当分之内貸渡候条当管入用之節ハ速ニ取除ケ候様兼テ相達置可申候事

明治十年六月二十日

大島并徳ノ島出張巡廻申付候事

同

御用掛 福永信治

九等属 岡上雄次郎

九等属 弘道輔

雇 荒木逸平

八等属 石井忠順

十等属 伊山徳次郎

四等属 柴太一郎

十等属 村上新一郎

六等属 丹下量平

八等属 三上環

雇 池田四郎

警部心得申付事

同

同

同

同

懲役場兼監獄掛附属申付候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五十八名

米 五石八斗七升

六月廿一日 木曜日

内務大藏兩省へ上申書

当県管下各島誌冊別紙之表日至急入用ニ候処当庁中搜索仕候得共紛乱之際何分見当リ不申然ルニ右簿冊御両省中ニ有之候様伝承仕居候付テハ何卒右写本至急御下附相成候様仕度仍此段御依頼申上候也

別紙

鹿児島県管下各島誌日録

南島誌

各島免本上納帳

高頭其外租税取帳

各島村法

各島規則書

各島官吏俸給

砂糖総買上方法

各島民割方法大畧

雜料輯録

物定帳

喜界島取調箇条書

各島支庁仮職制并事務章程ヲ定ム

鹿児島県各島支庁仮職制并事務章程

柳原義則

仁田登

横川源藏

河原田盛美

福永信治

浅利伯徳

職制

長一員

政令ノ要旨ヲ体認シ府県事務章程並ニ本庁ノ事務章程及ヒ命令ヲ遵守シ支庁管内ノ人民安寧保護ノ事ヲ掌ル
人民營業ノ盛否ヲ詳悉シ興業授産ノ方法ヲ按シ稼殖ヲ奨メ物産ヲ起シ専ラ人民富殖ノ事ヲ掌ル

學事教育ヲ普及セシメ及ヒ衛生等ノ事ヲ掌ル
正租雜稅ヲ收入シ其他土地河海山林ヲ測量シ及堤防土木等ノ事ヲ掌ル

行政司法ノ警察ヲ掌ル

諸經費ヲ予算シ金錢出納ヲ管理シ及ヒ官舎營繕用度等ノ事ヲ掌ル
支庁仮章程中ニ掲載スル所ノ各課ノ事務ヲ統括担任シ各員ノ能否勤惰ヲ監視シ本庁ニ具狀スルヲ掌ル
等内外吏員担任ノ科ヲ分ツ事ヲ掌ル
支庁ノ事務掌サルハ長専ラ其責ニ任ス

事務章程

掌管ノ事務ヲ分テ上下ノニ款トス其上款ハ本庁ノ決ヲ受テ之ヲ処分シ下款ハ長之ヲ專決施行ス其目左之如シ

上款

- 第一條 各島ノ諸規則ヲ制立又ハ改革スル事
- 第二條 租稅并區費ニ関スル事件ヲ整理改革スル事
- 第三條 總テ例規ナキ事件ヲ処分スル事
- 第四條 官員婦省願并ニ改印忌服届ノ事
- 第五條 社寺分合廢立及改称号願ノ事
- 第六條 孝子節婦其他金穀献納及奇特者等賞管ノ事
- 第七條 巡查賞管扶助及追賞ノ事
- 第八條 窮民救助ノ事
但成規アル救助等ハ此限ニ非ズ
- 第九條 諸会社廢立及ヒ條約ヲ結ブ事
- 第十條 鐵礦借區願ノ事

第十一条 金穀拝借願及取立期限ノ事

但非常備米ノ出入ヲ規則ニ照シ処分スルハ此限ニ非ズ

第十二條 非常災災届ノ事

第十三條 諸建白ノ事

第十四條 租程増減並區入費ノ額ヲ査定スル事

但下款ニ掲クル条件ハ此限ニ非ズ

第十五條 新規諸營業願ノ事

但下款ニ明載スル分ハ此限ニ非ズ

第十六條 公私學校病院設立ノ事

第十七條 郡村町ノ經界及ヒ區画ヲ釐正スル事

第十八條 公債証書ノ売買及讓渡ノ事

第十九條 地租地券稅該季ノ收額ヲ定ムル事

第二十條 官地払下及無代下附ノ事

第二十一條 官林官木払下及伐採ノ事

第二十二條 官有ニ屬スル不用ノ建物及土石物品等売却ノ事

但金額五円以下ハ処分ノ上届出ベン

第二十三條 官有地ニ生スル草卉魚鳥及樹及木実ノ類売却ノ事

第二十四條 村町分合改称願ノ事

第二十五條 諸陵官社及官庁官宅監獄等ヲ修繕スル事

但金額十円以下ニ係ル分ハ所分ノ上届出ツベシ

第二十六條 米穀酒類其他ノ租稅ニ用ユル物価ヲ定ムル事

第二十七條 定免切替及ヒ新規定免願ノ事

第二十八條 免下場繼年季及免直本免入ノ事

第二十九條 河海埋立願ノ事

第三十條 上地願ノ事

第三十一條 官費ニ関スル道路堤防橋梁溜池ノ新築修繕及用惠水路疎通ノ事

但非常至急ノ場合ニ於テハ此限ニ非ス平常ト雖モ金額十円以下ハ処分ノ上届出ツベシ

- 第卅二条 天災ニヨツテ損壞ノ土地及荒地減租ノ事
- 第卅三条 社寺境外上地ノ地所所有主取定方ノ事
- 第卅四条 山林原野池沼等官民有ノ區別ヲ立ツル事
- 第卅五条 開墾地鍬下年季明ニ至リ地積ヲ丈量シ其租額ヲ定ムル事
- 第卅六条 官林並ニ並木植絲ノ事
- 第卅七条 墓地火葬場新規設立願ノ事
- 第卅八条 貢米運搬賃錢支給ノ事
- 第卅九条 神官并ニ区長学区取締ノ進退ノ事
- 第四十条 土族分家隠居養子家督願ノ事
- 第四十一条 港内碇泊船及取締規則ヲ編製スル事
- 第四十二条 小学区ヲ改正スル事
- 第四十三条 已未決囚逃走ヲ司法省ニ届ケ又ハ各府県へ捕縛方依頼ノ事
- 第四十四条 巡查懲罰例ニ依テ処分ノ事
- 第四十五条 同招募并黜陟ノ事
- 第四十六条 失火消防功勞アル者へ賞譽ノ事
- 第四十七条 難破船有之節制規ニ供テ賞ヲ行フ事
- 第四十八条 警察民費新二課出并課出方法ヲ改正スル事
- 以上各款支庁検査ノ上長ノ見込書ヲ付シ本庁ニ稟議スベシ
- 下款
- 第一条 支庁官員ヲ臨時本庁及ヒ管内各島へ派出セシムル事
- 第二条 戸長ノ進退并黜陟并月給十円以下ノ雇ノ者採用免黜等ヲ施行シ後具狀スル事
- 第三条 諸芸興行及從來所在芸娼妓願ノ事
- 第四条 一寺住職進退ノ事
- 第五条 庁中小買物予備品等便宜買上及ヒ支給ノ事
- 第六条 戸籍調査ノ事
- 第七条 人民姓名改称願ノ事
- 第八条 水災ニ付例規アル救助ノ事

- 第九条 臨時祭并開帳説教願ノ事
- 第十条 棄兒届并貰受願ノ事
- 第十一条 帰檀離檀并神葬祭届ノ事
- 第十二条 諸船舶検印願ヲ処分スル事
- 第十三条 酒類醸造及ヒ請売ノ事
- 第十四条 売薬取締ノ事
- 第十五条 懲役人満期処分ノ事
- 第十六条 火難盜難届ノ事
- 第十七条 庁中ノ諸記録ヲ編輯シ之ヲ保護スル事
- 第十八条 地誌ヲ編纂スル事
- 第十九条 總テ内外国船ノ困難ニ罹シ者処分スル事
- 第廿条 学校生徒ノ試験ヲ監督シ委託金及民費賞譽等ノ処分ヲナス事
- 第廿一条 学校委託其他病院等ニ供スル官金受払ノ処分ヲナス事
- 第廿二条 学校教員志願ノ者并生徒ノ例規試験ヲ執行スル事
- 第廿三条 諸勘定帳其他諸帳簿ヲ調製スル事
- 第廿四条 免許ノ売薬ヲ請売願ヲ許可スル事
- 第廿五条 月俸旅費其他ノ諸費ヲ規則ニ照シ支給スル事
- 第廿六条 父母病氣ニ付帰省願并忌引ノ節除服達ノ事
- 第廿七条 学校教員進退ノ事
- 第廿八条 遊獵職獵免許願并銃砲取締ノ事
- 第廿九条 上納検査ノ方法ヲ設立スル事
- 第卅条 土地開墾願ノ事
- 但官有地ハ此限ニ非ス
- 第卅一条 五十歩以下ノ官地并借願ヲ許可スル事
- 第卅二条 開墾地鍬下及荒地等ノ年季ヲ賦スル事
- 第卅三条 社寺境内外ノ区界ヲ釐正スル事
- 第卅四条 荒地継年季願ノ事
- 第卅五条 官林監守人進退ノ事
- 第卅六条 橋船及渡船場賃錢收入願ノ事

- 第卅七条 定額ノ国税及県税ヲ例規ニ照シテ收入スル事
- 第卅八条 民有地ノ地券ヲ下附スル事
- 第卅九条 民有地売買譲与願ノ事
- 第四十条 舟車営業願ノ事
- 第四十一条 官有ノ倒木枯木等ヲ売却スル事
- 第四十二条 貢米石代願ノ事
- 第四十三条 牛馬売買営業願ノ事
- 第四十四条 諸印紙及郵便切手訴訟用野紙売捌願ノ事
- 第四十五条 度量衡売却願ノ事
- 第四十六条 生絲売買営業願ノ事
- 第四十七条 烟草売買営業願ノ事
- 第四十八条 荒地起返及損壊地検査ノ事
- 第四十九条 破免検見願ノ事
- 第五十条 租税收入ニ付成規アル延期願ヲ許可スル事
- 第五十一条 官有地ニ生スル栢実桑茶葉及茸晚筍竹皮ノ類売却ノ事
但之ヲ売却スルニ必競売法ヲ以テシ売却ノ上ハ其投
標紙ヲ添テ届出ヘシ
- 第五十二条 官費ニ関セザル溜井修繕及用惡水路疏通願ノ事
但土地ノ交換及租税ノ増減ニ関スルモノハ此限ニ非
ス
- 第五十三条 徴兵例ニ照シ兵丁ヲ調査スル事
- 第五十四条 証人并無罪解放ノ者旅費支給ノ事
- 第五十五条 懲役人ヲ苦役スル方法ノ事
- 第五十六条 制規ニ依テ遺失物ヲ処分スル事
- 第五十七条 売淫取締規則ニ依テ処分スル事
- 第五十八条 獄丁進退ノ事
- 第五十九条 検視取扱ノ事
- 第六十条 消防規則ヲ設ル事
- 第六十一条 諸坑人ヲ注意監督スル事
- 第六十二条 各会社ヲ検査シ月報及半年報ヲ差出サシムル事

- 第六十三條 制規アル療治料ヲ給スル事
- 第六十四條 警察月報ヲ製スル事
- 以上各款支庁長ノ専決ヲ以テ施行スル事ヲ得ルト雖モ事
重大ニ関スルモノハ処分済ノ上届出ツベシ
- 第三課申付候
第一課救恤掛申付候事
第五課申付候事
常務掛申付候事
雇申付日給金并銭宛給与
第三課附屬申付候事
救恤取扱所五ヶ所合計
人員 千百六十七人
米 十貳石六斗三升
- 六月廿二日 金曜日
官軍備馬栗山ノ壘ヲ攻メ頗ル激戦遂ニ之ヲ取り守兵ヲ置ク蓋シ昨
夜開戦今日午後二至テ罷ム
赤水出張所ヨリ報告
頃日大始良郷辺へ賊徒ヨリ別紙ノ通回達致居候趣ニ付右享供電覽ニ
候也
- 別紙
非常ノ際ニ臨テハ非常ノ設不可莫吾旧制軍政ニ基カサルハナク今哉
四方之交戦日久シテ屢勝敗アリ実ニ國家ノ憂トスル処ナリ然トイヘ
トモ今般學國ノ兵ヲ起ス所以ノモノハ義ヲ同シテ國家之大患ヲ除キ
天皇陛下ノ聰明ヲ擁蔽スルノ奸ヲ攘ヒ國家ヲシテ泰山ノ安ニ置カン
ト欲ス故一般之治体ヲ変革シ断然軍務ニ基キ外ハ弭兵氣ヲ補ヒ内ハ
外城ヲ連合シテ一步モ伺フ能ハサラシムルヲ以テ急務トスベシ尚力
ヲ尽シテ以テ俱共ニ素志ヲ述ントス境内ノ人民義ヲ忘レ方向ヲ誤ル
勿レ

同 雇 有村甚四郎
同 木村幸助

右ハ昨日進撃路案内旁トシテ高島少將ヨリ借用セラレ本日御用済ニ
付差還サレ慰勞金五百足ツ、下賜ル

官員十六名ト共ニ東京ヨリ歸庁

任六等属第三課中付候事

任八等属第一課中付候事

任八等属第一課中付候事

任八等属第六課中付候事

任五等属第六課中付候事

雇申付日給金三十錢給与候事 第一課
附屬

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 六百五十七名

米 八石壹斗二升五合

六月廿三日 土曜日

賊徒催馬樂山ノ守兵ヲ襲撃スル事甚激烈砲臺復遂ニ其有スル所ト
為ル蓋シ昨夜開戦今日ニ至テ罷ム

等外三等出仕申付候事
第一課常務掛申付候事

戸籍掛申付候事

同

赤水出張所請申付候事

救恤掛申付候事

大口筋出張中付候事

同

同

同

同

同

渥美重徳

木村禎造

須川藤太郎

石川辰一郎

小野修一郎

蒲原敬路

佐藤達弥

馬場雅雄

溝口維美

久保田六三郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

渥美力弥太
藤本頼慶
鎗口義興
今泉清
須川藤太郎
木村禎造
菅井雄
森川正良
細井濟

救恤取扱所四ヶ所合計

人員 九百十壹名

米 拾石四斗二升

六月廿四日 日曜日

賊徒嘗テ砲臺ヲ三所ニ築ク催馬樂山ト云ヒ山王山ト曰ヒ武ノ丘ト
曰フ武ノ丘及ヒ山王山ハ其西南ニ当リ催馬樂山ハ其東北ニ位ス官
軍砲臺ヲ築キ東北之ヲ永安橋ノ前後ニ限リ西南之ヲ甲突川ノ左岸
ニ限ル甲突川ハ西北ヨリ斜流シテ東南ノ方海ニ入ル四大橋ヲ架ス
其海ニ接スルモノヲ武ノ橋ト曰ヒ次ハ高麗次ハ西田次ハ新上ト曰
フ此日官軍大挙シテ西南ノ賊ニ向フ午前三時官軍ヲ發シ兵分レテ四
大橋ヨリ進ム橋ヨリ南賊壘ニ至ルマテ距離凡ソ十町賊各武器ヲ以
テ之ヲ其半途ニ迂フ官軍河決ノ勢ヲ以テ突進スレバ賊モ亦漲潮ノ
態ヲ以テ敢テ挽マス巨砲ト小銃ト山嶺ヨリ水涯ヨリ林ヨリ丘ヨリ
官賊交モ發ス響キ山嶺ヲ動カシ烟焰大電ニ端ツ既ニシテ賊兵漸ク
遯巡官軍彌奮フ進テ其巢窟唐湊及ヒ武ノ両村ニ火ス武村ハ嘗テ西
郷隆盛ノ家スル所一隊ノ兵此ニ固守ス撃テ之ヲ斃ス家燼ス丘上及
山嶺ノ墨猶堅フシテ拔ケス賊徒皆必死シテ之ヲ守ル時ニ水兵汽艦
二隻ヲ以テ進ミ其一隻ノ兵ハ谷山村ヨリ陸シ其二隻ノ兵ハ湊橋ノ
際ヨリ陸ス湊橋ハ武橋ヨリ南十余町ヲ距テ賊兵線ノ最モ備フル所

而シテ墨ノ東面ニ当リ谷山村ハ其南又一里ヲ距テ賊窟トス此ニ陸
スル者ハ先ツ之ニ火シテ而シテ間道ヨリ其背後ニ出テ橋際ヨリ陸
スル者ハ之ヲ横斷シテ其側面ヲ衝ク賊三面敵ヲ迎ヘ猶挫折セス力
ヲ悉シテ之ニ接ス或ハ銃或刀左刺右撃縱橫奮戰官軍之ヲ冒シ三面
齊ク迫ル此ニ於テ賊進戰居守ノ策復施ス所ナク狼狽混沔爲ス所ヲ
知ラス或ハ突進シテ斃サレ或ハ身ヲ脱シテ逃レ山ニ谷ニ林ニ丘ニ
斃ル、者跡ヲ接シ逃ル者相踵ス時正ニ夜九時官軍凱旋ス此夜官兵
胸壁ヲ此ニ築ク

參軍本營有馬中秘史ヨリ來書

本日武村辺ヨリ谷山迄進撃相成自然各營共手薄ニ付万一指火等ノ
異変有之候テハ甚不都合ニ候間巡查ニ於テ殊ニ注意候様御達置有之
度此段申進候也

明治十年六月廿四日

大久保内務卿へ上申書

今般兵火ニ罹リ又ハ産業ヲ失ヒ目下飢餓ニ迫リ候者救恤ノ儀明治八
年第二百廿二号公布ニ依リ先般以來取扱來候処当節日數満期ニ至候得
共老幼婦人等ニ至テハ如何懸然ノ次第ニ付不取敢別紙之通布達致救
恤取斗居申候仍此段御届申上置候也

別紙ハ布達第三十七号ノ如シ依テ此ニ畧ス

同上申書

当県判仕官之儀先般小官赴任ノ際東京其他ニ於テ撲拳之儀ハ兼テ御
届仕候通りニ有之然ルニ御承知モ被為在候進当県下ノ形勢全ク一時
賊巢ト相成此節官軍頗ニ奏功諸手ノ軍勢追々当県管内へ進入ニ相成
候ニ付テハ婦順人ハ勿論救恤等ノ官員至急諸口へ可相廻段各營ヨリ
来示モ有之尚且当地官軍ニ於テモ近日屢進撃頗ル賊勢ヲ挫キ候ニ付
テハ不日出水郷其他ノ官軍ト連絡ヲ通シ候様可相廻ハ素ヨリ不須言
次第ニ有之就テハ当県官員モ當時現在ノ者ノミニテハ速モ充分ノ手
配難行届追々採用モ取斗候得共何分差当失機會候様モ可有之ト甚痛
心罷在候ニ付嘗テ佐賀縣騷擾ノ際同県へ隣県官員派遣ノ儀御達相成
候御都合モ有之候ニ付此際非常特別ノ御賢慮ヲ以テ別紙府県ニ於テ

官員可成人撰ノ上當県賊氣鎮定無恤ヲ始メ県治ノ概業相立候迄派遣
ノ儀知事県令へ至急御嚴達被下度尤旅費月給等ハ當県ヨリ支払候間
此辺御差含夫々へ御指揮被下候様懇願仕候也尚以本文各府県於テ万
一派遣ノ儀難行届御都合ニ候ハ、其外隣県へ御嚴達ノ上必ス五拾名
相調出張相成候様仕度此旨添テ申上候也

別紙

京都府 大坂府 兵庫縣
堺縣 滋賀縣

右府県ヨリ

五等属以上之官員 貳拾五名

八等属以上六等属迄官員 貳拾五名

合五拾名

内警部適任之者 拾五名

租税地理等ニ練達之者 拾名

會計ニ適當之者 五名

各町出張説諭其他之事件担任一方ノ長ニ湛ユル者 貳拾名

右之通精撰之上御差向之儀御処分相願候也

同上申書

拜啓此度巡查請求之儀ニ付態々當県四等警部柴太一郎儀閣下之御許
へ出張為致候委細同人ヨリ親ク御聞取被仰付度奉願候兼テモ申上候
通當県之儀者乱後者勿論於此際モ巡查ヲ以テ充分ニ取締不致テハ不
都合ニ付過口河村參軍ヨリ請求之通貳千名丈ケハ至急御差廻相成度
尤該員之内ヨリ幾分カ日向路等エ分遣ノ御都合ニ可相成哉ニ奉存候
得共其余ハ不殘一応当地へ御差下之儀相願度然ル時ハ諸口ヨリ当地
へ請求之節其宜ヲ見斗ヒ管下一般ニ厚薄無之取締筋行届候様派遣仕
ヘク尤當分之内其巡查進退指揮之儀ハ小官へ御特許蒙リ度奉願候
一前条事件之外ハ柴太一郎へ廉書ヲ以テ可申上旨相達置候間左様御
承知被仰付度取紛之際不能縷々右而已如是御座候再拜
尚以川村參軍ヨリ請求相成候巡查貳千名ノ儀ハ當今此地出張候二百
名并ニ林少輔ヨリ請求之二百名之外更ニ御差廻相成候様相願候儀ニ

御座候也

西京出張申付候事

伊集院出張申付候事

同

同

谷山口出張申付候事

同

同

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五百三十名

米 五石九斗五升

六月廿五日 月曜日

催馬楽山ノ罌陥リ熊本ヨリノ連絡通シ川路少將參軍本營ニ來ル

救恤所ヲ涙橋近傍ノ地ニ設ケ之ニ飯ヲ給ス

川村參軍ヨリ達書

海岸哨兵之儀ハ是迄警視隊ヲ以テ一般出入等取締為致置候処右ハ都合有之今晚ヨリ引揚候条該事ノ義ハ於其庁巡查ヲ以テ嚴重取締行届候様至急其筋ヘ可相達此旨相達候也

明治十年六月廿五日

同來書

川路少將引卒ノ内第五大隊宮ノ城口ヨリ本日当地ヘ乗入リ來リ候ニ付テハ都合ノ次第モ有之桜島ヘ差出置候田辺中佐ノ隊員悉皆引揚ケ候条此旨可被相心得候也

十年六月廿六日

田辺陸軍中佐ヨリ通知書

此迄当旅団ヨリ桜島ヘ分遣致置候各隊之儀參軍本營ヘ届済ノ上本日ヨリ引揚候様右各隊ヘ相達候条為念此段及御通知候也

六月五日

別働隊會計部ヨリ依頼書

昨日当團進軍ニテ多分ノ戦死有之候処右糧製造之儀大工無人ニテ行届不申暑氣ノ初埋葬延引候儀甚心痛致候ニ付何共乍御難題御座御座置ノ大工兩三名程暫時借用致度尤製調相濟次第速ニ御返戻致候此段及御依頼候也

十年六月廿五日

救恤之儀ニ付各少將ヘ依頼書

熊本県下諸口ヨリ追々当県下ヘ進撃相成ニ随ヒ兵燹ニ罹リ候人民目下飢餓ニ迫リ候者救恤ノタメ当県御用掛小野修二郎出張申付候然ルニ土地ニヨリ米穀運輸難弁節ハ旅団糧食課有合之米穀転借致度段及御依頼候儀モ可有之候条可成丈融通相成候様兼テ其筋ヘ御達置被下度此段及御依頼候也

明治十年六月廿日 鹿児島県令 岩村通俊

陸軍少將川路利良殿

同 山田顯義殿

同 野津鎮雄殿

同 大佐野津道員殿

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 五百六名

米 六石壹斗八升五合

六月廿六日 火曜日

長崎九州臨時裁判所河野敏謙ヘ掛合書

熊本県下之官軍追々当管内ヘ進入候ニ付熊本接近ノ地方ニ属官派遣為致候然ルニ該地ニ於テ帰順者并各旅団ヨリ送付相成候人頭有之節ノ一応取調糧倉人頭以上之犯罪ハ長崎始最寄御出張所ニ送付致候様致度候条御別慮無之候ハ、各出張所ヘ御進置相成度此段及御打合候也

乙第一号布達

從來竹ノ橋近傍新屋敷中通リ今井邸ニ取設置候救恤取扱所ノ儀今般更ニ騎車場近傍荒田村海辺元雇外人チツセンヘ貸渡置候家屋ヘ相移シ同所ニ於テ救恤取扱候条目下凍餒ニ迫ル者ハ同所ヘ可願出此旨

布達候事

雇申付月給金拾四給与候事
第一課受附掛附屬申付候事
雇申付月給金八円給与候事
第二課申付候事

当分之内救恤事務専任申付候事

常務掛申付候事

宮ノ城筋巡廻申付候事

同

同

同

同

同

長崎ヨリ帰庁

桜島ヨリ帰庁

同

救所取扱所五ヶ所合計

人員 九百貳拾七名

米 拾石三斗八升五合

六月廿七日 水曜日

今夜当海灣新波戸場ニ於テ烟火ヲ揚ク衆庶群テ此ニ觀ス蓋シ參軍

本營ヨリ之ヲ設ク

内務卿へ上申書

本県施治順序之儀ハ兵乱ノ際ニ属スルヲ以テ尋常ノ成規ヲ以テ処置
難仕場合モ有之候ニ付猶追々具状可仕儀可有之候得共差向キ其大綱
ニ於ル薩隅両国ヲ本庁直轄トシ人民ニ便宜ヲ得セシメ上下ノ事情ヲ
シテ扞格ナカラシムルノ見込ニ御座候処広漠ノ管内此際取締筋充分
ニ難行届殊ニ各処ニ士族等散居候儀ニ付当分撫御ノ為メ別紙ノ地位
ニ出張所ヲ仮設シ本庁及支庁ニ隷屬タラシメ県官三四名宛駐在シ時

齊藤兵吉
本田休次
伊藤市郎
渥美重徳
丹羽照陽
秋葉邦相
服部安陽
村上新
依藤忠夫
有馬十郎
平山国彦
安藤小次郎
鎌田信天

々各区巡視之上御趣意柄等説諭為仕度右費額ノ義ハ兼テ御渡之臨時
費金ヲ以テ一切可仕弘都合ニ候間御聞置被下度此段上申候也

別紙ハ甲第四号布達ノ如シ

同上申書

先般小官赴任之節汽船壹艘拝借之儀相伺候処伺之通御指令有之尤其
初ハ汽船少ナノ儀ニ付追テ御廻シ可相成旨ヲモ拝承仕居候処追々管
下平定ニ属シ候儀ニ付從是別テ諸物運送等莫大之儀ニ有之加ニ官員
至急各地へ派遣等ノ都合モ有之候間伺至兼テ御指令済之通汽船壹艘
至急御差廻相成度此段上申仕候也

同上申書

当今御地ニ滞在候当県官員別紙之者共へ管下開戦前後ノ始末書取ヲ
以テ可差出旨相達置候処右ハ一同賊徒共ニ全ク關係無之趣申越候間
外ニ御聞込之筋モ無之候得ハ済県申付度乃別紙達書御差廻及候間為
御渡之上帰県不差支様乍御手数可然御取斗相成度此段及御依頼候也

別紙

御用之儀有之候間早々帰県可有之候也

明治十年六月廿七日

岩村県令

山田海三殿
小宮山季良殿
西之原嘉左門殿
黒田勇七殿
大山行佐殿
岩下平八殿
大野盛器殿
酒井清四郎殿
藤島良士殿
樺山吉次郎殿
竹内正徳殿

川村參軍へ上申書

七十歳以上十歳以下ノ男子及ヒ婦人ハ哨兵線無鑑札ニテ通行被差許

候等ノ処昨今涙橋哨兵線ニ於テハ婦人ト雖モ通行差留候趣右ハ如何
ノ行違ニ候哉老幼婦人等ニ至ル迄差留候様ニテハ目下飢餓ニ迫ル者
救恤筋ニ差留ヘ難渋ノ者不少候間従前ノ通々行差許候様御通被下度
仍此段上申候也

指令

書面之趣ハ直ニ其筋ヘ相達候事

明治十年六月廿七日

同申稟書

哨兵線通行ニ付御管御印鑑兼テ五十葉御下附相成居候頃日官員各
地ヘ追々派遣候ニ付テハ渡切ニ付御下附可相願答ノ処熊本県ニ於
テハ該県印鑑ヲ以テ哨兵線通行相成趣ニテ該地出張小沢大佐ヨリ当
県出張官員ヘ被相談候由ニ申越候間旁於本県モ以來別紙雛形ノ如ク
当県印鑑所持罷在候者ハ哨兵線ハ勿論當管下一般ニ通行相成候様御
許可ノ上ハ管内沿道番兵及各旅團等ニ見合セ印鑑御差廻被下度仍右
枚数ヲモ被仰下度此段相伺申候也
追テ本文御許可相成候ハ、兼テ御下附有之御管御印鑑五十葉ハ夫
々派遣ノ者帰県次第返上可仕候也

指令

伺之通

但一般人民ヘ相渡候儀ハ嚴禁ト可相心得且各旅團ニ於テ照準ノ
為メ先ツ以印影百枚可差出事

明治十年六月廿七日

別紙雛形畧之

同上申書

当県官員別紙名前之者并ニ東京出張警部巡查併テ三十五名外ニ小使
者人今般当県管下大口筋ヘ出張申付候ニ付明廿八日出帆千藏丸ニ乗
組長崎表ヘ向ケ差遣申度候間右乗組方至急運輸局ヘ御達被下度仍テ
此段御依頼申上候也

指令

書面之趣聞届運輸局ニ相達置候事

明治十年六月廿七日

別紙人名畧之

同上申書

昨夜御管ヨリ当県屬官ノ者御呼出ニ付差出候処谷山伊集院及川内口
等ヘ第一及第三旅團ヨリ巡邏兵御差向相成候ニ付当県ヨリモ屬官可
差出旨御下命ニ依リ直ニ右口々ヘ官員兩三名宛出張為救恤ハ素ヨ
リ説諭及帰順等ノ手順夫々申付置候付テハ以來口々ヘ兵員御差向相
成候節ハ必官員及巡查等出張為致申度候間其都度御下達被下候様致
度仍此段上申候也

同上申書

賊徒負傷者取扱方之儀ニ付五月廿日付ヲ以テ上申致置候処取締等之
都合モ有之自今当県第四課ヘ引渡可申旨改テ各旅團ヘ御達相成候様
致度此段申上候也

臨時裁判出張候事ヘ掛合書

賊徒負傷者取扱方之儀ニ付五月廿日付ヲ以テ及御照會置候処取締等
ノ都合モ有之自今当県第四課ヘ御引渡相成度改テ此段及御照會候也
九州臨時裁判所河野幹事ヨリ掛合書

同	鹿兒島縣三等屬	川上親郷
同	七等屬	折田常隆
同	十等屬	平田八郎太夫
同	中屬	長倉認
同	中屬	原作蔵
同	少屬	永吉実
同	十二等出仕	上村行英
同	楠少屬	高木正栄
同	十三等出仕	山本実明
同	鹿兒島縣裁判所十三等出仕	伊勢汀
同	兼鹿兒島縣六等警部	福島巖
同	十五等出仕	吉井叶
同	十五等出仕	

右之者官職被褫候哉未タ其儀無之候ハ、至急其御処分相成度此段及御照会候也

明治十年六月十六日

追テ伊勢汀之儀ハ其地裁判所へ御申談之上本文御取斗有之度且川上親郷以上当裁判所へ受取居義ニ有之候此段申添候也

同回答書

当県三等属川上親郷外二十四名之者共官職ヲ褫候哉未タ其儀無之候ハ、至急其処分致候様御照会之趣并御追書共承知致候右ハ別記之通先達テ免職処分相濟候ニ付此段及御回答候也

別記署之

甲第二三四号ノ布達ヲ揭示ス

甲第二号

管下日向国一門從來之区名ヲ廢シ更ニ左之通り改称候条此旨布達候事

旧 第一大区	第九十四大区
同 第二大区	第九十五大区
同 第三大区	第九十六大区

同	同	福永 猶之丞
同	同	相良 雄藏
同	同	貴島 平八
同	同	内藤 佳一郎
同	同	厚地 兼治
同	同	宇宿 行徳
同	同	元村 門延
同	同	高本 義孝
同	同	篠崎 真積
同	同	等外三等出仕 篠崎 真積
同	同	等外三等出仕 村上 精之助
同	同	師範学校一等訓導 北条 卷藏
同	同	小久保 直五郎
同	同	師範学校訓導 鈴木 敏勝

同 第四大区	第九十七大区
同 第五大区	第九十八大区
同 第六大区	第九十九大区
同 第七大区	第一百零一大区
同 第八大区	第一百零二大区
同 第九大区	第一百零三大区
同 第十大区	第一百零四大区
同 第十一区	第一百零五大区
同 第十二区	第一百零六大区
同 第十三区	第一百零七区
同 第十四区	第一百零八区
同 第十五区	第一百零九区
同 第十六区	第一百一十区

管下薩摩大隅之両国ヲ本庁直轄トシ日向一門ヲ宮崎支庁所轄ト相定候ニ付薩摩大隅之人民願同届等ハ總テ直ニ本庁へ差出ス可ク日向国一門ノ人民願同等ハ總テ宮崎支庁へ差出スベシ此旨布達候事

甲第四号

今般本庁直轄地及宮崎支庁所轄地ニ当分之内左之出張所ヲ設置シ帰順願及救恤願等其他細故之事件為取扱候条出張所へ可申出此旨布達候事

出張所位置

県庁

吉田	桜島	郡山
伊集院	谷山	重富
甑島	硫黄島	竹島
黒島		

以上十郷ハ県庁へ差出スベシ

加治木出張所

加治木	溝辺	横川
山田	蒲生	栗野

帖佐	吉松	清水
巖山	財部	踊
末吉	岩川	恒吉
福山	敷根	牛山
大村	佐志	黒木
蘭牟田	菱刈	太良

以上廿五郷ハ加治木出張所へ差出ス可シ

限之城出張所

平佐	高松
樋脇	永利
串木野	水引
長島	阿久根
高尾野	出水
山崎	宮之城
入来	鶴田

以上十九郷ハ限之城出張所ニ差出ス可シ

垂水出張所

新城	鹿屋
串良	牛根
大始良	高隈
始良	大根占
佐多	田代
市成	高山

以上十七郷ハ垂山出張所へ差出スベシ

知覧出張所

阿多	田布施
永吉	吉利
加世田	川辺
指宿	頼娃
今和泉	南方
	勝目

喜入

以上十六郷ハ知覧出張所へ差出スベシ

種ヶ島出張所

種ヶ島 屋久島 口ノ永良部島

以上三島ハ種ヶ島出張所へ差出スベシ

宮崎支庁

東第一大区 同第二大区 同第三大区

同第四大区 同第八大区 同第十三区

以上六大区ハ宮崎支庁へ差出スベシ

都ノ城出張所

東第十一大区 同第十二大区 同第十四大区

同第十六大区

以上四大区ハ都ノ城出張所へ差出スベシ

飯肥出張所

東第九大区 同第十大区

以上二大区ハ飯肥出張所へ差出スベシ

延岡出張所

東第五大区 同第六大区 同第七大区

同第十五大区

以上四大区ハ延岡出張所へ差出スベシ

出張所詰心得書ヲ仮定ス

出張所詰心得書

全管各所ニ出張所ヲ仮定スルハ乱後流離ノ人民ヲシテ就業ノ途ヲ得セシメ及ヒ上下ノ事情ヲ通暢セシムルヲ以テ主眼トス因テ提掌スベキ事務ノ要領ヲ左ニ表示ス各員其程規ヲ愆ル勿レ

第一

各区内ヲ時々巡視シ区戸長及ヒ一般士民ニ対シ公布及ヒ布達ノ旨趣ヲ明解シ朝意ノ在ル処ヲ遵守セシムベシ

第二

各区ノ孝子貞婦義僕其他ハ篤行アル者ハ之レヲ調査シ真確ナル行状

書ヲ作り具申スヘシ

第三

目下飢餓ニ迫ル者ハ成規ニ照シ救助スヘシ

但乱後ニ属シ尋常ノ成例ヲ以テ処置シ難キ事情アルモノニテ重大ニ渉ラサル分ハ一面之ヲ執行シ一面之ヲ本支庁ニ具狀スヘシ

第四

各区ノ動靜ヲ注目シ若シ時變アルヲ聞カハ速ニ警官ニ移牒シ尚本支庁ニ急報スヘシ

第五

人民ノ情願ヲ区长等ニテ压制又ハ推蔽スルノ弊アラハ区戸長等ニ親シク説諭シ其習慣ヲ改メシム

第六

婦順願出ル者アル節ハ婦順掛ノ駐在セル処ヲ命示シ或ハ便宜之レヲ受ケ付ケ願意ヲシテ通暢セシムヘシ

但出張所詰ニテ婦順掛兼務ノ者ハ婦順掛心得書ニ照シテ取扱フヘシ

第七

区戸長欠員ノ地ニ於テハ区长取扱ノ事務ヲ仮ニ兼掌シ及ヒ戸籍調査ノ補助ヲ為シ其他成規ニ照シ棄児ノ処分ヲ為セシ上ハ本支庁ニ具伸スヘシ

県令ヘ伺書

序下第三大区上町辺不殘兵火ニ罹リ該地居住ノ窮民ニ至テハ目下雨露ヲ凌クケ所モ無之其困難差向築地辺ニ救恤小屋先三ヶ所至急出来相成度畧図相添此段相伺候也 図面畧之

県令ヘ伺書

窮民救助小屋取設場所ノ儀戸長同道処々見分改候処上和泉屋町ノ病院焼失跡地坪凡千坪余ニ有之右者官地ノ儀故總テ障礙ノ筋無之下存候間木石等取片付着手候儀致度此段相伺候也

上町元練兵場ヘ

式ヶ所

下町豊民会社ヘ

西田町開物社ヘ

御用掛申付一ヶ月金三拾円給与候事

第二課申付候事

雇申付一ヶ月金六円給与候事

鬼界島詰申付候事

雇籍掛申付候事

本県鬼界平民

松村 豊

白根 大道

石川 辰一郎

石川 克

篠塚 基長

齊藤 義茂

星野 正談

山上 亨

坂元 澄実

小野 正尊

有村 基四郎

本村 幸輔

川崎 良助

真田 庵

大江 暹

内海 久次郎

島崎 正心

小野 修一郎

平山 国彦

三ヶ所

柴田 奎造

人員 二千八百二十二名
米 三拾二石三斗七升

六月廿八日 火曜日

川路大警視ヨリ掛合書

今般御県下ニ警視出張所設置ノ義ハ既ニ御叶議ニ及候得共猶又将来

舳櫓等之不都合無之様別紙之通予テ相定置度此段及御照会候也

追而別紙約条中御異論モ無之候得ハ参軍へ上申相成候様致度此段申添候也

六月廿八日

鹿兒島県下勘定ニ帰スル間特ニ警視出張所ヲ設置ス依テ岩村県令ト叶議シ左之条ヲ約定ス

第一条

警視出張中警察事務ハ一切警視ノ権ニ帰ス

第二条

警視出張中県庁第四課ハ閉止スベシ

第三条

警察執行ハ可成県令ニ協議スルヲ要ス

第四条

管下平定ニ帰スルニ随ヒ県令ニ叶議シ終此權ヲ復スルヲ要ス

川村参軍へ上申書

各旅団ヨリ不審之者看認候節ハ当県第四課へ拘引相成其末取調候得ハ全ク無罪ニ帰シ候者モ度々有之右等解放ノ際ニ至リ本人無印鑑之者ニテ線外へ通行不相調候故此レ迄巡查附添送り出シ居候延今殺諸口進軍ニ相成候ハ、右等之類一層相嵩可中敷一々巡查ヲ以護送為致候モ無人之折柄差支候ニ付自今疑數者ニ無之時ハ掛リ官員ヨリ左ニ記載之通り証書相渡候間各哨兵ニテ請取置通行御指免相成度此段申上候也

追而本文御指問之筋無之時ハ各旅団へ夫々御達置相成度添而申進候也

長四寸八分位

証 何某

此度限通行
御指免有之度候也

年 月 日

第四 官姓名印
課印

指令

書面之趣聞届各旅団へ相達置候事

明治十年六月廿八日

曾我少将ヨリ通知書

明午前四時出發左翼ハ蒲生吉田右翼ハ重富帖佐へ向ヒ進軍致候右ハ過日八等属坂本源ヲ以御依頼之趣モ有之候間及御通知候就テハ県官御差遣相成候テモ差支無之候条此段御通知旁申進候也

十年六月廿八日

別働隊第一旅団ヨリ通知書

今般当旅団ヨリ鹿野屋地方ニ出軍候ニ付而ハ其御庁ヨリモ御出張相成候テハ如何哉自然派出相成候儀モ候ハ、御同船可申候此段及御照会候也

十年六月廿八日

甲第五号布達

人民一般哨兵線通行之義ハ是迄其場所ヲ限リ差許候延以來鹿兒島近傍ハ哨兵線ト雖モ通行ハ勿論荷物運搬共差許候段從参軍本營被相達条此旨布達候事

但士族七十歳以下十歳以上之男子ハ是迄之通々行不相成候事

県令ヨリ各官員へ達書

官員出勤之儀当分間午前八時登庁午後五時退庁之事

但日曜日共休暇差留且事務繁多之節ハ本文ノ限ニ非ス

出水筋巡廻申付候事

重富帖佐筋出張申付候事

同

蒲生吉田筋出張申付候事

同

鹿野屋筋巡廻申付候事

同

桜島ヨリ帰庁

同

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三千九百六十名

米量 四拾三石五斗壹升

六月廿九日 木曜日

韃靼 宇都郡ニ救恤所ヲ設ケ之ニ飯シ或ハ飯米ヲ給ス

今夕庁下火ヲ失ス延焼頗ル多シ即夜救恤所ヲ三所ニ設ケ之レカ備

ヘヲナス此火午後第十時ニ起リ明州日午前第 時ニ燬ス焼失戸數

二千二百二十七其焼地ハ巻尾ノ図ノ如シ 失火ノ原ハ呉服町平民山口某

ノ宅ヨリスト云

川村参軍ヨリ達書

便船乗組之義ニ付別紙之通運輸局へ相達候条白今其県庁へ願出候者

有之節ハ直ニ同局へ照会之上可然可被取計此旨相達候也

十年六月廿九日

別紙

御用船当港ヨリ長崎其他へ出帆之節便乗願出候節ハ当營ニ於テ許可

致来候得共自今不審之廉無之者ハ都テ其局ニ於テ願意聞届便乗差許

候様可取計此旨相達候也

十年六月廿九日

川村参軍

運輸局長

柴司契殿

川村参軍へ申稟書

当県下ニ警視出張所ヲ被置警察事務之儀取扱候密ニ川路大警視へ協

議仕候ニ付当県下第四課当分之内閉止仕度右者其筋へ上申可仕当然

ニ候得共差懸リ候義ニ付御許可相成申間敷哉此段相伺候也

同之通

明治十年六月廿九日

林内務少輔ヨリ来翰

其県下那須地方為鎮撫御用掛真田庵外三人今般当地へ被差出候処右

ハ馬見原口并加久藤口両手ニ別チ官軍進軍跡人民説諭トシテ差向候

然ニ水股口ノ分人員不足ニ付尚両三名御差向相成度尤巡査ノ義ハ其

地ニテモ不足ノ趣ニ相聞候間其果巡査トシテ二百名当地へ向ケ派遣

相成候様電報ヲ以テ西京へ申通置候間着次第右ヲ以テ口々へ差向ケ

候積リ有之候此段申入候也

明治十年六月十六日

川路陸軍少將ヨリ来書

比志島村へ賊ノ手負又ハ士族等入込種々之妄説ヲ唱へ人民ヲ煽動ス

ル趣相聞候ニ付至急巡査御線出嚴察取締方有之度此段及御照会候也

明治十年六月廿九日

甲第六号及ヒ番外ノ布達ヲ揭示

甲第六号

管下賊徒共追々敗北致官軍既ニ出水地方へ相統キ候ニ付必速ニ平定

可相成尤平定之上ニモ海陸軍并ニ巡査等十分ニ御備之上管下人民保

護致候密ニ付再ヒ賊徒ニ迫ラレ候様之儀ニ決テ無之候間此旨相心得

一日モ早ク賊難ヲ免レ候様可致此旨諭達候事

番外

此程県下騒乱ニ付數千之人民松島ニ立退居候処近來家賃船等平常之

二三倍ニモ引揚諸人甚困難之趣相聞候一体立退之人民ニ於而ハ兵火

之為メ家屋ヲ焼キ或ハ器物ヲ損害東西奔走目下困難ニ差迫リ候者モ

不少已ニ県庁ニ於テモ救助等取計候折柄ニ付厚ク其状情ヲ察シ此際

不当之高利ヲ不貧人民相応之情義ヲ尽シ可申此段諭達候事

番外

今廿九日夜県下市街焼失ニ付目下雨露ヲ凌キ兼候者共ハ不取敢左之
旧学校三ヶ所へ寄宿差許可申候条早々同所可申出此旨相達候事

但右ニ付差向飢餓ニ迫リ候者共へ同所并汐見町救恤所ニ於テ焚出
シ之救助取計候条此旨可相心得候事

一広小路

旧広小路小学校

一下二官橋通旧知識邸

旧平小学校

一下樋之口旧勝林堂ノ後口

旧松原小学校

番外

今晚火災ニ付即今之折柄別シテ困難ノ者モ可有之仍而不取敢汐見町
元郵便局救恤所内ニ於テ焚出シ救助施行候条飢餓ノ者ハ早々同所へ
可申出此旨布達候事

県令へ伺

從來聖堂地下称シ來候地旧英語学校師範学校第三校等之家屋臨時病
院ニ相当之場所ニ付右病院へ御引渡相成度此段相伺候也

但本文御決議之上ハ來ル七月一日移転可仕見込ニ候間此段添テ相
伺置候也

当分帰順掛申付候事

吉田 為行

同

大石 卓郎

同

小林 広重

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 三千三百三拾六名

米量 三拾七石五斗零斗七合

六月卅日 土曜日

去ル廿四日武ノ丘ノ一戦ヨリ賊勢大ニ衰ヘ官兵線路日一日ヨリ進
ミ人民ノ帰順及帰住等願ノ者陸續跡ヲ接ス県官モ亦各所ニ派出シ
其説諭救恤等ノ事ニ軌章ス
救恤所ヲ武村ニ開設シ之ニ飯ス
太政官へ上申書

当県下ニ警視出張所ヲ被置警察事務之儀取扱候筈ニ川路大警視へ協
議仕候ニ付当県第四課当分之内閉止仕度然ルニ該件ノ如キハ最初伺
ヲ経候上可取計之処差掛リ候ニ付其旨当地征討本官川村参軍へ相伺
候処伺之通御聞届相成候付テハ当分之内該課閉止仕候仍此段上申候
也

大久保内務卿へ呈書

拜啓過日巡查御差向方請求ニ付四等警部柴太一郎ヲ以護々申上候末
御聞届相成候上ハ其進退指揮之儀ハ小官へ御特許被下度旨申上置候
処去ル廿五日川路大警視進軍着麗ニ付県当警備筋之儀追々示談ヲ遂
ケ候処県下一般平定ニ帰シ候迄ハ本県警察事務ハ總而警視局ニテ取
扱之事ニ叶議仕別紙写之通約定相整候間差向キ参軍へ相伺候処聞置
相成先回具状仕候巡查進退御特許之廉ハ御取消被下度此段申上候也
但本県警察事務警視局ニテ取扱候間第四課閉止之儀ハ別紙御届仕
候間御聞届被下度奉願候別紙ハ太政官へ上申書ノ如シ依テ此ニ署
ス

一当県ニ於テ汽船一雙拝借之儀兼テ相伺候御聞届相成尤其御ハ汽
船少ナノ儀ニ付追テ御廻シ可相成旨ヲモ拝承仕居候処此際各地官
軍進撃相成追々平定ニ属シ候郷村モ有之ニ付時々官員派遣為仕候
儀ニ御座候処何分海陸軍之運輸都合ヲ待テ便乗為致候儀ニ付若ク
ハ事機ヲ失シ候迄モ此上可相生ト深痛心仕居候次第ニ御座候且兼
テ申上候大島始各島へ官吏派出之儀モ遂ニ汽船之都合不相整ヨリ
只今以テ遷延罷在候事ニテ其不都合ニ付既ニ去ル廿七日付ヲ以テ
汽船御差廻方之儀申上候次第ニ御座候間此辺御洞察被成下至急御
差廻被下度比旨重テ奉願候

一兼而上申仕置候医師二十名之内京阪神へ御達相成候此度十名御差
廻同被下今卅口薦着仕候外十名之儀ハ東京へ御中越相成居候得共
地於テモ從軍之者多ク何分需ニ応シ候者無之ニ付云々至懇御下命
之趣敬承仕候県下之儀ハ此頃天然痘等モ流行仕其他赴任前召連候
医員之内モ不得止情実有之一時負傷者治療之為旅団等へ貸渡候程
之場合之処今度十名着麗ニ付テハ格別都合宜敷儀ニ御座候尚殘員

之儀ハ此上御并含被下置候様莫望仕候

一別紙不取敢御届仕候通昨廿九日午後九時三十分鹿兒島具服町ヨリ
出火折節南風有之市街凡三千戸斗一時ニ烏有ニ屑シ野上橋及広口
ニテ焼止リ今卅日午前八時比鎮火ニ相成候火根之儀ハ未詳候得共
開戦以來人民立退居候哨兵線内之儀ニ付尋常失火ニハ無之抔申唱
候得共未取留儀ニ御座候間相分リ候上ハ尚委細可申上候兼テ当地
巨多之家屋兵燹ニ罹リ候儀ニ御座候又々前頻ノ次第ニテ數千人
ノ不幸ヲ生シ実ニ遺憾之至ニ御座候尤御規則ニ照シ夫々救恤等取
計居候儀ニ御座候黒田少佐届京ニ付不取敢此旨申上候再拜別紙此
ニ欠ク

有馬中秘史ヨリ來書

賊徒又谿山辺へ囂集候哉之報知有之現今其累官係同所へ派出相成居
候事ト存居候何歟急報トモ有之候哉尤別ニ当方ヨリ探偵人差遣置候
得共差向及御問合候也

六月卅日

同回答書

賊徒又谿山辺へ囂集候哉之報知有之云々御問合之趣致承知候昨日ヨ
リ救恤等之儀モ有之同所へ官員差向ケ居今朝モ派遣候処末々何等之
急報モ無之候ニ付相分リ候上ハ可申進候且御探偵上相分リ候儀モ有
之不苦義ニ候得ハ官員出張中之義ニモ有之候間御通知有之候様致度
御回答旁此段申進候也

乙第二三号及ヒ丙第一二号ノ布達ヲ揭示ス

乙第二号

昨夜以來火災ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者ハ御規則ニ照シ左ノ四ヶ所ニ
於テ救恤可取斗候条直チニ同所へ可申出此旨布達候事

一吉野橋近傍

入来院邸

一千石馬場

諏訪甚六郎

一新屋敷中通リ

今井邸

一沙見町

元郵便局

乙第三号

昨夜以來火災ニ罹リ目下雨露ヲ凌兼候者ハ御規則ニ照シ小屋掛料可
借渡候条速ニ県庁へ可申出此旨布達候事

丙第一号

詮議之次第有之海岸通船舶出入及ヒ男女之別ナク各哨兵線通行相禁
候旨征討本営ヨリ被相達候条此旨布達候事

丙第二号

男女之別ナク總テ各哨兵線出入相禁候旨今朝布達候処右ハ士族七十
歳以下十歳以上ノ男子ヲ除ク之外海岸通行船舶出入及諸人通行差許
候旨征討本営ヨリ御達有之候条此旨布達候事

但夜中通行之儀ハ相禁候事
県令へ伺書

鹿兒島県士族谷山郷旧戸長

同

同

右ノ者賊徒ニ与ミシ谷山郷ヨリ出兵セシ賊中ノ巨魁ナルモノニテ方
今立戻リ潜伏致シ人民へ対シ官軍ノ為ニ使役セラレ候者ハ悉ク妻子
迄可殺杯其他浮言ヲ吐キ人民ヲ鼓動シ加之立去候殘賊へ窃ニ塩菜
ノ仕送抔致候聞有之其者捕縛致候得ハ人心一定ノ場合ニモ運ヒ自然
皆從ノ徒モ從テ帰順可致見込有之候間巡査十名出張リ右賊徒ヲ捕縛
致シ人民ノ方向一定致シ度此段相伺候也

任鹿兒島県士等屬

同

当分戸長心得申付一
ケ月金五円給与候事

救恤取扱所五ヶ所合計

人員 二千八百四十名

米量 三十一石七斗五升

鹿兒島県臨時本病院六月份患者月表

入院患者

頭及肩胛部打撲

胸部銃創

松田東園

松田弥左衛門

佐藤幸内

神保龍玄

堀興憲

士族 平田郷兵エ

男一人
男一人
男一人

背部鉗創	男一人
腰部鉗創	女一人
上膊刺傷	男一人
上肢鉗創	男一人
下肢鉗創	男二人
下肢刃創	男一人
右ノ内	五月滯院三人 本月新入七人
總計	男九人
退院	十人内 女一人
全治	男一人
半治	
死	
滞在九人内	男八人 女一人
外来患者	
内科諸病	
腦諸病	
腦充血	男一人
右男一人	
神經系諸病	
顏面神經痛	男一人
依卜昆娃兒	男一人
併私的里	女一人
肋間神經痛	女一人
頭痛	男二人
上肢神經痛	男一人
胃神經痛	男一人
齒痛	女一人
	男一人

腰部神經痛	男一人
右十一人	男八人 女三人
呼吸器諸病	
鼻加多兒	男七人 女一人
喉頭加多兒	男十一人
慢性氣管支加多兒	男一人
慢性肺加多爾	男二人
肺結核	男一人
鯁血	男一人
喘息	男一人
右二十五人	男二十四人 女一人
血行器諸病	
神經性心悸亢盛	男二人
右男二人	
消化器諸病	
齒齦弛緩	男一人
齒齦小瘍	男一人
急性胃加多示	男五人
慢性胃加多示	男三人 女一人
胃瘻	男三人
消化不良	男十三人 女一人
腸加多示	男卅人
便秘	男五人
疝痛	男一人
蛔虫	男一人
痢疾	男四人

痔血	女一人
肛門瘻爛	男一人
右七十一人	男六十八人
生殖器諸病	女三人
尿道狹窄	男一人
軟性下疳	男三人
睪丸炎	男三人
麻疾	男三人
右男十人	
汎発諸病	
癩麻質斯	男四人
間歇熱	女二人
第三期梅毒	男一人
梅毒性頸腺潰瘍	男一人
橫痃	男一人
梅毒性骨膜炎	男一人
腺病性上膊腐骨	男一人
下肢水腫	男一人
右十六人	男十二人
流行性諸病	女四人
質扶斯	男二人
右男二人	
皮膚諸病	
疥癬	男四人
黒癬風	男一人
エクゼマ	男一人
右男六人	

外科諸病	
腫瘍類	
面部潰瘍	男一人
右胸部膿腫	男一人
背部膿腫	男一人
左胃部膿腫	男一人
右男四人	
眼諸病	
急性結膜炎	男四人
結膜弛緩	男一人
タラコマ	女一人
右六人	男五人
耳諸病	女一人
外聽道炎	
右男一人	
外傷	
肩頭打撲	男一人
胸部打撲	男一人
上肢打撲	男一人
臀部打撲	男一人
下肢打撲	男二人
下肢挫傷	男二人
左眼結膜刺傷	女一人
下肢刺傷	男一人
上肢銹創	男一人
下刺銹創	女一人
拇指小疵	男一人
背部火傷	男一人

心臟擴張	右三十一人	男二十七人 女四人	男一人
血行器諸病			
喘息		男一人 女一人	
慢性肺加答兒		男三人	
氣管支加答爾		男一人	
喉頭加答兒		男二人	
鼻加答兒		男二十人 女三人	
呼吸器諸病	右十五人	男七人 女八人	
齒痛		男五人 女三人	
依卜昆堙兒		男二人	
併私的里		女四人	
坐骨神經痛		女一人	
神經系諸病	右女二人		
半身不隨		女一人	
癰瘤		女一人	
腦諸病			
內科諸病			
外科患者			
櫻島假病院患者月表	總計百七十二人內	男百五十八人 女十四人	
上肢火傷	右十七人	男十五人 女二人	男一人

潰精	右十一人	男十人 女一人	男一人
疥疾		男七人 女一人	
軟性下疳		男一人	
尿道狹窄		男一人	
生殖器諸病			
慢性腎臟炎	右男一人		男一人
泌尿器諸病	右五十八人	男四十二人 女十六人	
蛔虫		男一人 女二人	
肝臟炎		男一人	
黃疸		女一人	
胃口痛		男一人 女二人	
下痢		男八人 女一人	
疝痛		男一人	
慢性腸加答兒		男七人 女二人	
急性腸加答		男五人	
消化不良		男八人 女一人	
慢性胃加答兒		男三人	
急性胃加答兒		男四人	
慢性舌炎		男一人	
消化器諸病	右男一人		
汎發諸病			

瘰癧質私	男二人
貧血	男一人
腺病	男三人
梅毒骨痛	男八人
梅毒性咽喉潰瘍	女二人
遺伝梅毒	男一人
	女一人
右二十人	男十五人
	女五人
流行性諸病	
痘瘡	男一人
麻疹	男一人
第扶私	男一人
右男三人	
皮膚諸病	
エクゼマ	男十九人
	女五人
疥癬	男五人
癩風	男三人
疣	男一人
右三十三人	男二十七人
	女六人
外科諸病	
腫瘍類	
膿腫	男九人
	女一人
乳頭潰瘍	女一人
臀部潰瘍	男一人
右十二人	男十人
	女二人
眼諸病	

角膜炎	男二人
	女一人
結膜炎	男十六人
	女十三人
虹彩炎	女一人
眼瞼炎	男二人
右三十五人	男二十人
	女十五人
耳諸病	
外耳炎	男三人
右男三人	
外傷	
上肢銃創	男一人
下肢銃創	男一人
面部裂傷	男一人
手指切傷	男一人
肩頭打傷	男一人
火傷	女一人
右六人	男五人
	女一人
總計二百三十壹人内	男百七十一人
	女六十人
鹿児島本病院及桜島仮病院相合シ	
總計四百〇三人	
内	
男 三百二十九人	
女 七十四人	
当六月中 各種用件ニテ此地哨兵線通ハ願ノ者	二百七十九人
同 同 此地ヨリ長崎へ便船乗組願ノ者	三十九人
同 此地へ帰住願ノ者	三十八人
右ハ其出願ノ都度參軍本営ニ伺テ之ヲ許可ス	

明治十年七月分

鹿児島県日誌

第四